

会 議 錄

会議の名称	令和7年度第3回つくば市生涯学習審議会		
開催日時	令和7年10月27日（月） 開会午前10時 閉会正午		
開催場所	つくば市役所 201会議室		
事務局（担当課）	教育局生涯学習推進課		
出席者	委員 武田 直樹委員（会長）、小森谷 さやか委員（副会長）、 石川 由美子委員、石塚 一夫委員、黒崎 博委員、 後藤 真紀委員、鈴木 朱里委員、田中 秀夫委員、 田中 依子委員、中嶋 修委員、長橋 進也委員、 萩原 武久委員、福井 正人委員、山崎 誠治委員		
その他	森田 充教育長		
事務局	久保田 靖彦教育局長、柳町 優子教育局次長、澤頭 由紀子 生涯学習推進課長、山口 健次参事、瓜阪 恵理名課長補佐、 松橋 千栄係長、小宅 剛主事、大久保 竣介主事		
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
非公開の場合はその理由			
議題	(1) 計画名称について (2) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画（案）について (3) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画 成果指標について		
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 計画名称について (2) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画（案）について (3) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画 成果指標について 4 そのほか 5 閉会		

1 開会	
事務局（瓜阪補佐）	<p>皆様、おはようございます。</p>
	<p>本日はお忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。まず机上に、本日の資料と、生涯学習推進課が関係しているイベントなどのチラシを配布させていただいております。どうぞ御確認ください。では、ただいまから令和7年度第3回つくば市生涯学習審議会を開会いたします。</p>
	<p>つくば市教育局生涯学習推進課の瓜阪と申します。本日司会をいたします。よろしく御願いします。</p>
2 挨拶	
事務局（瓜阪補佐）	<p>初めに、教育長の森田から皆様に挨拶申し上げます。森田教育長よろしく御願いします。</p>
森田教育長	<p>皆さんおはようございます。大変お忙しい中御集まりをいただきまして本当にありがとうございます。</p>
	<p>本日、第4次生涯学習推進基本計画について議論いただくわけですが、これまでの皆様のワークショップやこの集まりによって大変素晴らしい提案ができているのではないかと思っているところです。本当に皆様にはこれまでも熱心な議論をいただきまして本当に心から感謝申し上げたいと思います。今日の審議会を終われば計画案の方をパブリックコメントにかけるということになります。その後またパブリックコメントをもとに議論いただくわけですが、完成までもう一息なのかなというところで、ここまで本当に長くいい会議でしたけれども本当にお世話になったなと思っています。もう一度、見直してみるといろいろ気が付くこともあるかと思います。パブリックコメント前の大事な議論となりますので、皆様には忌憚のない御意見を頂戴できればというふうに思いま</p>

	<p>す。どうぞ本日はよろしく御願いいたします。</p> <p>3 議事</p> <p>事務局（瓜阪補佐） 続きまして、次第の3議事に進みます。議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例の規定に基づき、武田会長に議事を進めていただきます。本日の出席委員は14名で、委員の過半数が出席しておりますことを申し添えます。また、本審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき、公開といたします。それでは武田会長御願いいたします。</p> <p>（1）計画名称について</p> <p>武田会長 会長の武田です。おはようございます。よろしく御願いいたします。早速議事に入ります。議事（1）計画の名称について、こちら事務局から御説明を御願いいたします。</p> <p>事務局（松橋） では早速ですが、議事（1）計画の名称について、前回まで、現在策定中の計画の名称は（仮称）がついた第4次つくば市生涯学習推進基本計画と表記していました。本日の審議会、つまりパブリックコメントの実施前のタイミングで、次期計画の名称を決定したいと思います。第3次計画に続く計画ですので、第4次つくば市生涯学習推進基本計画という名称にしたいと思います。本日以降、この策定中の計画については、（仮称）を外した「第4次つくば市生涯学習推進基本計画」という名称で表記します。なお、パブリックコメントでは、名称に（案）をつける形になります。以上です。</p> <p>武田会長 ありがとうございます。ただいまの件につきまして、異議のある方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>（挙手なし）</p> <p>では、異議なしということで、御提案いただいたタイトルでいけ</p>
--	---

	<p>ればと思います。</p> <p>(2) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画（案）について</p> <p>議事（2）は、第4次つくば市生涯学習推進基本計画（案）についてです。資料1の冒頭から説明をしてもらいますが、進め方としまして、まず第1章と第2章の説明の後に、意見や質問をいただき、次いで第3章と第4章、最後に第5章と資料編という流れでいければと思っております。では事務局の方から御説明御願いします。</p> <p>議事2では資料1、資料2、資料3を使います。</p> <p>今までの審議会でお出ししていた資料をまとめたものが資料1、計画書本編になります。資料2は概要版となります。本日机上にて配布とさせていただきました。前回の審議会の後、修正した資料について、委員の皆様からいただいた御意見につきましては、資料3にまとめております。該当の箇所に来ましたら御紹介いたします。</p> <p>また、つくば市教育委員、社会教育委員にも現段階の計画案を照会し御意見の募集を行いました。なお、長橋委員は社会教育委員も兼任していただいておりますが、重複しますので御送りしておりませんでした。教育委員からの御意見も、該当の箇所にきましたら御紹介いたします。</p> <p>資料の説明は以上ですが、パブリックコメントと先ほどからお話をしている内容について簡単に御説明をさせていただきます。本日はパブリックコメントを実施する際の資料の確認ということですが、簡単に申しますと、市の条例や計画策定の際に、市民から意見を募集するのですが、こちらは市民の市政の参加と市民に対する説明責任を果たすといった目的があります。なのでこちらの計画の方も、確定の前にパブリックコメントを実施するという流れになっております。資料1の計画書本編と資料2の概要版を公表し、市民から</p>
--	--

の意見の募集をこれからするというふうになります。

最初に、表紙から第1章、第2章について説明いたします。資料1の表紙は本番と同じデザインとなっています。つくば市の各種計画はこのデザインに統一となっております。パブリックコメントに出す際のタイトルは計画案となります。表紙の記載について訂正ですが、対象期間の終わりの年は、令和13年度となっていますが、正しくは12年度です。2030年度という表記は合っているのですが、令和12年度までになります。失礼しました。

次に、表紙をめくっていただくと、はじめに、となり、市長の挨拶となります。パブリックコメントやその後の審議会を経て内容が確定しましたら挨拶文を作成し挿入いたします。

次のページは目次となります。第1章から第5章、資料編という構成となっています。1ページから第1章計画策定の趣旨となります。2ページが1-1計画策定の目的、3ページは生涯学習とは、と、本計画における生涯学習びの定義の説明になります。教育委員の和泉なおこ委員より御意見をいただきましたので、パブリックコメントの際には次のように本編に反映したいと考えております。修正箇所は3ページの2段目です。本計画における生涯学習の学びの定義というところの、最初の行になります。「本計画における「学び」とは、自らの知識や技能を高めるものに加え、学びを伝えることにより伝えられた側が学び、自身もさらに学んでいくこと」という文章のところについて、学びを伝えた側自身というのが誰のことかというのがわかりにくいとの御意見だったので、「本計画における「学び」とは、自らの知識や技能を高めるものに加え、学びを他人に伝えることにより伝えられた側が学び、学びを伝えた側自身もさらに学んでいくこと」と文言を加える形で修正したいと思いま

	<p>す。</p> <p>次の 4 ページが 1 - 2 計画の位置づけ、1 - 3 計画の期間、5 ページが計画策定にかかる基本的な考え方です。基本的「な」と訂正します。概要版では、2 ページ目の前半に計画策定の目的、計画の位置づけ、計画期間を抜粋して掲載しております。</p> <p>続いて、7 ページ目から第 2 章生涯学習推進をめぐる現況と課題です。8 ページから 2 - 1 生涯学習を取り巻く社会潮流ということで、8 ページが国の動向、9 ページが県の動向、10 ページが市の動向となります。次の 11 ページが課題の整理です。社会潮流、市の状況、アンケートやワークショップからの市民意向、第 3 次計画の取組状況からの課題をまとめております。市の状況、市民意向、第 3 次計画の状況の詳細は資料編にあります。</p> <p>ここは、第 3 次計画の「施策の柱」ごとに整理されており、11 ページが多様な学びの実現、12 ページが誰一人取り残さない生涯学習、13 ページが地域で学び合う生涯学習、14 ページが「社会力」を持った人材の育成となっています。第 1 章、第 2 章については以上です。</p>
武田会長	では、ただいまの件につきまして御意見御質問がございましたら、挙手にて御願いをいたします。
石塚委員	12 ページの、一番下の方の赤丸なのですが。「参加の障壁をなくす観点から、今まで参加が難しかった方々が～」という記載はいいのですけども。それと同時に、今まで参加されていた方が、引き続き参加が難しくなることがないような方策も必要かと思います。というのは、ハード面になると思うのですが、例えば、交流センターとかで生涯学習を学んでいって、ある程度（の年齢）になったらば、2 階に上がるのが大変になり、途中で止めなくちゃならないことが

	多いんです。ですので、実際、ただ単に参加がしやすいようにすると同時に、これから今学んでいる方が、いかに継続して、学べるかという方策というのもまた、難しいことかもしれませんのが大事なことじゃないかなと思います。
武田会長	ありがとうございます。他ございますでしょうか。ただいまの石塚委員の御意見に、重ねる形でも結構です。
小森谷副会長	石塚委員のおっしゃりたかったことは、施設のハード面のお話というふうに聞こえたんですけど。2階に上がれなくなる、確かにそういうお声は私も聞きます。
石塚委員	生涯学習のこの基本計画にはちょっと外れるのかなと思いますけども、一番大事なことじゃないかなと私は思ったので発言しました。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
黒崎委員	先日、谷田部交流センターと図書館を併設したところに、参加させていただいたんですけど、確かに2階にありますよね。エレベーターとか、今現状はない施設なんですかね。そういういた2階にあるような施設はつくば市にまだ他にもあるのかなと。今度の11月1日、2日は、市民文化祭があって、その打ち合わせで、高齢者の方もたくさんいらっしゃっていたんですけど、2階に上がるには大変なんじゃないかなという方々もいらっしゃっていたので、そういういたまさにハード面ですよね。その場所に赴けるというのは、大前提だと思うので、そのような施設づくりというのをしていただければなと思います。
武田会長	ありがとうございます。そういう精神面のことにプラスして、ハード面でも、参加しやすくなるようにというようなところで、どこか付け加えていただければと思います。他はいかがでしょうか。

	<p>では後程まとめて最後にまた時間を取りたいと思いますので、次に進んでいければと思います。続きまして第3章、4章を御願いいたします。</p> <p>事務局（松橋）</p> <p>15ページから第3章です。タイトルが計画の基本的考え方となつておりますが、基本的「な」考え方と改めます。</p> <p>次の16ページは3-1基本理念です。基本理念については9月に御送りした資料の中に説明を入れましたが、「学びを楽しみ 学びがめぐり 学びでつながる 幸せのまちつくは」の案で決定させていただきます。学びがめぐり、学びでつながるという表現で、地域の中で世代や性別、障害の有無、国籍などを超えて学びの成果がめぐり、学びをいかすことによってさまざまつながりを生み出していくことを表したいと考えます。概要版では2ページに基本理念を掲載しています。</p> <p>続いて、次の17ページが基本方針で、基本方針1と基本方針2の説明となります。教育委員の和泉先生から、つくば市の生涯学習計画における独自性として、「社会力」が鍵になるため、「社会力」の定義を冒頭で示したほうが読み進める上でよいのではとの御意見を頂戴いたしました。御意見のとおり、計画の基本理念や基本方針を理解するためには、「社会力」についての説明が必要と考えまして、この16ページと17ページのどちらかに、「社会力」の定義について改めて挿入する予定です。</p> <p>次の18ページからは基本目標の説明になります。基本方針1に対応する基本目標1は誰一人取り残さない学びの充実、基本目標2は学びを支える環境の充実となっています。19ページでは基本方針2に対応する基本目標3は気づきとつながりを育む意識づくりの推進、基本目標4は学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の</p>
--	--

推進、次の 20 ページに基本目標 5 の持続可能な学びとつながりの好循環の創出となっています。

次の 21 ページが 3 – 4 計画の体系ということで、基本理念、基本方針、基本目標、施策の方向性、つくばの学びの未来像に広がっていく体系図を掲載しています。概要版の 3 ページにも体系図を掲載しています。

続いて、23 ページから第 4 章施策の展開となります。基本目標の実現に向けた、事務事業などの取組をまとめています。ページの構成としては、基本目標 1 つに対して見開きページとなっており、左側が基本目標の説明文と施策の方向性、関連する写真、右側が方向性ごとの説明と主な取組を掲載します。8 月の審議会での資料では、基本目標ごとに成果指標を掲載していましたが、最後の 5 章にまとめております。最初の 24 ページと 25 ページは基本目標 1 です。施策の方向性が、多様な学びの充実、参加機会の拡充、主体的な学びの促進となります。9 月に御意見を募集した際に頂いた御意見で、25 ページの 1 段目、施策の方向性 1 の文章について、武田会長より御意見をいただき、修正を行いました。次の 26、27 ページが基本目標 2 で、施策の方向性は、学びの情報提供・相談体制の充実、市民が集う学びの場の充実となります。こちらの 1 段目施策の方向性 1 の説明文について、黒崎委員から御意見をいただき、こちらも修正いたしました。施策の方向性 2 の方も、溝上委員から御意見をいただき、主な取組の中で修正を加えました。次の 28、29 ページが基本目標 3 で、施策の方向性は「社会力」への気付きを促す取組の充実、地域や地域のつながりを知るための取組の充実となります。次の 30、31 ページが基本目標 4 で、施策の方向性は学びの成果をいかした活動の支援・促進、「社会力」を発揮できる多様な人

	<p>材の育成となります。次の 32、33 ページが、基本目標 5 で、施策の方向性は、共に育てる学びのネットワークづくり、地域で学び続ける仕組みづくりとなっています。33 ページの施策の方向性 2 のタイトルが誤っておりました。正しくは地域で学び続ける仕組みづくりです。概要版では、4 ページ 5 ページが基本目標 1 から 5 の施策の展開をまとめています。</p> <p>次が 34、35 ページでつくばの学びの未来像となります。こちらの 35 ページのライフコースなどについて、教育委員の和泉委員からは、3 つのステージ、マルチステージがライフステージを固定的に捉えさせてしまうのではという御意見でした。文章だけだとわかりにくいため図をつけていますが、この図は一例ですといった注意書きを足したいと思います。次の 36 ページからは未来の物語となります。37 ページでは青少年、38 ページが働く世代、39 ページが子育て世代、40 ページが障害者、41 ページが高齢者のリタイア前からリタイア後の物語となります。概要版では、6 ページ 7 ページにそれぞれの学びのきっかけを紹介して本編へ誘導する形で掲載しています。</p> <p>3 章・4 章の説明については以上になります。</p> <p>武田会長 ありがとうございます。3、4 章に関しまして、前回の委員会で集中的にやったところではありますけども、御意見御質問ございましたら、どうぞよろしく御願いします。</p> <p>小森谷副会長 例えば 29 ページの施策の方向性 2 の下の主な取組のところで、ゼロカーボン教育啓発事業というふうに、具体的に書いてあるのを見まして、それでしたらぜひ今年つくば市でネイチャーポジティブ宣言をしましたので、この前の自然環境教育事業とかぶってる部分はあるのかなと思うんですけどぜひ、宣言をしたのですからネイチ</p>
--	--

	<p>ヤーポジティブっていう言葉を入れる。もしくは、サーティバイサーティ (30by30) 、ネイチャーポジティブじゃなくても、つくばの自然を地域の皆さんに知っていただいて、つくばならではの自然を残していく。それからネイチャーポジティブなのでもっと積極的にグリーンを残す政策を進めていかなくてはいけないということです、ネイチャーポジティブって言葉を入れていただくと取組が進みやすいのかなというふうに思いました。この、基本目標の3に当たるのかどうかも確かではありませんが、ゼロカーボンが入ってるのとここなのかなと思って、提案をしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局（松橋）	<p>こちらは環境の部署の方からこういった事業をやりますということで、提案させていただいたところで、まだゼロカーボン教育啓発事業も、今年度はまだ検討段階で、今後実施する予定の事業ということで話は聞いております。こちらの表記については担当課の方と相談してみようと思います。</p>
武田会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。
長橋委員	<p>24ページ以降のところ「写真が入ります」とあるんですが、もしよろしければどのような写真を入れる予定なのかお聞かせいただけないでしょうか。</p>
事務局（松橋）	<p>まだ具体的にはこちらの写真を選んでいる段階ではないんですけども、一応この方向性を、表しているイベントの写真とか、そういうのを考えてはおります。</p>
石塚委員	<p>27ページの、一番下の主な取組の最後に、おひさまサンサンフェスティバルってあるんですけど、こういう事業あるんでしょうか。私は、おひさまサンサン生き生きまつりじゃないかと思うんですけど。</p>

事務局（松橋）	生き生きまつりもそうなんですけれども、こちらは障害福祉課と、高齢福祉課が共同で実施していて、サンサンフェスティバルの方は、障害の方のイベントの名前かなと思います。
石塚委員	おひさまサンサン生き生きまつりは障害者と高齢者のお祭りですよね。
事務局（松橋）	事業名としてこれは誤ってるものではないので、こういった表記もあります。
石塚委員	それはおひさまサンサン生き生きまつりというのを追加しているんじゃないかな。2、3日前にやったんですけど、1,000人近くの障害者と高齢者が集まって運動会をやったんですから、結構、大きな事業だと思いますよ。
事務局（松橋）	ありがとうございます。
石塚委員	私の認識違いかもわかんないですが、24ページの、この挿絵のコメントなんんですけど、「障害のある人もない人も一緒に楽しめるイベントがあるのがいいわね」と、これでいいのかもしれないんですけど、例えば、この女の子がお話するんでしたら、「イベントがあるのっていいわね」とかいう感じの方がいいんじゃないかなと、単純に思ったんです。もし、長いのであれば、「イベントがあるのがいいね」でいいかと思うんですけど。
武田会長	では御検討いただければと思います。
田中（秀）委員	私はもう1つの文化芸術審議会にも出てるんですけども、私からすると、文化芸術とかスポーツというような部分が少しおきてるような感じするんですね。例えば25ページの一番下、施設みたいなもんを考えますと、文化芸術関係の教室の充実っていうようなものも入れて欲しい。なお全体を見て文化芸術に対しては、配慮が弱い。それで私はなぜそんなこと言うのかっていうと、スポーツも

	<p>含めて、リタイアした人の大部分は、楽しみで来てるんですよね。リタイアした人たちは大体人口の四分の一ぐらいいるんですよ。その人たちは人生を楽しむために生きている。そういう意味で、何か学ぶって言って入っちゃうと、堅くるしくて面白味がないなっていうのが私の全体の感想です。やっぱり楽しみを学ぶって最初に書いてあるんですよね。私はそういう意味で、文化芸術なんかについても例えば教室を充実するっていうようなものが欲しい。後ろの方でも、そんなところがいくつかあるんです。市民にとって、生涯学習とか、文化芸術なんて差別ないですから。特に文化芸術についての箇所をいろいろ配慮していただきたい。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。御検討いただければと思います。他いかがでしょうか。</p>
黒崎委員	<p>33ページ、施策の方向性1とともに育てる学びのネットワークづくりの下の主な取組の欄に“R8メイト”という、つくば市の周辺地域の人のネットワークを作る会議が、つくば市でやってるので、ぜひ加えていただけるといいなと思いました。</p>
事務局（松橋）	<p>こちらは主な取組の周辺市街地活性化協議会の運営支援がそれに当たります。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。他いかがでしょうか。</p>
長橋委員	<p>33ページの施策の方向性2について、非常にここは大事な部分だと思うんですが、文章が短いので、何かいいのがないかなと考えていました。1つコミュニティ・スクールというのは非常に重要なものなので書いていただきいて良いと思いますが、もう1つ学校・大学・研究機関・企業といった部分について、もう少し書けないかなと思っています。</p>
	<p>自分自身も研究所に勤めているんですけども、つくば科学フェ</p>

	<p>ステイバルやつくばちびっ子博士といった取組は、他の場所にも書いてあるんですけれども、子どもたちにそういう研究の場を知ってもらって、興味を持つてもらって、というところで、我々も力を入れて考えているので、その辺りも少し絡めて書いていただけるといいかなと思っています。もう1つのコミュニティ・スクールに関してなんですが、先日PTAの長野大会がありまして、長野県教育委員の伴先生のお話を聞く機会がありました。伴先生はコミュニティ・スクールアドバイザーという立場で、コミュニティ・スクールを推進している方で、その取組の中で、学校、小学校の空き教室を高齢者の方のお茶飲み場として開放するということをされているそうです。そこに高齢者の方が日々集まってきて、学校という場なので何か学びたいねというところで、1つご紹介いただいたのが、リコーダーを皆さんで練習し、今度は子どもたちと一緒にリコーダーを学んで、発表していくっていうようなものでした。実はつくば市で開催したワークショップでも高齢者の方が同じようなことをおっしゃっておりまして、小学校をお茶飲み場のような場所にできたら素敵だなという話があったんですけども、セキュリティの問題から難しいんじゃないですかっていうことを僕が言てしまい、無理だねっていう話になってしまったことがあります。でも実際にそういう取組が長野でされているということであれば、つくば市でもぜひやっていただきて、学校をもっと地域の人が入りやすい場にするということもコミュニティ・スクールの取組の1つだと思いますので、そういったことを取り入れていただけるといいのかなと、すごく感じました。以上情報としての紹介です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>27ページの施策の方向性2というところで、市民が集う学びの場</p>
武田会長	
萩原委員	

	<p>の充実というのがあるんですけれども。単体で何かをやっていても、やること 자체が、生涯学習につながっているということもちろん考えられるんですね。でもそれをさらに発展させるためには、生涯学習推進課が、図書館や市民交流センターとかスポーツ施設とか、そういうところでやるいろんなイベントなり事業に対して、生涯学習というものの働きかけみたいなものをするかどうかにかかっていると思うんです。意図しないところで何かと生涯学習に結びついてることってたくさんあるんです。でもそれを意図的にやるためにには、そのつながりを、あるいは働きかけをしていただくことが、さらに生涯学習を拡大することになるし、充実させることになると思いますけれども、その働きかけをどうなさるかということも含めて考えていただくことが大事じゃないかなと思います。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。他、いかがでしょうか。</p>
黒崎委員	<p>萩原委員のお話は本当にそうだなと思って。最近ダンボールコンポストっていう取組をつくば市でやっていまして、僕も今自宅で段ボールコンポストをやらせていただいているんですけど。あれ自体も、実際はごみを減らすっていう取組で、その中には微生物だとか、燻炭と呼ばれるお米のもみ殻を炭にしたものだとか。そういういた理科の教育の場所にもなっているなと思って。これもある意味1つの生涯学習なんじゃないかなと自分もとらえてやっているんですけど。これも、そういうものが多分個々に散らばっているんじゃないかなと思うので、普ッシュするような取組があると、自分が生涯学習に取り組んでいるんだという、マインドになっていくんじゃないかなと思うところです。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。他はいかがでしょうか。</p>
	<p>そうしましたら、私の方から20ページと32ページ、仕組みとい</p>

	う言葉が何回か出てきていますけど、例えば 20 ページ目標 5 の、説明文のところのしくみづくりですね、ここはひらがなで、そのあと、施策の方向性の仕組みが漢字ですので、統一いただければと。最終的に漢字とひらがなの組み合わせを調整していただければと思います。では他いかがでしょうか。
田中（秀）委員	家で予習でもしようと見ていたら、31 ページ、32 ページと 33 ページが抜けているのかな、資料が。他の人どうですかね。今日配られたやつには直っていた。そういうことがなければいいのだけども。
武田会長	少々お待ちください。今日は直っています。他いかがでしょうか。
山崎委員	私は社会福祉協議会のボランティア連絡協議会をやっているんですけども、全体的に、ボランティアっていう言葉がほとんど入ってこない。もちろん市としてやっていただくことも大事なんですけども、やっぱり市民と一緒にいろんなことに関して関わっていくっていうボランティアがたくさんありますんで、その辺りがもうちょっと出てこないのかなっていうのは 1 つすごく思いました。あと、39 ページに、有償無償ボランティアっていう言葉があるんですけども、当初ボランティア活動というのは無償が当たり前という言葉で広まったわけなんで、ただで働けばボランティア活動みたいない言い方だったんですけど、今は全く違うとらえ方というのが、ボランティア精神というもので動くことがまず基本であって、有償か無償かというのはむしろ関係ない。ボランティアをやっている人って、ご飯を食べるわけですし。電車にも乗るわけですし、それをこの無償とか有償という言葉で分けるというのは、今僕が関わっている中では、非常にイレギュラーというか、むしろ前時代的という感じがすごくします。この有償無償ということは、本当はやめて欲し

	<p>いと思うぐらいです。だからもっと精神的なものとして、何かを楽しむとか、勉強するということが全て一緒になっているので、それはもう本当に市だけでやることじゃなくて、市民全員がこういう形で動いていく。というのも、既に御存知だと思うんですが、つくば市はボランティア数が多いんです。多分日本でトップクラスだと思っているんですけども、こういうところにせめて一緒にやっていきましょうというのは出て欲しいなというのが読んでいた中ですごく思いました。検討いただければと思います。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。これは有償無償も取っちゃえばいいってことですよね。普通にボランティアというふうに。御検討いただければと思います。</p>
田中（依）委員	<p>直接この文章的なこととは違うんですけども、私も地域交流センターをいろんな角度で利用しながらも、やっぱりメンバーが少なくて終わつたものもありますし、本当続けていくのが難しいこともあって、さっきのハード面のこともあるし、またそういう交通機関のこともありますし。そういった中、秋の広報に交流センターの募集があり、今回からネットによる申し込みも始まり、私もネットで3つ申し込んだんですけど全部落ちました。意外と応募する方が増えたからなのかなと思いますけども、初めて申し込んだ方も、そういうことが続していくとよろしくないので、そういう募集での仕組みというか、いろんなニーズに応えていくことも大事で、また、つくば市としては春と秋の交流センターでの行事は生涯学習のきっかけとしてすごく大事だと思うんです。現実問題としてわかっていただいた上で文章のどこかにでも、何らかの形で反映できればいいかなと思いました。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。他いかがでしょうか。</p>

	<p>では最後、5章と資料編御願いします。</p> <p>続いて、5章と資料編の御説明をいたします。43ページから、第5章となります。こちらは、計画の推進です。44ページが5-1計画の進行管理と推進体制、45ページが5-2成果指標と目標の設定となります。こちらの内容については次の議事(3)で行いますので内容については割愛します。</p> <p>続いて、次の47ページから資料編となります。第2章の課題の整理の元データとなっています。</p> <p>また、パブリックコメントの資料では掲載はしませんが、完成版では、計画策定の経過、審議会の条例、審議会委員の皆様の名簿などを、資料編に掲載する予定となっております。以上になります。</p> <p>ありがとうございました。ではただいまの件につきまして御意見御質問を御願いいたします。</p> <p>54ページの、③市民ホール、つくば市合併以前に各町村にあった圏民センターの「圏」は、この「県」ではないと思うんですけど。県の施設じゃないんで。私が小さいときに、圏民センターがあつてこんな漢字じゃなかつたなと思うんで。</p> <p>あと各地域交流センターの利用件数の推移っていうのを載せていただいてるんですけど、他にもいろんな施設が載っていて、そのコミュニティ棟はどういう部類に入るのか、地域交流センターと同じように皆さんすごく利用されていると思うのですが、すごい人気があって、愚痴を言わせて欲しいのが、先ほども言ってたんですけど、会議室が2階にある交流センターが多くて、お年寄りの方もそうなんですけど、まず車椅子だと使えない。コミュニティ棟はすごくありがなくて、使わせていただいています。ただし人気があるので、そこが使えない場合には別の場所をすごく探して、東光台体</p>
事務局（松橋）	
武田会長	
後藤委員	

	育館の会議室を借りたりとかもしてるんですけど、ちょっと古い施設なので車椅子のユーザーにとっては使いやすい施設ではないと言われるんで、頑張って受け付けの日に並んだりしています。あと、ここには体育館も載せないのかなと思ったんですけど、生涯学習で体育館を使うことも多いと思うので、私とかからすると、地域交流センターと体育館は同じような位置付けにあって、逆にノバホールとかつくばカピオとかは、何か催しがあったら行くけど、自分たちの集まりなどで使うにはイメージが遠いなと思った。コミュニティ棟と体育館については、どういうふうに位置付けてお考えかなと思いました。
武田会長	事務局の方いかがですか。
事務局（松橋）	コミュニティ棟については盲点で、考えてなかつたんすけれども、会議室としての使用だったりするので一般の方の利用者数とか、そういうデータがあるかどうかは担当課の方に確認をしたいと思っています。あと体育館（体育施設）は各小学校中学校を一般開放しているというものです。1回ずつの利用者数とかはとっておらず、年に1回その利用のスケジュールを、予約を一斉にするという形でやっているので、利用はされているけれども詳しい状況についての統計はないので、施設数だけとなっています。56ページ、スポーツ施設の利用者数は公園・施設課、スポーツ施設課の方で管理している有料分の利用については、統計があるため載せているという形になっています。そして学校の体育館の方は、無料なので統計がとれていないという形です。
後藤委員	スポーツ施設の利用者数が56ページに載っているのに、最後の施設一覧には、スポーツ施設は載ってないということですか。
事務局（松橋）	こちらは施設の数が多すぎるので、割愛させていただいたところ

	ではあります。
後藤委員	施設一覧があると、つくば市ではこれしかないよ、と取られたりしないかなと思ったので。小学校以外のスポーツ施設、そんなにいっぱいあるんですね。ネット予約が出てくるスポーツ施設であれば、東光台体育館とか、大穂体育館とか、筑波総合体育館とか、そういうイメージだったんで、そんなにあると思わなかつた。
事務局（松橋）	スポーツ施設の表記、一覧の扱いについては検討していきたいと思います。
武田会長	ありがとうございます。
石塚委員	学校の体育館なんですけども、現実的には、申し込みをしてもお借りできないのが現状と私は理解しているんですけど、何回か御願いしたけど、ほとんど使ったことがないです。前に使う人がいるとか、いろいろな理由あるんですけど、その日、見に行ったら、ちゃんと空いているんです。いろいろと学校の関係で仕方のないことなんんですけど、ここに学校の体育館利用を載せるとなると、なかなかハードルが高いんじゃないかなと私は思います。
武田会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。
福井委員	ちょうど自分は教育現場（高等学校）にいるんでよくわかるんですけど、44ページの、PDCAって、多分近所のおばちゃんたちに聞いても絶対にわからない。このPDCAっていう用語自体（を使用するの）は楽なんですが、リスニングとか、ウェルビーイングとかつて注釈が書いてあるところに同じように注釈として書かれるべきと思いました。あと、注釈の記入の仕方について※印でリスニングが2回出てきているのはおかしいと感じました。もしつけるのであれば（番号を）前半に出たものに統一する。公にするものなんで統一されたほうがいいのではないかという意見です。

武田会長 中嶋委員	<p>ありがとうございます。他いかがでしょうか。</p> <p>全体的に私は概要版の方が見やすい、本編は内容が多すぎて理解しにくい。なので、この概要版ぐらいの内容で十分なのかなということで見ているのですが、概要版の3ページには基本方針1の誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進という言葉と、2の地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進と入って、その下にまず説明みたいなものが概要版には入っているので、概要版に入っているこの部分を、本編の方にも入れてはどうかというのが1つの意見です。</p> <p>2つ目は、計画はもう見事にでき上がってますか、これだけのものをきちんとできれば計画においては十分なので、私は具体的な取組でどういう事業をやっていくかっていうことが重要なんだと思うんですよね。この目標を実現するために、主な取組がいろいろ書いてありますがここをどう考えるかと。特に「社会力」を育みというこの基本方針2の実現を目指していく上では、特に新規事業といいますか、新しい方策をいくつか組んでいかないと、今やっている事業だけでそれが実現するのかなという思いがありますので、これは、担当課の仕事なんだろうと思いますが、特に新しく4次計画において新しい事業を考え出して欲しいと思います。その上で、今までやっていたものは無印で、何か新しく起こした事業は、○に新のマークを入れるとか、第4次のために起こした事業は何々ですみたいな、区分けして入れて欲しいというようなことを、2つ目に思います。</p> <p>3つ目は、概要版の8ページですけど、計画の推進体制というこの最後の図面があります。左側に市民、点線の括弧で、上部の生涯学習推進本部、これ、生涯学習推進課ですよね。我々の生涯学習審</p>
--------------	---

	<p>議会、今やってることの報告等がありまして、その下の欄に事務局があつて、今度は市役所の中にその他の部署が関係してるわけですがいろんな部署からの事業があるので、この下の部分の計画が大事でそれが今度は市民に展開すると書いてあります。展開はしていくんでしょうけども、実際、市民が何かやったことが、「社会力」を育むっていうことにつながっているのか、何か動いてきているのかっていう反応を事務局なり市がきちんと捉えないと、ということだと思います。ですので、この辺の推進体制のとらえ方っていうか、事業を新しく起こしかるいは今までやってたものを進め、それが市民にやって見せたら、どういう良いことが起こったとか、起こらないとか、っていう部分をもっとしっかりとしていかないと、計画ありき、事業もやってるんだけど、市民には届いていない、ということが私は起こると思いますので、そのところを第4次においては少しでも踏み込めていければいいのかなと思います。</p> <p>それと今日コーディネータ養成講座第3回という案内をもらいましたけども、「どなたでも参加いただけます」とある。だけど先着30名って書いてあって、これ矛盾していますよね。やっぱりある程度やりたい人に参加できるような方法をとっていかないと、やりたくても、どうせ切られちゃうんだろうっていう思いを持っている人もいるような気がするので、やる方は制限しなくちゃならないんでしょうけども、何かそういうところから生涯学習のいろんな事業とか講座も改善できるのではないかと思うところです。</p> <p>武田会長 ありがとうございます。</p> <p>田中（秀）委員 今日の審議会委員の顔を見てみると、シルバー会の会長、福祉団体の会長、文化協会の会長、スポーツ協会の会長、つくば市ボランティアの推進というような形で、錚々たるメンバーが出ていまし</p>
--	--

	<p>て。例えば私のところでは 600 名から 700 名会員がいるんですよね。シルバー会でも、相当の人数がいて、実際に社会で活動しているんだよね。うちの 600 名は 1 年間フルに活動している。その力と、この生涯学習審議会の先生方の力を含めていくと、もっと立派なものになると思うんです。逆に言えば、つくば市の定年を過ぎた人は研究員よりも会社員が多い。未来の物語の研究員のモデルはすごくいいモデルだけども、会社員の人のモデルみたいなものが出でこないかなと思います。だからこそもっと、この審議会の力を發揮できるのはいろんな協会の会員。700 人とか 1,000 人とか、みんな大きな活動してるんですよ。せっかく、この審議会にそういう先生方が出ておられるんだから、それぞれが所属する会の活動も背景にしてやっていくと、もっと大きな力を發揮できるんじゃないかなと。</p> <p>だからさっきの中嶋さんが言われたような形で、現実的に動かすためには、むしろここに出ている先生方の力を大いに利用していただいた方が市としての活動や審議会の力みたいなものが、皆さんに発表できると理解していただけるんじゃないかなということです。</p> <p>他いかがでしょうか。</p> <p>25 ページの施策の方向性の主な取組のところで、乳児学級と幼児学級の開催ってあると思うんですけど、そこに付け加えて家庭教育学級の方も入れていただけるといいのかなと思いましたので、御願いします。</p> <p>ありがとうございます。他はいかがでしょうか。</p> <p>そうしましたら、続いて議事（3）成果指標について、こちら事務局から御説明御願いいたします。</p> <p>（3）第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画 成果指標について 成果指標については資料 1 の 44 ページ 45 ページと資料を使って</p>
--	---

御説明いたします。

まず、資料1の44ページの5-1が(1)計画の進行管理となつております。こちらは毎年、主な取組の事業の進捗評価をしていき、施策の方向性ごとに施策の評価を出し、その評価から基本目標ごとに総合的な評価を行い、次年度の取組に反映させていきます。成果指標の達成度については5年に1度、第4次計画では令和11年にアンケート等で、達成度を図ります。こちらの本文はもうちょっとすっきりした文章に変えたいと思っております。

次の(2)の計画の推進体制ということで、先ほど中嶋委員からもお話ありましたが、生涯学習推進本部や生涯学習審議会において進行管理の評価を行い事業に反映させていくという流れになります。そして先ほど話がありましたが、市民がどのような反応を示したかを、成果指標で図っていけるのではないかと考えております。そちらが45ページの方で、5-2の成果指標と目標の設定となります。こちらについて、成果指標をこの内容で設定した基準としてはこの計画を進める上で市民にどのような意識を持って欲しいか、どのような変化をしていって欲しいかというねらいと、結果が明確にわかる指標を選んでおります。そのため基本目標ごとではなく、基本方針ごとの大きな枠でとらえることが必要と考えました。

基本方針1は、誰もが自分らしく学べる生涯学習の推進、基本方針2が、地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進となつております。こちら45ページの、左側に番号が振っております。上から2つ、1番、2番では生涯学習に取り組んでみたい人の割合と、実際に取り組んだ人の割合を生涯学習に関する市民意識アンケートでとっております。そして、こちらは生涯学習に取り組みたい、実際に取り組んだかを指標にします。

続いて、基本方針 2 に関するアンケート指標として 3 番、4 番、5 番、6 番で、「社会力」がそれぞれの中に育まれ、社会の変化が起きているかを指標にしています。

最後の 7 番が、計画全体の評価として、生涯学習のつくば市の政策の評価を入れております。

そして、指標を用いるねらいということで少し詳しく説明したものが資料 4 となっています。順番に上から見ますと、一番の生涯学習に取り組んでみたい人の割合、こちらも市民アンケートで、第 3 次の目標値は達成されています。第 3 次の目標、元の数値が 78.1 % から 81.9 % と上がっており、引き続き、生涯学習に取り組んでみたいと思う人を増やしていきたいということでこちらを指標にしました。続いて 2 番の実際に取り組んだ人の割合になりますが、こちらも第 3 次の目標値は達成されており、57.9 % から 65.0 % となっていました。指標の 1 番では取り組んでみたいと 81.9 % の人が思っていますが、実際に取り組んだ人は 65.0 % にとどまっており、16.9 % の差があります。取り組んでみたいと思っても取り組めていない状況があるということかと思います。実際に取り組んだ人が増加すれば、きっかけの提供や環境整備の施策に対する効果があつたという評価になると想え、こちらを入れました。

続いて 3 番の自分の学習成果で社会に貢献した人の割合については、第 3 次の策定の際にも、評価と成果指標を入れておりますがこちらは、現況値よりも下がってしまっています。49.6 % から 44.1 % になっていました。こちらは引き続き社会に貢献したいと考える人を増やしたいと思い、成果指標に目標を入れております。続いて、4 番は学びの成果をどのようにいかしているか、いかせると思うかという質問で、地域や社会での活動にいかしている、またはいかせ

ると選択した人の割合です。こちらは第3次の方では入れてない指標ではありますが、市民意識アンケートの方で質問をしております。このアンケートを見ますと、自分の学びの成果が、地域や社会での活動にいかせると思う人が少ないよう感じました。学びが、地域と社会での活動とつながっていないと思いますので、地域や社会での活動にいかそうと思う人が増加すれば施策の効果があったといえると考え、こちらも指標に入れております。

5番目は地域や社会を良くするため何かしてみたいと思う児童生徒の割合ということで、こちらはアンケートではなく、毎年国が実施している全国学力・学習状況調査の方で回答している児童生徒のアンケートの中に入っているものになります。こちらは毎年項目として入っていましたので、計画の成果指標に利用していくことも、いいのではないかということで入れております。

こちらは、なぜ児童生徒のアンケート結果を取るかについては、次世代のリーダーとなるために子どもや青少年の時期から地域や社会に关心を持つてもらいたいと考えたためです。

続いて6番目が、地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合で、こちらは生涯学習に関する児童生徒用のWebアンケートになります。こちらも、地域の人から何か教わることや、一緒に何かに取り組む活動が活発になっているという結果が、このアンケートから図れるのではと考えました。第4次計画の考え方の核となる世代間の交流や地域とのつながりを生む施策について、こちらの数値が上がることで、効果があったといえるのではないかと考えます。

最後に、計画全体の評価として、つくば市、つくば市民意識調査ということで、市の方で毎年行っている意識調査のアンケートにな

	<p>ります。こちらの中にも市の政策のうち、生涯学習に満足、どちらかといえば満足な人の割合を上げていきたいと考えております。こちらは、第3次の策定時にも入れている目標ではありましたが、当時の現況値よりも、令和6年の数値が下がてしまっていますので、こちらも計画全体の評価として上げていくことで目標にするため、成果指標に入れております。以上になります。</p>
武田会長	ではただいまの件につきまして御意見御質問御願いいたします。
山崎委員	<p>実はこういうアンケートっていうのは、ボランティア活動やっていろんなイベントやる方達にも出すんです。例えばイベントコンサートがあり、それに対して満足でしたかっていう質問をするんですけども、今、自分がやってる活動では、満足でしたかって質問はするなって言い方をしているんですね。むしろ、どこが満足じゃなかったのかということを挙げてもらう。数字だけではなくて、よくあるのはすごく満足したとか、みんな大体満足したしか丸つけないじゃないですか。だから、そういう質問をしても無駄だよっていう話をよくするんですけれども。僕はこのアンケートを見ないで、勝手に言ってるんですけども、むしろ満足しないんだったらばどの点が満足しなかったのか、例えば、情報がうまく伝わってないとか、イベントをやっても参加できる人が少なかったとか、なぜ満足できなかつたかっていう点を明確にしないと、むしろこの数字を上げていくっていうのは難しいんじゃないかなと個人的には思っているんです。その辺は市の方はどのように考えられてるのか。</p>
事務局（澤頭課長）	<p>山崎委員大変ありがとうございます。確かに参加した人は楽しみできているので、大方満足だろうなっていう想像はつくところで、足りない部分ですか、次どうしていったらいいかっていう部分に主眼を置いて、次へつなげるようなアンケートそのものの工夫を、</p>

	<p>これからは重ねていかなければならぬのかなということで、今理解いたしました。</p> <p>他いかがでしょうか。</p> <p>多分、今までの計画で指標にしてきたものと、その現況値に書いてあるようなものとの整合性をとつていかなくちゃいけないということで、こういうのを見ていくしかないというのは理解するところなんすけれども。せっかく、今回新たに上がっております、リカレント教育とか、リスクリソースっていう言葉もありますし、市内の研究所とか企業とかと連携していこうっていうような話もありますので、今までの指標ではチェックしてなかつた項目で今回の計画で取り組んでいくということに関しては、サブ評価指標みたいな形で入れられないのかなと。ですが、難しいですかね。おそらく、年次のそのアンケートの市民意識調査なんかで、担当課の方はちゃんとチェックされるんだと思うんで、今回の新たな取組についても、どのような取組ができたかっていうようなことも振り返ると思うのですが、この計画で見れた方がいいので何かポイントだけでも、今回新たな挑戦をしていくわけですから、そこをちゃんと評価できるようにしていかないともったいないなというふうに思いますので、何かしら御検討いただけたらと思います。</p> <p>ありがとうございます。先ほど中嶋委員からありましたように計画を作つて、その後が大切だよね、どちらへんと一緒なのかなっていうふうに聞かせていただいておりまして、今回第3次からの継承ではあります「社会力」について特に注力してこの計画を進めていきたいと思っております。リカレント教育やリスクリソース、研究機関との連携、その他に「社会力」などにも焦点を当てて、どういった形かは今のところ具体ではないんですが、ポイントや意識などそ</p>
武田会長	
小森谷副会長	
事務局（澤頭課長）	

	<p>ういったところを図れるように工夫して取り組んでいきたいと思います。</p>
武田会長	ありがとうございます。
鈴木委員	<p>6番目の「地域の人から何か教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合」っていうところなんですけれども、学校の授業や課外授業での体験なども含むって書いてあるのにこの数字ってすごい低いなと感じる部分があって、割と、どこの学校もそういった出前授業だとか研究所の方からいろいろ授業を受けているものかと思ってしまうんです。そういうことを考えると子どもたちにとっては、地域の人から教わってるんだっていう感覚があまりないのかなっていう気がしてしまった。こちらはしていても、子どもたちに伝わってなかったり、子どもが何かそこから学び終えたりしてなければ、そもそもその「社会力」っていうものが次世代につながっていかない部分があるのかなって思いますので、子どもたちにもちゃんとわかるような、働きかけなどについても考えていっていただけるといいのかなと感じました。</p>
事務局（澤頭課長）	<p>学校の先生も今までによそから人が来て、何か教わるっていう意識でとどまつたのかなというところもあるので、それが地域の人ですとか、自分と関わりの深い人だっていう認識を子どもたちに持つてもらうことも必要だと思いますので、生涯学習推進課で進めている理念とか考え方が、学校の教育現場でも理解していただけるように、学校ともいろいろ調整を図って進めていきたいと思います。</p>
武田会長	ありがとうございます。
田中（秀）委員	<p>他いかがでしょうか。</p> <p>私が以前申し上げた提案で、今回2030年までの計画の中に、定年前後の教育システムを何とか取り入れて、新しい出発にしたらど</p>

うかと。実際皆さん、ここで働いてる方にも定年後何やるのって聞いたらほとんどの人が答えられない、今から考えておかなきやいけないことなんだけども考えてないですよね。そういう状況はすぐ来るんですよ。特に女性は社会的に馴染んでるからあんまり苦労しないけど、男の人は1回家に入っちゃうともう社会に出られない。私の友人の大学の教授などはほとんど家にこもっちゃっているんです。彼らに手を差し伸べることは、社会的なニーズに合っていますし、実はすごい能力持ってるんですよ。ところが家にこもってほとんどしゃべらなくなっちゃうと、1年2年じゃなくても、声が出なくなっちゃう。特に学園都市と言われている世界でも知られているつくばこそ、そういう人たちを社会に積極的に出す。ここに書いてあったマルチステージモデルがすごくよく、今後の提案でその中にどういう出口があるかっていうとシルバークラブがあつたり、文化芸術だったりスポーツがあつたりって、現実にはそういうところにほとんど行ってるんですよ。そういう人々は。例えばその人々が社会的に楽しんで学んで、余裕が出てくると老人ホームなどに行って、そこで歌を歌って指導したりといったこともよっちゅうやってるんです。だからこそ、つくば市の特色としてこの5年の期間で、定年になった人たちをいかに社会で使うか、その人たちを眠らせないで、社会に出て、働いてもらう、楽しんでもらう。という意味で提案したけど1つの計画も立ててくれてないし、そのつもりもないのかどうかわかんないけども。何か一言でもそういうのを残してもらいたいなというふうに思ってたんだけども、残念でしょうがないんです。だから私は何度も言うけれどもこの今後のマルチステージモデルという新しいすごく良い区分が直に、生涯学習でいかされるものであってほしい。そのためにはスポーツやシルバー、文

	<p>化芸術っていうところと、一緒にやることによってもっと素晴らしいものができるんだと思うんだけども、定年前後の人たちに何を教育するかって社会性を学ばせる。部長、課長や教授、助教授とか、どちらかというと一般社会にはなじまない人をなじませる、そういうチャンスを作ってはいかがですかという提案をしたんだけども、5年後までの計画の中に入ってないとなると残念です。</p>
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
長橋委員	<p>アンケートの目標値なんですけれども、1とか3とか5っていうのは最終的に100%になって欲しいっていう思いでこういう計画を作っていて、現実的に難しいので多分50%80%っていう数字になってるんだと思います。それに対して2とか4とか6っていうのは、これは最低でも、やりたいと思ってるところに近づけたほうがいいのかなと思っています。具体的には1が85%であれば2も85%とか、3も50%なら4も50%とかっていう数字にした方が、より現実的っていうか、思っている目標に近づくのかなという気がするので、検討していただけするとありがとうございます。</p>
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
田中（依）委員	<p>特に4番ですよね。今も目標値もすごい低くて、でもいかし方がわからないとか、すべてがわからないからこういう値になってるだけで、そこを上げていくためにこの生涯学習審議会をやってるわけなので、目標値が20%というのは余りにも低いのかなって思います。ここを上げていくためのいろんな施策をやっているっていうことを考えても、ここの書き方とかアンケートの取り方によっても違ってくるのかなって思いますので、検討の余地があるかなと思いました。</p>
石塚委員	ただいまのアンケートのことなんんですけど、一般的に企業なんか

	<p>だと、営業目標とかいろいろ目標を立てますけども、例えば今年度の目標に対して、100%を達成するような目標を立てたんではちょっと、目標設定が甘いという設定になるわけです。それで、大体70%が80%達成するくらいが、目標設定としていいわけです。先ほどお話があったように、簡単に言っちゃえば20%とか40%とかやる気がないと同じなんです。だから、目標の設定ってのはかなり難しいものなんで、20%の目標を市民の方が見るとやる気あるの？となっちゃうわけです。だから目標設定ってのはわかんないのは当然なんですけど、ある程度の心づもりをして、簡単に数字をつけないで、検討した方がいいと思います。</p>
武田会長	ありがとうございます。他はいかがでしょうか。
後藤委員	<p>3番と7番は、現況値よりも下がってしまったっていうのがわかるんですけど、1番と2番は目標値が達成されているのが78.1から81.9ってこれ78.1が目標値じゃないですよね。その前の現況値ですが78.1が目標値だったら、意味がわかるんですけど。目標じゃなくて、2番もそうなんですけど、あと目標値を書いてもらうか、第3次の現況よりは達成されているって書くのはおかしいかなと思います。</p>
事務局（松橋）	<p>ここの書き方が足りなかつたんですけど、資料1の70ページのところに、第3次の取組状況ということで成果指標の達成状況が、まとめてあります。こちらには計画時の現況で、令和元年度2019年度が、先ほどの1番だと78.1%だったのに対し、目標値を80%にしようという目標を立てておりました。実績アンケートをとった結果、81.9%ということで80%の目標は達成されたということになります。なので、こちらの資料4の方では、実際の数だけしか載せてなかつたので目標値が足りませんでした。</p>

武田会長	他いかがでしょうか。特にないようであれば、目標値をどこに置くかっていうところが、今議論のポイントだと思いますので、その辺りまた改めまして御検討いただければと思います。では全体通してでも何かございましたらぜひ御願いいたします。
福井委員	パブリックコメントはおそらく、スケジュール的に年度末近くになるものかと思ったりもしております。ただし個人的には毎回どれもすごく少ないっていうのが印象にあるんです。何のためのパブリックコメントなのかなっていうのは、正直思っているところです。スケジュール的に年度末は一般的に忙しいので仕方ないと思う反面、自分は2年前に障害の計画に関わらせてもらったこともあるんですけど、障害の方って、かなり多いんですパブコメって。その他がどうかは知らないんですけども。自分の前いた市と同じく非常に少ない、多くて3人、これ何のためのパブリックコメントなのかなって思ったりもします。だから、今の時点でわかる範囲で、どのように進めていくとされているのかを教えていただきたいのと、多分3次とか2次の時もパブリックコメントを実施したと思うんですけどその際の状況とかどうだったのかなと素朴に思いました。
事務局（松橋）	最後の方でお話しようと思っていたんですけども、パブリックコメントの期間と、あと実施方法についてここでお伝えしたいと思います。第4次計画のパブリックコメントの実施期間が、今年の12月8日月曜日から1ヶ月間で、翌年、1月7日の水曜日までという期間で実施する予定になっております。実施方法は市のホームページに意見募集のページを作成する他、窓口センターや、地域交流センターなどの窓口に計画案などを設置しまして、意見を募集するという形になります。前回の第3次の際は人数としては21名の方から御意見いただいて、意見は65件あったということになります。

	<p>多分教育に関しては皆さん関心が高いので、結構多く来るのかなというところではあります。</p> <p>武田会長 ありがとうございます。</p> <p>石川委員 第4次計画の中の12、13ページあたりに書いてあることなんですが、そもそも誰1人取り残さない生涯学習ということに対して、ものすごく地域で活動している中で、いろんなことに誘ったり、いろんな手腕を使って、接触をしたりしても、なかなかそういう活動に参加してもらえないのが現状なんですね。もともとの地域が農村地帯で、団地のように人がたくさん集まっているところではあります。こここの地域で学び合う生涯学習の中に、最初の「社会力」をつていうところにも学びを地域へと広げていくことを意識した取組ってあるんですけどもこれは、本当に大きく書いていただかないとい、農村地域の方では、読まない人もいるかもしれないんですが、さらっと書いてあるんですね。ただ「社会力」とかそういう言葉が飛び交ってるだけで、自分たちの生活の中にそれが全然位置付けられてないというか。そういう意識の低さもあるのかもしれません。だからこういう大きな、誰1人取り残さないと掲げるんであれば、端から端まで、そななんだと思うような、言葉を入れて欲しいなって思ってます。これはもう本当に大枠で目標であるんですけども。実際問題こういうふうにやっていければこうなるんだよっていうこともよく読めばわかるんですが、言葉だけが載ってるだけで、素通りしてしまうような印象を私は受けます。だから、「社会力」とかそういう言葉も大事なんですが、地域に広げるっていうところの、言葉をもっと膨らましてもらって、残るような文章をたくさん載せていただきたいなと思っています。</p> <p>武田会長 ありがとうございます。他、いかがでしょうか。</p>
--	---

石塚委員	<p>私はシルバークラブのつくば市の会長なんんですけど、会員は市内で5,500人くらいです。それで、大穂とか谷田部とか、各地区でいろんな事業もやっていて、私は茎崎地区なんですが、茎崎地区にシルバークラブの会員では1,300人くらい。それで、年に何回か、例えば大会とか、いきいきシルバー教室だとかを市の交流センターとか、運動公園とかでやります。前は、シルバークラブの会も、若い人が入んなくて高齢化しちゃったんですね。というのは移動手段がなかなかなくて、例えば、70歳くらいで入った方は結構動いてたんですけど80歳くらいになると、子どもさん方に免許返上と言われて車での移動ができなくなってくる。そうすると例えば、茎崎運動公園で事業をやるにしても、あちこちから、大体200人くらいずつ集まってきたから、そこに集まってくる手段が大変になってくるわけです。現実に、つくバスも全体的には回りませんから。会員の元気な方が送迎はしてるんですけど、これまた高齢者が運転ですから、時間の問題もあるし、今一番、シルバークラブで大変頭を痛めてるのは移動手段なんです。それがないために（活動が）だんだん先細で、せっかくの楽しみが減っちゃうというようなことが多くなってきたんで、ちょっと意見とは違うんですけど、お話をさせていただきました。</p>
武田会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。
萩原委員	<p>5の報告書の中にはありますように、全体評価で市の政策のうち、満足度が30%だっておっしゃっていたんだけれども何人満足していて、何人不満足なのかというのが、大体わかんないんですよね。でも、市民の皆さんのがやっていることによって生涯学習に結びついてることが多分いっぱいあるんですよ間違いない。そういうものがつながってくれればきっと評価をされるんですね。先ほど福井委員が</p>

おっしゃったように、私もスポーツ協会の会長やっていろいろなイベントをするんですけれども。参加人数は1つの指標ではあるんですね。いろんなイベントや事業に大勢の皆さんのが参加してくれば、それは成功ではある。でもそれは一部でそれが全てじゃないんですね。皆さんのが今委員会でやっているような、参加をして楽しかった。生涯にわたってこれをやっていこうと思っているかどうかへつながってくると思うんですよ。そこへつながる仕組みが今、どこもみんな途切れてしまっているんですよ。各々の部や課でいろんなことをやればいいんじゃないのという時代は過ぎたように思います。今この審議会で提案されていることも、野球で言えば、ファールになったけれども、ヒット寸前まで来ているんですよ。そのヒットがホームランになるかはどこにどういうふうに仕掛けていくかにかかっていると思います。めちゃくちゃおいしいところまで来ています。先ほど申し上げたように、ただ環境、場所をつくれば数字が上がるか。数字は上がるでしょう。でも皆さんのが本当に楽しかったとか、よかったですとか、それを生涯にわたってやっていこうというふうに思ってもらえるように仕向けることだと思います。その仕向方が、単体ではなくて、スポーツ部門だとか文化芸術だとかと生涯学習って結びついているんじゃないですか。例えばスポーツも今、「社会力」がめちゃくちゃ要求されています。「社会力」って簡単に言えばスポーツの世界では、やるべきときにやるべき場所について、それをひるまず、躊躇しなく、瞬間的にやるプレイヤーがすごい選手だって言われているんですよ。社会人の中でも一緒ですよ。そういうことを含めて、市でそれぞれに何か投げかけるんじやなくて、そこに投げかけたものを通じて対話していただければそういう溝が埋まつてくるんじゃないのかなと思います。そして、この

	<p>評価も、おそらく市民の皆さん一人一人が、生涯学習と結びついているということを発表していくことじゃないんでしょうか。それがきっと、市民の皆さんに対して行政の役割を果たすことにつながっていくんじゃないかなと私は思います。</p>
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
田中（依）委員	<p>4番の20%のことで考えても13ページをもう1回読み返したときに、こここの課題bのところでも、「社会力」がいかされた地域になっているかわからないっていう人が5割いらっしゃるっていうこととか思ったときに、今言われたのも関連しますけど、本当にさっき「社会力」っていう言葉の定義も事務局の方からも入れたいっていうお話も最初あったんですけど。その辺の認識がまず変わっていくこととか意識することからこここの%の目標値っていうのも、上げていくことにつながっていくのかなって思いました。</p>
武田会長	<p>ではお時間にもなりますので、本日の議題はこれで終了とさせていただきます。いろいろと忌憚ない御意見いただきまして、大変ありがとうございました。事務局の皆さん改めて御検討の方、よろしく御願いいたします。</p> <p>では、議事進行を事務局に戻させていただきます。</p>
4 その他	<p>(パブリックコメントの期間・実施方法については議事内で説明済のため割愛)</p>
事務局（澤頭課長）	<p>本日も大変様々な御意見をいただきましてありがとうございました。いただいた意見の中ですぐにできるものでとか検討すべき事項とか、出てきたかと思っております。誤字ですとか注釈、あとは「有償無償ボランティア」の表現の仕方などすぐに修正できるものは対応させていただきたいと思っております。また、ボランティ</p>

	<p>アですとか、芸術文化そして基本目標5のところの「社会力」の記載が少し足りないかなという御意見いただきましたので、そこは足させていただきたいと思っております。また施設一覧の表記の仕方や、第4次で新たに取り組むべき事項について新規という表現ができるのか、あとは目標値につきましては、少し検討をさせていただいてまた皆様にお示しをさせていただければと思っております。</p> <p>この計画の策定の目的は全序的に取り組んでいきたいなと思っておりまして、計画策定後は、市民の皆様とともに、アンケートなどで生涯学習に対する意識について把握しながら、計画を実のあるものにしていきたいと思っております。萩原委員の方からもファールとヒットの境目だよねっていうことをお言葉いただきまして、単体で行っている活動をこれから全序的、そして全市的につながりを持たせていく役割が、まさに生涯学習推進課の役割なのかなと思っております。ここを念頭にしっかりと持ちながらこの計画を策定し、また策定した後も、皆様の御意見をいただきながら満足度の高いものに仕上げていきたいなと思っております。大変ありがとうございました。</p> <p>5 閉会</p> <p>事務局（瓜阪補佐） では、以上をもちまして、令和7年度第3回生涯学習審議会を閉会いたします。次回会議の開催時期ですが、つくば市役所において、年明け2026年2月中旬頃を予定しております。パブリックコメントの結果を反映させたものを御提示することになると思います。なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様に確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしく御願いいたします。では委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。</p>
--	---

令和7年度第3回つくば市生涯学習審議会 次第

日時 令和7年（2025年）10月27日（月）

午前10時

会場 つくば市役所 201会議室

1 開 会

2 挨 捶

3 議 事

- (1) 計画名称について
- (2) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画（案）について
- (3) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画 成果指標について

4 そのほか

5 閉 会

【配布資料】

- 資料1 第4次つくば市生涯学習推進基本計画（案）
- 資料2 第4次つくば市生涯学習推進基本計画概要版（案）
- 資料3 意見一覧
- 資料4 第4次計画 成果指標について
- 資料5 つくば市生涯学習審議会条例
- 資料6 つくば市生涯学習審議会委員名簿

第4次 つくば市 生涯学習推進 基本計画(案)

令和8年(2026年) 月

〔対象期間〕

令和8年度(2026年度)から
令和13年度(2030年度)まで

はじめに

(市長挨拶後日挿入予定)

目 次

第1章 計画策定の趣旨

1-1 計画策定の目的	2
1-2 計画の位置づけ	4
1-3 計画の期間	4
1-4 計画策定に係る基本的考え方	5

第2章 生涯学習推進をめぐる現況と課題

2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流	8
2-2 課題の整理	11

第3章 計画の基本的な考え方

3-1 基本理念	16
3-2 基本方針	17
3-3 基本目標	18
3-4 施策の体系	21

第4章 施策の展開

基本方針1 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進	24
基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実	24
基本目標2 学びを支える環境の充実	26
基本方針2 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進	28
基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	28
基本目標4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進	30
基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	32
つくばの学びの未来像	34

第5章 計画の推進

5-1 計画の進行管理と推進体制	44
5-2 成果指標と目標の設定	45

資料編

1 計画策定に関連するデータ	47
資料 1-1 つくば市の人口等の状況	48
資料 1-2 つくば市の主な生涯学習関連施設の状況	51
資料 1-3 市民意向の動向	65
資料 1-4 第3次計画における取組状況	70

第1章

計画策定の趣旨

1-1 計画策定の目的

「人生100年時代^{*1}」、「超スマート社会（Society5.0）^{*2}」に向けた社会の大きな転換期のなかで、生涯学習の重要性はより一層高まっています。

国においては、生涯学習環境の整備や多様な学習機会の提供、学習の成果が適切に評価され、それを生かして活動できる仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現に向けた取組が進められています。

また、第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和6年（2024年））では「ウェルビーイング^{*3}の実現のために、リスキリング^{*4}を含めたリカレント教育^{*5}や生涯学習を一層身近なものとして、主体的に学びをデザインし、いつでも学習にアクセスできる環境を整えることで、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続けることができる社会」を生涯学習の目指すべき姿としており、この方向性は、つくば市の生涯学習においても、重視すべき視点であり、今後の取組に反映させていくことが期待されています。

本市では、「つながる 広がる つくばの生涯学習」を基本理念に掲げ、「誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進」と「学びの力をいかすことができる生涯学習の推進」を基本方針とする「第3次つくば市生涯学習推進基本計画」（令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度））（以下、「第3次計画」。）を策定し、生涯学習に関する施策を推進してきました。

この度、第3次計画が最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、市民ニーズや昨今の社会情勢の変化に対応した新たな「第4次つくば市生涯学習推進基本計画」（以下、「第4次計画」。）を策定することとしました。

*1 人生100年時代：平均寿命や健康寿命の延伸により、人々が100年近く生きることを前提とした社会のこと

*2 超スマート社会（Society5.0）：政府が提唱する未来社会像で、サイバー空間と現実空間を高度に融合させ、AIやIoTなどを活用して経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会」のこと

*3 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に満たされた状態で、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義など持続的な幸せも含む概念のこと

*4 リスキリング：新しい職業に就くために、または今の職業で必要なスキルの変化に適応するために、必要なスキルを取得すること

*5 リカレント教育：学校教育から離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくこと

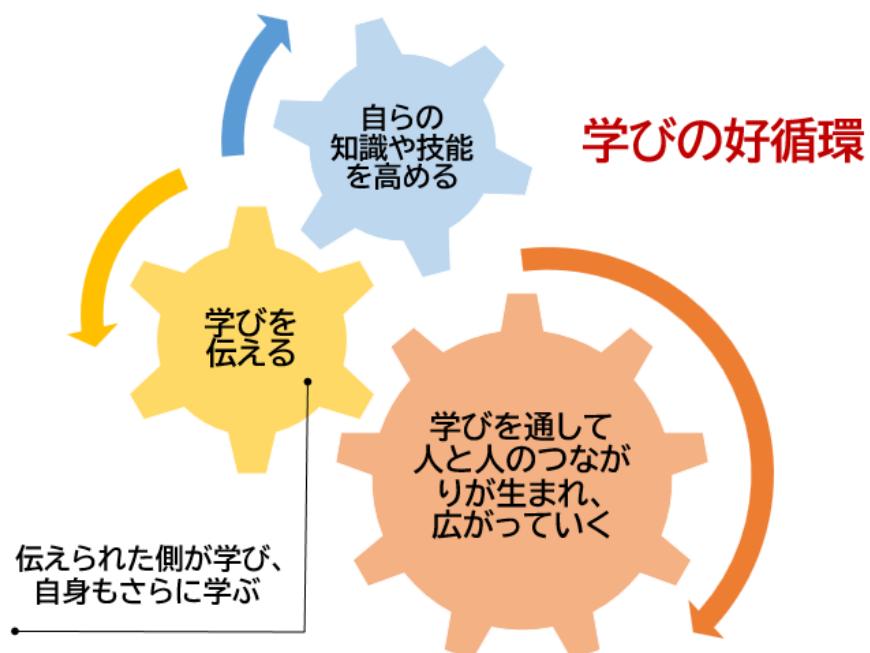
◆生涯学習とは

- 生涯学習とは、一般的には人々が生涯にわたって行うあらゆる学習のことを指し、その成果が適切に評価される社会が「生涯学習社会」です。(H30年度文部科学白書等に基づき整理)
- 教育基本法第3条のなかで、生涯学習の理念は「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されています。

◆本計画における生涯学習（学び）の定義

- 本計画における「学び」とは、自らの知識や技能を高めるものに加え、学びを伝えることにより伝えられた側が学び、自身もさらに学んでいくこと、さらに、学びを通して人と人のつながりが生まれ、広がっていくこと、また、学びが地域の課題解決に役立つことなども含めています。（学びの好循環）
- 子ども（青少年）の学びにおいては、学校外での多様な体験やふれあい等も「学び」として位置づけます。

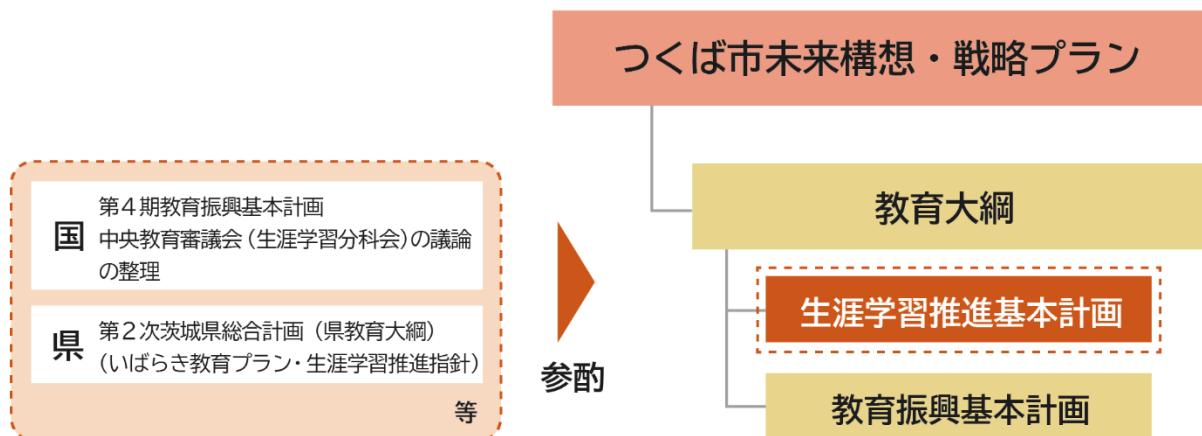
■学びの好循環のイメージ



1-2 計画の位置づけ

本計画は、本市の最上位計画である「つくば市未来構想」、「戦略プラン」、（以下、「未来構想・戦略プラン」。）教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針である「つくば市教育大綱」（以下、「教育大綱」。）に基づき、生涯学習に関する施策を総合的に推進するための基本計画です。

策定にあたっては、国・県の生涯学習に関する計画や方針等を踏まえるとともに、本市の生涯学習に関連する各種計画等との整合を図ります。



1-3 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度（2026年度）～令和12年度（2030年度）までの5年間となります。社会情勢の変化等により、必要に応じて計画の見直しを図るものとします。

また、令和11年度（2029年度）には生涯学習に関する意識調査を実施し、本計画の評価及び次期計画の策定の基礎資料とします。



1-4 計画策定に係る基本的考え方

計画の策定においては、次のような考え方に基づき、計画づくりを推進します。

◆計画の連続性と発展性をもった、上位関連計画と整合を図る計画づくり

- 生涯学習の成果をいかして、つながり、社会課題等の解決に取り組む人材（社会力⁶を持った人材）を育成する第3次計画の理念を継承しながら、つくば市の「ウェルビーイング（幸せ）」の実現に向けて、よりその「つながり」が広がり・発展していく計画づくりを推進する
- 国・県の計画や方針等を参照し新たな視点を盛り込むとともに、本市の最上位計画「未来構想・戦略プラン」と、本市の教育全般の指針「教育大綱」等との整合を図る

◆個別計画としてのオリジナリティを發揮する計画づくり

- 本市の生涯学習に係る基礎データを整理・分析するとともに、市民アンケートや市民ワークショップの結果を分析し、市民ニーズや現在の本市の課題等を明確にする
- 市民が共有できる基本理念と、計画の実現性を担保する施策や取組を位置づける
- 総合的ではなく、オリジナリティを持った計画づくりを目指すため、取組がどのように市民に届き、活動へつながっていくのかを示す「つくばの学びの未来像」を設定する
- 「生涯学習の成果をいかして地域や社会の課題に取り組む」視点を強化するとともに、身近なものから大きな社会課題に取り組むものまで、取組が等しく評価される環境づくりを推進する
- 子どもの頃から生涯にわたり、自ら学び続けることへの意欲を育む環境づくりに資する計画づくりを推進する

◆市民参画を強化する計画づくり

- 一人ひとりの理想の「学び」の姿を深め、互いに共有するとともに、本市全体での理想の「学び」の姿を共有する機会となる市民ワークショップを通じた計画づくりを推進する。

◆効果的な進行管理の実現と進捗状況の評価・検証に基づく計画づくり

- 計画の達成状況及び進捗状況を評価・検証し、計画推進上の課題を明確にする計画づくりを推進する
- P D C A の在り方を位置づけ、効果的な進行管理ができる計画づくりを推進する

*6 社会力：他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、良い社会をつくろうとする力のこと

第2章

生涯学習推進をめぐる現況と課題

2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流

(1) 国の動向

1) 第4期教育振興基本計画 [令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)]

国の「第4期教育振興基本計画」(以下、「第4期計画(国)」。)は、教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るための計画であり、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の二つのコンセプトの両立を目指しています。今後5年間における全16の教育政策の目標のうち、生涯学習関係の政策は「目標8 生涯学び、活躍できる環境整備」を中心に「目標9 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」、「目標10 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」等に位置づけられています。

■目標8の基本施策

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| ●大学等と産業界の連携等によるリカレント教育の充実 | ●女性活躍に向けたリカレント教育の推進 |
| ●働きながら学べる環境整備 | ●高齢者の生涯学習の推進 |
| ●リカレント教育のための経済支援・情報提供 | ●リカレント教育の成果の適切な評価・活用 |
| ●現代的・社会的課題に対応した学習 | ●生涯を通じた文化芸術活動の推進 |

2) 第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理[令和6年(2024年)6月]

第12期生涯学習分科会では、第11期分科会までの議論を基に、第4期計画(国)を踏まえ、生涯学び続ける社会の実現及びウェルビーイング向上を目指し、全ての人のウェルビーイングを支える「学び」の在り方(今後の方向性)などについて、とりまとめが行われるとともに、重点事項として、「社会人のリカレント教育」、「障害者の生涯学習」「外国人の日本語の学習」、「社会教育人材」について議論されています。

■生涯学習・社会教育をめぐる状況と今後の方向性

●生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿	誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会
●デジタル社会への対応	誰一人取り残されない社会の実現、デジタルデバイドの解消
●社会的包摲への対応	社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供する役割も担い、地域や社会へも貢献
●生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方	地域コミュニティの基盤を支えるうえで、社会教育人材に大きな役割が期待
●生涯学習を進める上で、各学校教育段階で目指すべきもの	初等中等教育：自らの学びに主体的に取り組む力、最適な学習方法を選択する自己調整力を育む 高等教育：学びを活かして社会を牽引できる人材を育成 リカレント教育：成果を社会に還元するための仕事と学びの好循環

(2) 県の動向

1) 第2次茨城県総合計画（いばらき教育プラン）

【令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度）】

「第2次茨城県総合計画」は県政運営の指針であり、当計画の教育に関する部分をもって「いばらき教育プラン」に代えることとしています。

当計画の基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けた4つの「チャレンジ」のうち、生涯学習分野については「チャレンジⅢ 新しい人材育成」を中心に、複数位置づけられています。

■チャレンジⅢ 「新しい人財育成」の政策（挑戦する政策）の内容

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ●政策11 次世代を担う「人財」 | ●政策14 学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城 |
| ●政策12 魅力ある教育環境 | ●政策15 自分らしく輝ける社会 |
| ●政策13 日本一、子どもを産み育てやすい県 | |

2) 茨城県生涯学習推進指針【令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度）】

「第2次茨城県総合計画」を補完し、県の生涯学習の目指すべき方向性とその実現に向けた取組を示すものとして、「茨城県生涯学習推進指針」が策定されています。

生涯学習推進のテーマを「ひとつづくり つながりづくり 地域づくりにチャレンジする生涯学習」とし、取り組むべき基本的方策を定め、更にテーマの「ひとつづくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」ごとに重点的に取り組む施策の方向を設定しています。

■重点的に取り組む施策の方向

●ひとつづくり	若者が高い創造意欲を持ち挑戦できる「アントレプレナーシップ ^{*7} の育成」
●つながりづくり	生涯にわたり主体的に学ぶとともに、学びを生かしたつながりづくりを目指した「リカレント教育の推進」
●地域づくり	社会的包摶の実現に向けて「現代的・地域課題解決のチャレンジ」を支援し、県民が主体的にかかわる体制づくりの支援

*7 アントレプレナーシップ：起業家精神のこと。文部科学省では、アントレプレナーシップを「急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神」と捉え、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育をアントレプレナーシップ教育と位置付けている

(3) 市の動向

1) つくば市未来構想・戦略プラン[令和2年度(2020年度)～令和32年度(2050年度)]

未来構想は、市の全分野のまちづくりの指針となる構想であり、令和32年度(2050年度)までを見据えた計画期間とし、中間目標として令和12年(2030年)の未来像を示しています。

未来構想では、「つながりを力に未来をつくる」をまちづくりの基本理念として掲げ、多様なコミュニティの中で、顔と顔が見えるつながりをつくり、挑戦が新たなまちの活力を生み出し、さらなる好循環を生み出すことで、まちを持続的に発展させていく、という意味が込められています。

また、第3期戦略プランは、未来構想に掲げられた「まちづくりの理念」と「目指すまちの姿」及び「2030年までの実現を目指す未来像」の実現に向けて令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度)の5年間の市の取組方針となる基本施策を定めたものです。

生涯学習については、戦略プランの基本施策II-2「人生100年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる」に位置づけられており、今後5年間で取り組むこととして「生涯学習による市民生活の充実」が示されています。

2) つくば市教育大綱[令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度)]

本市では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3の規定に基づき、教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針として教育大綱を令和2年(2020年)3月に策定し、令和7年(2025年)3月に改定※を行いました。

教育大綱では、本市の教育が目指すものとして、最上位の目標に「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を掲げ、その実現に向けて二つの方向性が示されています。

教育大綱で示された考え方は、学校教育に限らず、社会教育も含めた生涯学習全般にわたって踏まえる必要があります。

■目標に基づく「二つの方向性」

- ① 一人ひとりが幸せな人生を送るために、各人の違いが受容されそれが持つている多様で豊かな個性が花開く環境をつくる。
- ② 地域全体がその環境において一人ひとりの「善き生の実現能力」と、人と人がつながり、自主的に持続可能なより良い社会をつくるための「社会力」を育てる。

※教育大綱で掲げる理念が学校現場や市全体で浸透していることを受け、本改訂による本編の変更は無し。

2-2 課題の整理

(1) 課題の整理

生涯学習をとりまく社会潮流や市の状況、市民意向や第3次計画の取組状況の結果を、次の通り分類し、第3次計画の「施策の柱」ごとに課題を整理しました。

これらの課題を踏まえて、第4次計画の方向性を定めます。

- a：社会潮流（上位計画）等や市の状況（人口・施設利用状況等）からの留意事項
- b：市民意向（アンケート【市民・児童生徒】、ワークショップ【WS】）からの課題
- c：第3次計画の取組状況からの課題

※a～c の詳細データについては資料編を参照

1) 多様な学びの実現

施設の利便性向上/参加機会の拡充/生涯学習の相談・情報の提供

留意事項 a	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の方向性として、「ウェルビーイングを目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」を目指すべき姿としている。(12期分科会) ○今後の方向性として、「デジタル社会への対応（誰一人取り残されない社会の実現）」が重要。(12期分科会) ○国や県は共に、社会人の学び直し（リカレント教育）の重要性を示している。 ○施設等については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一定期間利用者数が減少したが、近年は回復傾向であり、引き続き安全に利用しやすい施設の管理が求められる。
	▼ ▼ ▼
	<ul style="list-style-type: none"> ○現在、忙しくて時間がなく学んでいない方のうち、4割が「簡単にできる学習方法があったら」学習への意欲が向上すると回答しており、手段・手法の検討が必要。(市民) ○ライフスタイル、アクセスの問題、定員が限定されていることなどから、参加したくてもできない状況であり、気軽に参加できるプログラムづくりが求められる。(WS) ○世代ごとのニーズに合ったプログラムづくりが求められる。(市民・WS) ○「学びの情報」については、普段は「広報つくば」で入手している方が5割以上で、「講座・イベント」、「施設の内容や方法」が求められていることから、より良い情報発信について工夫が必要。(市民) ○情報へのアクセスの難しさ、情報の量や発信量が不足していると感じられており、世代に合わせた多様な媒体による情報発信と情報の見える化が求められる。(WS) ○地域交流センター等の生涯学習関連施設のさらなる活用・利便性向上と、身近な場所で学べる環境づくりが求められる。(WS)
	<ul style="list-style-type: none"> ○「参加機会の拡充」の評価は安定し、順調に取り組まれているが、市民意見では簡単に学ぶツールや機会の拡充に関するニーズは引き続き強く、工夫が求められる。 ○「生涯学習の相談・情報の提供」の評価は毎年向上し、順調に取り組まれているが、市民意見では情報発信に関するニーズは引き続き強く、工夫が求められる。
課題 b	▼ ▼ ▼
	<ul style="list-style-type: none"> ●世代や時代のニーズに合った講座の開催等、誰もが学び合い、幸せになれる環境づくりが求められています。 ●学びについての情報の一元化や、わかりやすい情報発信など手法の工夫が求められています。 ●既存施設の更なる活用と、身近な場所で学べる、集まれる環境づくりが求められています。

2) 誰一人取り残さない生涯学習

参加への障壁をなくす取組/主体的に活動に参加できる取組

留意事項 a	<ul style="list-style-type: none">○今後の方向性として、「社会的包摶への対応（社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供）」が求められており、障害者や外国人の学習は重点の議論事項としてまとめられている。（12期分科会）○今後の方向性として、「デジタル社会への対応（誰一人取り残されない社会の実現）」が重要。※再掲（12期分科会）
-----------	---



課題 b	<ul style="list-style-type: none">○市に力を入れてほしい取組については、「子育てにいかせる学習の機会をつくる」が最も多く、次いで「仕事にいかせる学習の機会をつくる」であり、子育て世代や働く世代が参加しやすい取組が求められる。（市民）○興味があることを気軽に学べる機会があっても「参加したくない」児童生徒も約2割おり、その理由としては「興味がない・面倒くさい」、「学びたいことや取り組みたいことがわからない」が高く、子どもの頃から主体的な学びのきっかけづくり、興味関心を持てるような取組が求められる。（児童生徒）○リタイア後の男性の生涯学習・社会参加や、病気等により活動に参加できないなど、参加へのハードルがある人が参加しやすい環境づくりが求められる。（WS）○市民意向から十分に汲み取りにくい障害者や外国人のニーズに対応する施策の計画への位置づけはつくば市生涯学習審議会での議論が必要。
課題 c	<ul style="list-style-type: none">○成果目標「実際に学習活動に取り組んだ人の割合」の更なる増加を目指し、誰もが取り組みやすくなる環境づくりが重要。○「主体的に活動に参加できる取組」の評価は向上しており、「障害者スポーツ推進事業」や「男女共同参画啓発事業」が順調に取り組まれていることから、引き続き取組の充実により、誰一人取り残さない工夫が必要。



●参加への障壁をなくすという観点から、今まで参加が難しかった方々がより参加しやすく、かつ、主体的に活動できるような社会的包摶を促進する学びの機会を提供していく必要があります。

3) 地域で学び合う生涯学習

地域で学ぶきっかけ作り/地域で学びつづける仕組み作り

留意事項 a	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の方向性として、「ウェルビーイングを目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」を目指すべき姿としている。(12期分科会) ※再掲 ○国においては、「仲間とつながりながら学ぶことができる環境整備を図る」と示している。 ○子どもを取り巻く課題や地域課題解決においては、地域と学校の連携・協働が重要。 ○県においては、「ひとづくり つながりづくり 地域づくりにチャレンジする生涯学習」を生涯学習推進のテーマに設定。 ○未来構想のまちづくりの基本理念「つながりを力に未来をつくる」。
	▼ ▼ ▼
	<ul style="list-style-type: none"> ○「社会力」がいかされた地域になっているかは、「わからない」が5割で多いが、「どちらかと言えばなっていない」も約2割となっており、学びを地域へと広げていくことを意識した取組が求められる。また、大人世代への用語の認知度向上が期待される。(市民) ○地域の人から「何かを教わったり、一緒に取り組んだことがない・わからない」児童生徒が約5割となっており、体験といった側面での機会の充実が求められる。(児童生徒) ○知識を得たり、役に立つことに幸せを感じる方は8割以上と多いが、地域との関わりが広がることに幸せを感じる方については6割とやや少なくなっており、つながり・交流することでの体験や、機会の創出などきっかけ作りが重要。(市民) ○「社会力」を高めるアイデアとして、地域や世代間の「交流機会」の創出が求められている。(市民) ○児童生徒が、今後地域の人から学びたいもの、教わりたいものについても「スポーツに関すること」や「伝統芸能・歴史文化に関すること」が人気であり、地域学校協働活動などの連携強化が求められる。(児童生徒) ○区会等の地域での交流機会の減少などから、人とのつながりが希薄化していると感じられており、時代やニーズに沿った様々な交流の機会が求められる。(WS) ○歴史文化や自然環境など特色ある地域資源を活用した多様な活動の機会や交流の機会が求められる。(WS) ○子どもも大人も皆で互いに学び合える環境づくりが求められる。(WS)
	<ul style="list-style-type: none"> ○成果目標「地域交流センターの利用者数」の増加の達成に向けた取組強化を図ることが求められるが、新型コロナウィルス感染症の流行により減少した経緯を踏まえて、適切な指標であるか見直しが必要。 ○「地域で学ぶきっかけ作り」の評価が低下していることや、個別事業の評価が極端となっていることから、指標や事業内容の見直しが求められる。
	▼ ▼ ▼

- 地域との交流機会など、人と人がつながる機会づくりが求められています。
- 子どもも大人も皆が楽しんで学び合える地域づくりが求められています。
- より地域が身近に感じられ、将来にわたり地域へ学びの成果を還元し、「より良い状態(幸せ)」が続していくといった好循環を育むために、地域と連携した子どもの頃からの体験機会の創出などの地域と触れ合うきっかけづくりが求められています。

4) 「社会力」を持った人材の育成

実践できる人材の育成

留意事項 a	○今後の方向性として、「生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方」について着目され、学習支援と共に様々な分野の地域課題の解決という点から、地域コミュニティの基盤を支える上で社会教育人材の役割が重要とされる。(12期分科会)
	○高齢者の能力を発揮する機会の提供が求められる。
	○学習成果が適切に評価・活用される仕組みや学習成果の可視化が求められる。
	○市の人口は増加傾向であり、年齢3区分をみると国や県と比べて65歳以上人口は低いものの、今後も高齢化は進むため、高齢者が学び、能力を発揮できる仕組みづくりの構築や、生涯にわたる学びの在り方を考えていくことが必要。



課題 b	○現在学んだ成果のいかし方について、「自分の人生を豊かにしている」、「仕事や就職の上でいかしている」が多くなっており、今後の市のまちづくりに役立てたいかについては「いいえ」が5割となっている。理由としても、自己の楽しみや自主学習の為が多いため、地域・社会へ成果をいかすという考え方を啓発していくことが重要。(市民)
	○「社会力」の言葉の認知度は「知らない」が6割で、認知度向上の工夫が必要。(市民)
	○「社会力」を高めるアイデアとして、地域や世代間の「交流機会」の創出が求められている。(市民)※再掲
	○つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちだと「思う」生徒が約8割(そう思うとどちらかと言えばそう思うの合計)で、より後押しするために、身近な地域の大人など、ロールモデルの創出や活躍等の可視化が重要。(児童生徒)
	○リタイア後の高齢者の活躍については場や仕組みの創出も必要だが、リタイア前からセカンドライフについて考える機会や支援が求められる。(WS)
	○大学や研究機関、企業、団体・ボランティア等資源が豊富であると考えられている一方、上手く活用がされていないと感じており、人材活用の仕組み作りが求められる。(WS)
	○各世代の学んだ成果をいかすための発表の機会・環境づくりが重要。(サークル活動発表会、子どもの学びの成果発表会など)(WS)
課題 c	○成果目標「自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合」の増加の達成に向けた取組強化が必要。
	○「実践できる人材の育成」の評価が毎年低下しており、より身近なコミュニティ活動を活性化するためにも取組の充実が求められる。
	○施策の柱に位置づく施策の方向性にはらつきがあり、精査が必要。(本柱では1つのみ。)



- 本市の多様な人材や資源を有効活用するための仕組みの構築が求められています。
- 学びの成果を地域や社会に広げていく(つながりによる好循環・社会力)という考え方を、子どもの頃から啓発していくことや、その成果をいかすための場づくりが求められています。

第3章

計画の基本的考え方

3-1 基本理念

人生100年時代を迎え、長いライフステージを豊かに過ごすためには、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摶を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。

本市は、高度な学術研究を担う研究・教育機関が集積する都市であり、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、様々な生涯学習関連施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、そして地域や人とのつながりの希薄化などの課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに応じた取組や、成果を発表する場の充実も求められています。

さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつあるものの、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の発揮という側面においてはまだ十分とは言えない状況です。

こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代等を超えて学びの成果がめぐり、好循環を生み出すことで、すべての人が生きがいを感じ、幸せになる持続可能なまちの実現を目指します。そのため、様々な人々が交流でき、誰もが学びを楽しむ機会・環境をつくるとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。

このような考え方から、第4次計画の基本理念を

**学びを楽しみ 学びがめぐり 学びでつながる
幸せのまちつくば**

と設定します。

3-2 基本方針

基本理念の実現に向けて取り組む基本方針は、教育大綱において「つくば市の教育が目指すもの」として掲げた2つの方向性に対応するものとして、次のように定めます。

基本方針1

誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

誰もが生涯学習（学び）を通して自分らしく生きることができる社会を目指し、市民が誰でもいつでもどこでも楽しく学ぶことができるよう、多様な機会や場の充実を図ります。

また、市民一人ひとりが学びを通して、より豊かな人生を実現できるよう、デジタルの活用や学びへのアクセス性の向上、学習内容の高度化、情報共有や発信、利用等、学びを支える環境の充実を図ります。

基本方針2

地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

地域がより良い状態（幸せ）になるために、生涯学習（学び）を通じて、個人と地域がつながり、共に成長しながら「社会力」を育み、発揮していくことをを目指し、まずは、「社会力」への理解を深め、その実践を後押しする機会の充実を図ります。

また、「社会力」をいかす場や機会を整え、「社会力」の源である人材を育成します。

さらに、それが持続可能な形で学びとつながりの好循環を生む仕組みづくりを推進します。



3-3 基本目標

本計画の推進にあたり、基本方針1と2に対応する5つの基本目標を定めます。

基本方針1 誰もが自分らしく楽しく学ぶための生涯学習の推進

基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、参加のしやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、これまで生涯学習に十分に取り組めなかった市民が、学びに取り組みやすくなるような取組を推進します。

そして、学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きるために、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、ライフステージや子どもから高齢者までの世代に応じた参加機会の拡充を図ります。

さらに、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。

■施策の方向性■

- ① 多様な学びの充実
- ② 参加機会の拡充
- ③ 主体的な学びの促進

基本目標2 学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージ等に応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、幅広い学びの情報提供と相談体制の充実を図り、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。

また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず誰もが安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。

■施策の方向性■

- ① 学びの情報提供・相談体制の充実
- ② 市民が集う学びの場の充実

基本方針2 ➤ 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進**基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進**

社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることができることで、学びの成果を実践へとつなげる大切な一歩となります。そのため、気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供とともに、市民が「社会力」を理解し、行動につなげていくための意識づくりを進めます。

■施策の方向性■

- ① 社会力への気づきを促す取組の充実
- ② 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

基本目標4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

市民の学びを地域での実践へとつなげ、地域全体で「社会力」を向上させるためには、多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするとともに、既に地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。あわせて、これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成等を図ります。

■施策の方向性■

- ① 学びの成果をいかした活動の支援・促進
- ② 社会力を発揮できる多様な人材の育成

■ 基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環するしくみづくりを進めます。

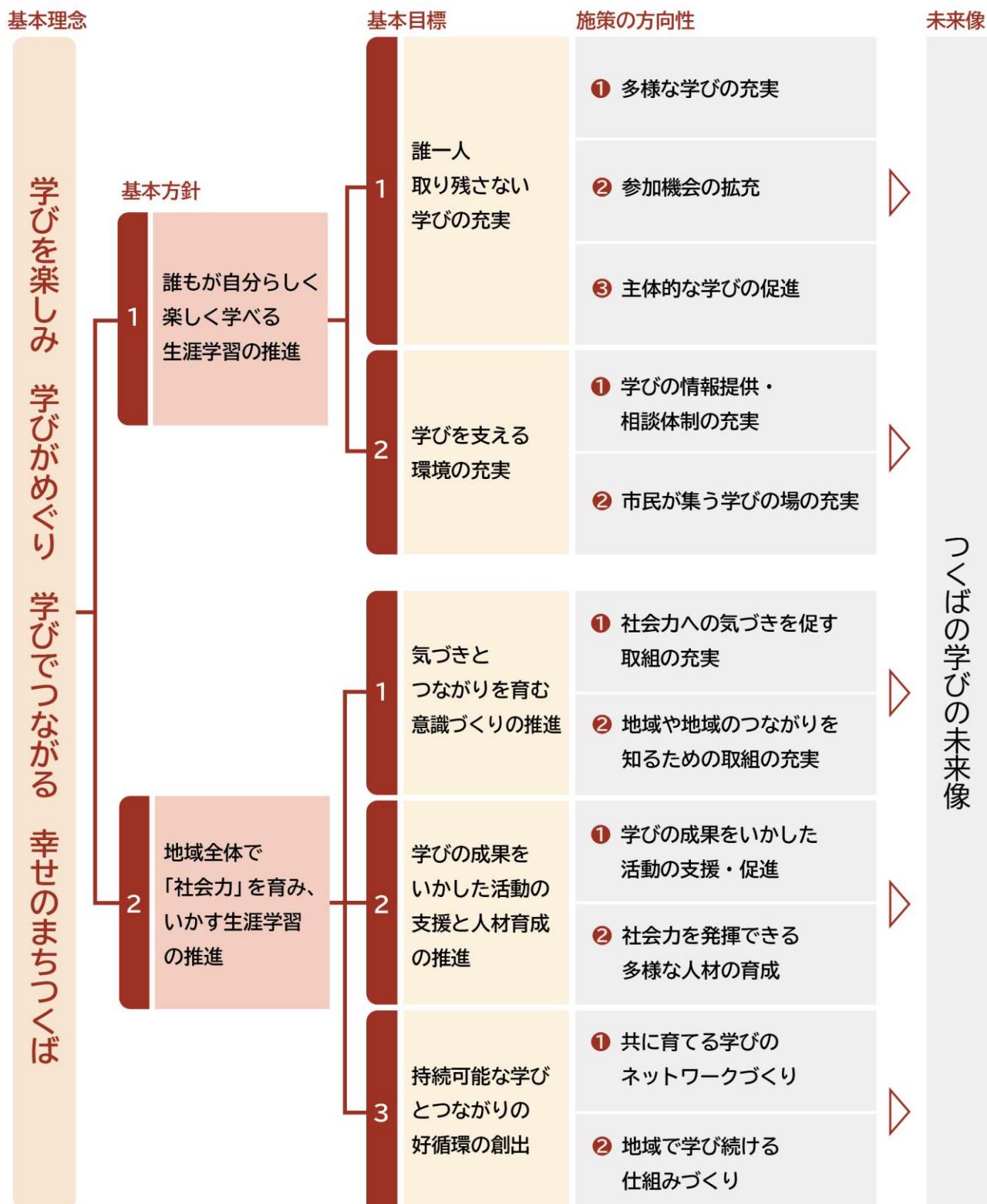
市民自らが地域や社会に学びの成果を還元し、「より良い状態（幸せ）」が続く好循環を育むためには、地域との連携や交流、人と人とのつながる機会づくりが求められています。そのため、市内の各施設が「社会力」を基盤とした学びの拠点となるように支援するとともに、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクールも学びの拠点としてとらえた学びのネットワークの構築を図ります。

また、市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、様々な主体とのネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が持続的に発展するよう、学びのネットワークを活用して地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

■施策の方向性■

- ① 共に育てる学びのネットワークづくり
- ② 地域で学び続ける仕組みづくり

3-4 計画の体系



第4章 施策の展開

基本目標1

誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、
参加しやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

■施策の方向性

- ① 多様な学びの充実
- ② 参加機会の拡充
- ③ 主体的な学びの促進

写真が入ります

写真が入ります



障害のある人もない人も一緒に楽しめる
イベントがあるのがいいわね！

つくば市内の研究機関の講座に参加
できてとっても嬉しい！

施策の方向性① 多様な学びの充実

誰一人取り残さない学びの実現に向けて、これまで生涯学習に十分取り組むことが出来なかった市民（障害者や外国人、学びを始めるきっかけがなかった市民など）に対して、多様な学びの機会の充実を図ります。そのため、民間や教育機関など多様な主体との協働により、生涯学習活動（講座・セミナー・自主活動など）に係る支援を推進するとともに、学びに触れる機会を充実させることで、誰もが参加しやすい学習環境の整備に努めます。

主な取組

障害のある人や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサンフェスティバル）の開催、男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー事業、国際交流協会の支援

施策の方向性② 参加機会の拡充

市民がいつでも気軽に学ぶことができるよう、生涯学習活動への参加機会の拡充を図ります。そのため、ライフステージ^{*8}や世代（子ども・若者世代や子育て世代、働く世代、リタイア直前の世代、高齢世代）などによる多様なニーズを把握し、内容、曜日や時間帯、開催場所や開催方法（オンライン開催等）などについて、様々な観点から検討します。また、民間等との連携を図り、柔軟かつ効果的に事業を見直し・提供を行います。さらに、講座開催時の託児サービスや手話通訳の提供など参加促進のための支援にも努めます。

主な取組

地域交流センター等の夜間・休日における学習機会の提供、乳児学級・幼児学級の開催、オンラインによる講座開催

*8 ライフステージ：人の一生を年齢や節目となる出来事（就職、結婚、出産、退職、介護など）で区切った段階のこと

施策の方向性③ 主体的な学びの促進

一人ひとりが自分らしく主体的に学び、自らの力を高めていけるよう、学習段階や関心に応じた学習機会を支援します。そのため、個人の楽しみや生きがいづくりに加えて、生活の質の向上や自己実現につながる学びを推進します。さらに、高度な学習ニーズやキャリア形成に対応するための高等教育機関・研究機関・企業と連携したりカレント教育^{*9} やリスキリング^{*10}など、市民の主体的な学びを支える新たな取組を目指します。

主な取組

地域交流センター等での学級・講座の充実、スポーツ教室の充実、読書推進事業、つくば市域における図書館の連携、生涯学習スタートアップ事業

*9 リカレント教育：学校教育から離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくこと

*10 リスキリング：新しい職業に就くために、または今の職業で必要なスキルの変化に適応するために、必要なスキルを取得すること

基本目標2

学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の
多様な人々が集い学べる環境を整えます。

■施策の方向性

- ① 学びの情報提供・相談体制の充実
- ② 市民が集う学びの場の充実

写真が入ります

写真が入ります



子どもも大人も興味が湧く、
わかりやすい情報があるね！

イベントで楽しみながら
学ぶこともできるんだね！

施策の方向性① 学びの情報提供・相談体制の充実

市民が、自身の関心・ライフステージなどに応じた事業や地域団体の活動情報にアクセスしやすい環境づくりを進めます。そのため、情報の収集・整理を行うとともに、関係各課や団体と連携し、市広報紙やSNSなど多様な媒体を活用した効果的な情報発信を行います。また、大学や企業等と連携し、市民が一元的に情報を得られる仕組みづくりを進めます。

さらに、新たに学び始めたい、活動をしたいと考える市民の参加促進・支援のため、関係各課や各施設と連携し、相談体制の充実を図ります。

主な取組

市民活動相談業務、SNSを活用した活動団体の広報、外国人向けイベント情報の発信、生涯学習指導者情報の提供、市職員向けの広報セミナーの実施

施策の方向性② 市民が集う学びの場の充実

世代や地域、障害の有無、国籍などを超えて多様な人々が集い、交流し、学び合える場づくりを支援します。

そのため、図書館や市民交流施設、スポーツ施設、学校の体育施設や特別教室、今後検討する若者の居場所などを活用した事業を推進するとともに、適切な整備と管理に努め、利便性の向上を図ります。また、活動団体や企業等との連携により、身近な地域で集い、学び合える場の充実を目指します。

さらに、つくば科学フェスティバルや図書館による屋外イベントなど、市民が集い、学びを楽しむことができる機会を提供し、生涯にわたり学び続けられる場の充実を推進します。

主な取組

図書館利便性向上事業、市民交流施設利便性向上事業、学校施設開放事業、若者のための居場所の検討と創出、読書環境の充実と集いの場の創出、つくば科学フェスティバル、つくばちびっ子博士、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサンフェスティバル

基本目標3

気づきとつながりを育む意識づくりの推進

社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏み出す
市民の意識醸成を図ります。

■施策の方向性

- ① 社会力への気づきを促す取組の充実
- ② 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

写真が入ります

写真が入ります



自分が学んだことを
誰かの役にたてたい！

自分が住んでいるつくば市の
ことももっと知りたいな。

施策の方向性① 社会力への気づきを促す取組の充実

市民が学びの成果をいかして、地域社会に貢献する環境づくりの第一歩として、他者を積極的に理解し良好な関係性を築き、より良い社会を作ろうとする力である「社会力」について、一層の理解促進と啓発を図ります。そのため、市広報紙やSNSなどを通じて周知を行い、市民が気づきを得て理解を深められるよう推進します。

また、「社会力」人材育成事業などの各種講座や青少年の体験学習などの機会を提供し、自ら地域や社会に関心を持ち、主体的に関わろうとする意識の向上を図ります。

主な取組

つくば人間学講座、「社会力」を持った人材の育成講座、青少年体験学習事業

施策の方向性② 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

地域や社会に主体的に関わり、学びの成果をいかすきっかけづくりとして、市民がつくば市や身近な地域への理解を深める機会の充実を図ります。そのため、多様な事業を通して、つくば市や地域の歴史・文化、自然環境、また多様な価値観などを知る機会と場を提供するとともに、地域と関わる機会の充実を図ります。あわせて、これらの取組を通じ、つくば市や地域に対する愛着や誇りを育みます。

主な取組

多文化共生推進事業、文化財展示講座事業、筑波山地域ジオパーク体験学習・講座、自然環境教育事業、ゼロカーボン教育・啓発事業、出前講座事業、青少年体験学習事業、科学教育事業

基本目標4

学びの成果をいかした活動の支援と 人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の
支援と人材育成に努めます。

■施策の方向性

- ① 学びの成果をいかした活動の支援・促進
- ② 社会力を発揮できる多様な人材の育成

写真が入ります

写真が入ります



自分の学びの成果をいかした活動を
続けていきたい！

活動をもっと広げていくために、
仲間を増やしていきたいな！

施策の方向性① 学びの成果をいかした活動の支援・促進

地域の中で活躍する市民・団体の世代交代や活動の活性化を図り、楽しみながら持続的に学べるよう、適切な支援に努めます。

また、市民が学んだ成果をいかして、主体的に新たな活動に取り組んでいけるよう、文化団体やサークルなどの育成に努めます。

さらに、児童生徒や青少年、高齢者の活動支援を担う団体、ボランティア団体など地域貢献に取り組む団体への積極的な支援により、多様な団体が活躍できる体制の充実を図ります。

主な取組

高齢者生きがい活動支援事業、文化団体等育成支援事業、青少年健全育成活動の支援、つくば市民文化祭の開催、市民活動団体支援事業

施策の方向性② 社会力を発揮できる多様な人材の育成

「社会力」の気づきによって、自ら学んだことを地域に還元したい、仲間と共に学びを通して地域に貢献したい、地域課題の解決に繋がる活動を始めたいなど、一人ひとりの市民の想いが実現できるよう、様々な機会と場を通して社会力を発揮できる人材を育成します。ボランティアなど、地域づくりに貢献する人材の養成にも取り組みます。

また、次の世代の活動を担う若者が自身の将来の姿を具体的に描きながら活動に関わるよう、ロールモデル（活動のお手本となる市民）から学べる機会を増やします。特に次世代の活動をけん引するリーダーとなる人材の育成を積極的に推進します。

主な取組

生涯学習指導者情報提供事業、文化財サポーターの育成、地区リーダー勉強会の開催、市民活動支援事業、青少年体験学習事業

基本目標5

持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが
発展・循環するしくみづくりを進めます。

■施策の方向性

- ① 共に育てる学びのネットワークづくり
- ② 地域で学び続ける仕組みづくり

写真が入ります

写真が入ります



地域の人とつながって、学び合える
関係を続けていきたい！

いろんな団体や組織の人と連携するこ
とで、活動を発展させていきたいな

施策の方向性① 共に育てる学びのネットワークづくり

市内の各施設が、それぞれの立地や特性をいかしながら、地域の「学びの拠点」となるように、人と人がつながり地域で活動できるよう機会づくりを積極的に支援します。あわせて、「地域づくり」、「人づくり」を目指し、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクールも地域における「学びの拠点」ととらえ、拠点間の連携、情報の連携、人的交流を促進し、学びのネットワークを構築します。

主な取組

地域まちづくり支援事業、つくば SDGs パートナーズ事業、市民活動支援事業、コミュニティ・スクール運営の支援、地域交流センター等講座・学級の充実、大学生・地域ボランティアによる学習支援活動

施策の方向性② 社会力を発揮できる多様な人材の育成

地域においては、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校・大学・研究機関・企業などとの連携と適切な機能分担を促進します。そして、こうした多様な連携を継続的に発展させることで、市民の学びの広がりや多様な人との新たなつながりが世代等を超えて展開していくことを目指して、地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

主な取組

コミュニティ・スクール運営の支援、周辺市街地活性化協議会の運営支援

つくばの学びの未来像

本計画では「基本理念」を実現するために「基本方針」、「基本目標」を定め、「基本目標」を施策に落とし込んだ「施策の方向性」を位置づけています。

「施策の方向性」には「主な取組」を位置づけており、これにより市民の生涯学習活動を支援していく流れとなっています。

本市の5年後の未来に向けて、「主な取組」が市民に届き、それが市民の活動へと繋がっていく様子と、そのイメージを未来の物語に乗せて示します。

「幸せのまちつくば」に向けて

基本理念に掲げる「幸せのまちつくば」は、生涯学習を通して、市民一人ひとりが学びたい、人とつながり共に学びたい、学びを地域に役立てたいという想いをかなえ、達成感や幸福感を得ることによって実現すると考えます。生涯学習を通して活動している市民は誰もが実感する想いです。生涯学習の施策は、それを実現するためのものです。

一方、「生涯学習ってなんだろう?」、「自分には関係ない」という市民にとって、生涯学習は、幸せのまちには結び付かないでしょう。生涯学習の施策は、このような市民に取り組んでもらうためのものでもあります。

つくば市の生涯学習は、すべての市民に向けて扉を開き、一人ひとりの状況に応じて支援ができるように取り組んでいくものです。

施策を市民の活動につなげるには

生涯学習の施策をどのように市民の活動につなげるかが、市民の参加率を上げていく上でも、学習活動を深めていく上でも重要なポイントです。

市民は社会生活において、様々な立場や背景を持っていることから、生涯学習に求める取組も、一人ひとり違います。

市民がどのようなライフステージにあるか、どのようなライフコースを歩んでいるかというところからニーズを読み取り、主な取組と市民の活動をつなげていきます。

人生 100 年時代のライフコースの考え方

ライフステージとは、人が生まれてから死ぬまでの間に経験する、様々な段階のことです。それぞれのライフステージは、年齢や社会的な役割、生活環境の変化によって区分され、結婚、出産、就職、退職などが節目になります。

ライフコースとは、個人が辿る人生の経験や軌跡全体を指します。ライフステージは、このライフコースを構成する要素の一つです。本計画においてライフコースは、ライフステージの積み重ねのようなものと捉えます。

この計画は、様々なライフステージに対応し、市民がライフコースを通して生涯学習に取り組もうとする「現時点」から 5 年後の未来に向けての主な取組を示しています。

市民一人ひとりの人生は、これまで取り組んできた過去の活動や学習、5 年よりもっと先の未来への意欲をも含めて成り立っています。

また、人生 100 年時代にあって、市民のライフコースは、従来型の 3 つのステージモデルのライフコース「教育～仕事（労働）～引退（老後）」から、マルチステージモデルのライフコースへと移行していることも踏まえます。

本市では、マルチステージモデルのライフコースを想定し、この計画で推進する主な取組がどのように市民に活用されるかをシミュレーションしました。



5 人の「未来の物語」

本計画では、様々なライフコースを生き、それぞれのライフステージにある市民の「未来の物語」をモデルとして設定し、本市で学んでいる姿を示します。

計画に示す主な取組をそれぞれの市民がどのように活用して生涯学習を実践しているか、「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」のそれぞれのステージにある市民の物語を通してみていきます。

また、一人の人生には様々な人々が関わっており、共に学ぶ仲間には、別の物語（ライフコース）があることも意識して、「未来の物語」を描きました。

—5人の「未来の物語」—

つくば市に住むとある5人それぞれが
学ぶことにより、人とつながり
自身の人生をいきいきと送る姿を描きました



みんながいて、なんでもできる学びの場所



高野さん(13歳) つくば市居住歴13年 生まれも育ちもつくば市で、現在は市内の中学校に通う中学1年生。両親もつくば市生まれつくば市育ちです。

あなたの学びのきっかけは？

小学校4年生の夏休み前のある日、家の近所の児童クラブで遊んでいたら、スタッフのお姉さんに「**今度、科学教室やるんだけど参加してみない？**」と誘われたのがきっかけです。ちょうど自由研究のテーマを探していたところだったので「いいことを聞いた♪」と思い参加しました。



どのような講座に参加しましたか？



日ごろ「なぜ？」と思っていることを科学で解き明かしてくれるような内容で、とても楽しかったです。あと、**近所の知り合いのおじさんが教えに来てくれて**びっくりしました！つくば市の研究所で働いていた科学者だったなんて…！

科学講座への参加をきっかけに、他にも多くのイベントに参加しました。父と一緒に夏休みの**つくばちびっ子博士**で研究所や施設を見学したり、**近所の人たちと一緒に餅つきをしたり、工作をしたり。**学校の友達と遊ぶのとはまた違った楽しさがありました。

他にはどんなものに参加しましたか？

あるとき、新しくできた近所の友達と「**地域のみんなが楽しめる新しいお祭りをやりたいね**」という話をしたのをきっかけに**地域の人を巻き込んで近くの空き地を使った「まちのひろば」をつくること**になりました。私たちが出したアイデアを近所の人たちが一緒に真剣に考えてくれて、まずは舞台を作ることになり、**建物に詳しい市民活動団体の人たちも手伝いに来てくれました**。みんなと一緒に竹を切り出し、加工して組み立てるのは楽しかったです。お店は趣味でお菓子や作品を作っている地域の人に協力してもらいました。また、地域の子どもの作品を展示したり、得意なことを発表したりできる会場にもなりました！

学んだことで何か変化したことは？



自分の周りには両親や学校の友達だけじゃなくていろんな人がいて、自分一人では難しいことでも周りの人の知恵を借りればできないことはないんじゃないかなと思うようになりました。

今は中学生になって部活や勉強で大変ですが、「**まちのひろば**」をより楽しく使うためのアイデアがたくさん浮かんできます。それを形にできるよう、またみんなと協力して楽しく頑張りたいです！

仕事のスキルアップをきっかけに広がった世界

横田さん(27歳) つくば市居住歴3年 大学院卒業後、就職を機につくば市に。建築士として市内の企業に勤めています。現在は一人暮らしです。



あなたの学びのきっかけは？

勤めている会社のホームページ更新の担当が私になり、デザイナーの方とやり取りするにあたり基礎的な知識を学ぶために市の講座を受講したのが始まりでした。今後の自分のキャリアにもいきてくるかもしれませんし、良い機会だと思ったのです。どこで学ぼうかなと考えていた矢先、家の近くにある地域交流センターで市が運営する「学びのポータルサイト」のポスターが目に入りました。サイトを見てみると、欲しい情報にすぐにたどり着けるようになっており、まさに自分の求めていた講座に出会えました。



どのような講座に参加しましたか？



はじめは「初めてのウェブデザイン講習会」に参加しました。仕事終わりに行くことができたのが良かったですね。もちろんデザイナーさんとのやり取りでも役立ちました。これをきっかけにいろんな講座に参加し、今ではつくば市についてもっと知りたいと思うようになりました。

つくば市は働く世代向けの講座が充実しているのにも驚きましたが、他にも多種多様な講座があり、最近は会社の同僚にも勧めました。

他にはどんなものに参加しましたか？

以前から自分のスキルや知識を生かして社会貢献できる場があればなあと思っており、ポータルサイトを見たところ、市内の古民家を研究している市民活動団体の存在を知りました。「これだ！」と思い参加してみると同業種の方も多く、すぐに馴染むことができました。他にも、市の職員さんや学校の先生など異なる分野の方々とも出会えたことは私にとって新鮮で、また市内の地域活動との交流の中で得た気づきが、結果として仕事にもいかれる場面があり、参加して本当によかったと感じています。

学んだことで何か変化したことは？



以前は一人で過ごす時間が多く、たまに大学時代の友人と会うことがあるくらいで交友関係が広がらなかったのですが、講座への参加や団体への入会をきっかけに市内の知り合いが増えました。あと図書館に行く機会も増えました。団体の活動の一環で図書館へ調べ物をしに行つたときに、「ライブラリーピクニック」なる取組があるのを知ったのですが、休日に公園の緑の下で読書をするのは気持ちいいですよ！

子育ての中で見つけた、わたしの“居場所づくり”

小林さん(46歳) つくば市居住歴36年 大学時代・新社会人時代は関西に居住。結婚を機に地元に戻る。夫婦2人+子3人(幼児1、小学生2)の5人暮らし。



あなたの学びのきっかけは？

出産前は営業職、出産後は在宅で営業アシスタントをするように。子どもとの時間を大切にしたくて変えた働き方でしたが、人の関わりの少なさに徐々に寂しさを感じていました。そんな中、子どもの保育参観後に開催される「子育て中でもできる！地域参加のはじめかた(親子参加OK！)」の講座の案内が。地域に関わることは、自身の子どもたちにとっても、先生や保護者以外の人と触れ合える良い機会になるのでは？と思い参加しました。

参加した講座はどうでしたか？

講座は連続講座で、地域とつながるための方法や取組例の紹介、参加者の“ちょっと得意なこと”をどういかせるかを話し合ったり、地域交流センターで子ども食堂のお手伝い体験もしたりしました！講座会場は保育園以外に、学校の特別教室、近所のカフェを利用した時もありました。毎回色々なところに遊びに行くような感覚で、改めて地域を知る良い機会にもなりました。



地域にどのように関わることにしたのですか？



講座の参加者同士で交流を続けるなか、「自宅の空きスペースを活用して、多世代の学び合いの場をつくりたい！」という方の思いに賛同し、一緒に立ち上げに加わることにしました。私は仕事でのスキルを生かして仲間集めや行政相談などを担当し、他メンバーも、無理のない範囲で協力し合いました。立ち上げ作業が大詰めの時は、家事や育児を一緒にしている夫が、さらに頑張ってくれて、子どもたちもお手伝いで応援してくれました！つくば市では、家庭内でお互いの学びを応援する考えも育ってきているのが良いです。

実際にはどのような場所になっていますか？

誰もが気軽に集まれる居場所となっています。私の子どもも利用しており、年下のお世話をしたり、中高生や地域の大人に勉強を教わったりと、自然に社会と関わっています。運営にはシルバーパートナーの方や、有償・無償ボランティアの方など様々な方が関わっています。私も週に一度お手伝いをしています。訪れる人の会話を楽しみつつ、地域の課題解決に向け、専門家を呼んで勉強会をしたり、地域の人と人とを結ぶマッチングサービスについて学んだりと、地域を良くする活動に取り組んでいます。



世界が広がるつくばの学び

田中さん(52歳) つくば市居住歴2年 市内企業勤務。夫婦2人+息子1人(高校3年生)の3人暮らし。



あなたの学びのきっかけは？

私には精神障害があります。子どもの進学を機につくば市に引っ越し、私も市内の企業へ転職しました。慣れない仕事に悩んでいたとき、同僚が「市の生涯学習講座がおススメですよ！」と声をかけてくれたんです。障害の有無に関係なく自由に学べる環境と聞き、少し関心を持ちました。



どのような講座に参加しましたか？



私は人が多い場所が苦手なため、初めはオンラインで参加しました。参加してみると、字幕や手話通訳もありました。講座のテーマは「職場のコミュニケーション術」で、笑いも交えた講師の話が心に残りました。自分がわからなかったところはアーカイブ視聴で何度も見直せたのも良かったです。さらに、市では障害の種類や程度に沿った学びの場も設けていると聞き、安心感を持ちました。それで、今度はリアルで参加してみようと思ったんです。

他にはどんなものに参加しましたか？困ったことは？

国際交流セミナー、障害者スポーツ教室、自然体験会など、時にはオンライン、時にはリアルで参加し、参加を重ねるほどいろんな人・知識に出会え、世界が広がっていきました！課題はハード面・ソフト面とありますが、サポートしてくれる人もいますし、何より参加者同士で助け合える雰囲気があるので、今では私も同じ障害のある人などに講座参加時のコツを教えるなど支える立場になることも増えました。



学んだことで何か変化したことは？



つくば市が大好きになり、市の魅力を伝えたいと思い個人的にSNSで発信していたら「あなたの地域について、もっと知りたい！」とインドの方からメッセージが届き、セミナーで出会ったインド人の友人の力を借りながら交流をはじめました。人が多い場所が苦手な私が、つくばの学びに参加したことで、多くの人と関わって、世界ともつながっているなんて！これからも、つくば市は、だれもが多くの選択肢を持ち、選び、成長できるまちなんだよ！ということを伝えていきたいです。

55歳の誕生日、人生が少し動き出した日



中村さん(70歳) つくば市居住歴35年 転勤を期につくば市に。研究職員として市内企業に勤めていました。現在は夫婦2人+犬1匹暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

人生の折り返し地点も過ぎた55歳の誕生日。我が子から「私たちばかりに構っていないで、そろそろお父さんも新しいこと、始めてみたら？」

そのひと言で自分のこれからについて考えるようになりました。

実はその少し前、お世話になった先輩が「定年退職後、やることがなくて毎日が長い」と言っていたのを聞いたんです。長年、第一線で活躍してきた知識も経験も豊富な人が急に居場所をなくしてしまったみたいで…。

「自分も同じようになってしまうのでは？」そんな不安もあった中で、**市のSNS**で「セカンドライフを考えよう」という講座の案内を見つけたんです。家族も背中を押してくれたので、思い切って申し込んでみました！



参加した講座はどうでしたか？

仕事後に参加できる夜間の連続講座で、自分のこれまでの人生や得意なこと、価値観を振り返るワークから始まり、**趣味の見つけ方や講座の紹介、地域との関わりについて**も学びました。

地域の人とはあいさつ程度の関係だったので、何か始めるなら、自分の経験が生かせて、さらに、地域の人と関わることがいいなと思うようになりました。

実際にはどんなことを始めたのですか？

研究職員として働いていた当時は、負担の少ない形で**科学教室を行う地域団体のサポートメンバーとして関わること**にしました。

地域の子どもや大人が一緒になって楽しそうに実験に取り組む姿を見ると、自分の知識や経験が誰かの「わくわく」につながっている実感がありました。何とも言えないやりがいを感じ、先輩にも手伝ってもらいました。



その後、活動を続けてみていかがですか？

仕事を引退して時間ができた今は、**団体の講師だけでなく市主催の講座の講師となったり**、私のようにサポートとして手伝ってくれている人を**次の講師となるように育てたり**しているところです。

活動を通じて仲良くなった人たちとは、近所で一緒にお茶をしたり、山登りをするようになり、心身共に健康的な生活を送っています。思い切って一步踏み出したことで、人生がより豊かになりました！

ちなみに、先輩も生涯学習活動への参加をきっかけに、生きがいを見つけたようです。今では目指せ120歳!とはりきっていますよ。



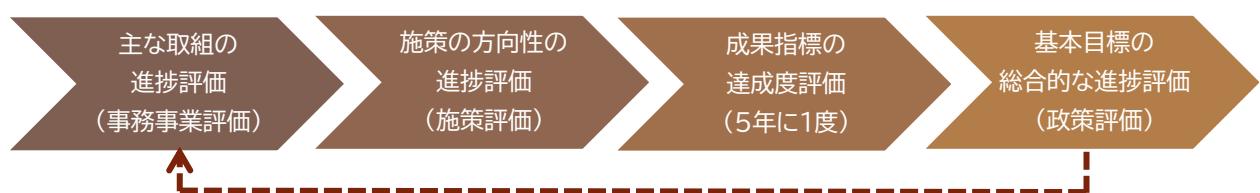
第5章 計画の推進

5-1 計画の進行管理と推進体制

(1) 計画の進行管理

本計画では、第4次計画の基本理念を実現するために、基本目標ごとに位置づけている「施策の方向性」を評価の中心的な単位として進行管理を進めることとします。

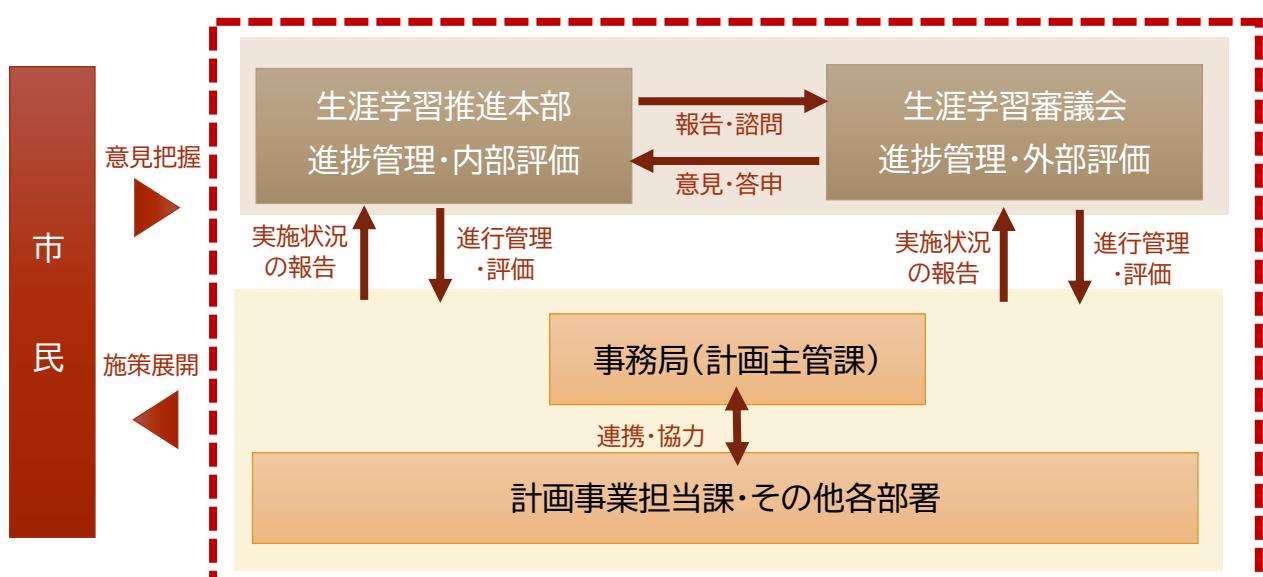
進行管理にあたっては、①成果指標の達成度、②施策の方向性の進捗評価（施策評価）、③主な取組の進捗状況を評価し（事務事業評価）、それらを総合的に踏まえて、基本目標の進捗（政策評価）を行います。評価の結果をもとに、PDCAサイクルによる進行管理を進めます。



(2) 計画の推進体制

本計画の推進体制は、各部長等で構成される「生涯学習推進本部」及び市議会議員、各種団体等の代表者、学識経験者、市民委員から構成される「生涯学習審議会」、そして両会議に実施状況の報告を行う事務局と関係各課で構成するものします。

また、計画全般の進行管理や評価は、事務局及び関係各課からの実施状況の報告に基づき「生涯学習推進本部」において実施し、「生涯学習審議会」に報告・諮問します。「生涯学習審議会」は諮問を受けて審議を行い、今後の取組の改善にいかしていきます。



5-2 成果指標と目標の設定

計画全般にわたる成果指標は、基本理念の実現に向けて、基本方針1および基本方針2の趣旨に沿ったもの、また、計画全体の評価をはかるものとして、市民意識調査等から次の通り設定しました。

成果指標		現況値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和11年度 (2029年度)
基本方針1			
1	生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	81.9%	85%
2	実際に取り組んだ人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	65.0%	70%
基本方針2			
3	自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	44.1%	50%
4	学びの成果をどのようにいかしているか、いかせると思うか、の質問で「地域や社会での活動にいかしている（いかせる）」を選択した人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	13.8%	20%
5	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	79.5%	85%
6	地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合(学校の授業、課外授業での体験なども含む。塾や習い事は除く。) (児童生徒WEBアンケート)	54.5%	60%
計画全体の評価			
7	市の政策のうち、生涯学習に満足・どちらかといえば満足な人の割合 (つくば市民意識調査)	31.3%	40%

資料編

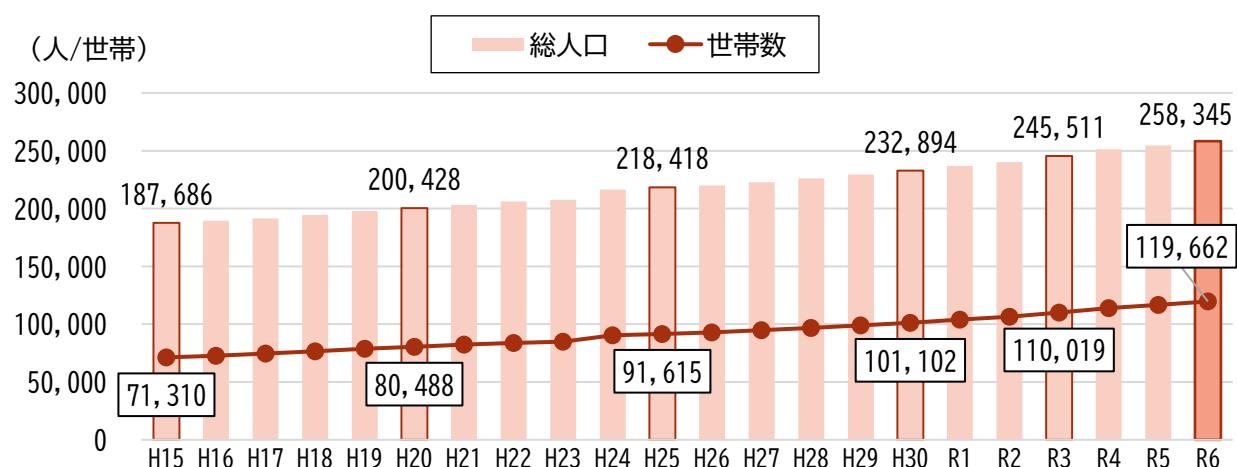
1 計画策定に関するデータ

資料 1-1 つくば市の人口等の状況

(1) 人口等

本市の総人口及び世帯数は一貫して増加傾向にあります。令和6年(2024年)10月1日現在の住民基本台帳によると、人口 258,345 人・世帯数 119,662 となっており、第3次計画が始まった令和3年度(2021年度)の同月同日と比較すると 12,834 人・9,643 世帯の増加となっています。

■総人口・世帯数の推移（各年 10月 1日現在）

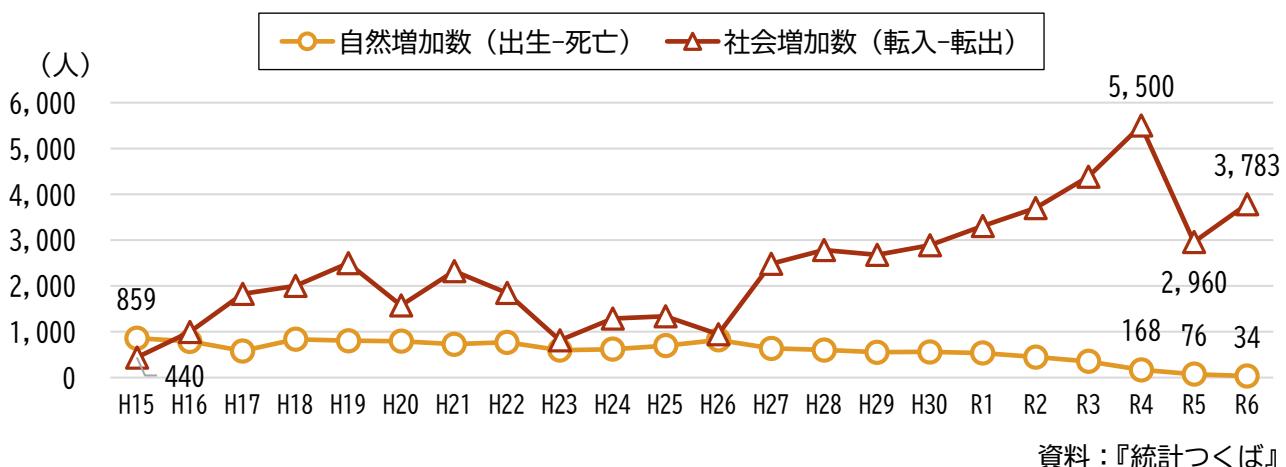


資料：『統計つくば』及び令和6年度行政区別人口表（つくば市）
※住民基本台帳人口は、平成24年(2012年)8月以降の資料には外国人住民を含む。

(2) 人口動態

人口動態をみると、自然増加数は減少傾向にあります。社会増加数は平成27年(2015年)以降著しく増加傾向にありましたが、令和4年(2022年)から令和5年(2023年)にかけて大幅に減少し、令和6年(2024年)に再び増加しています。

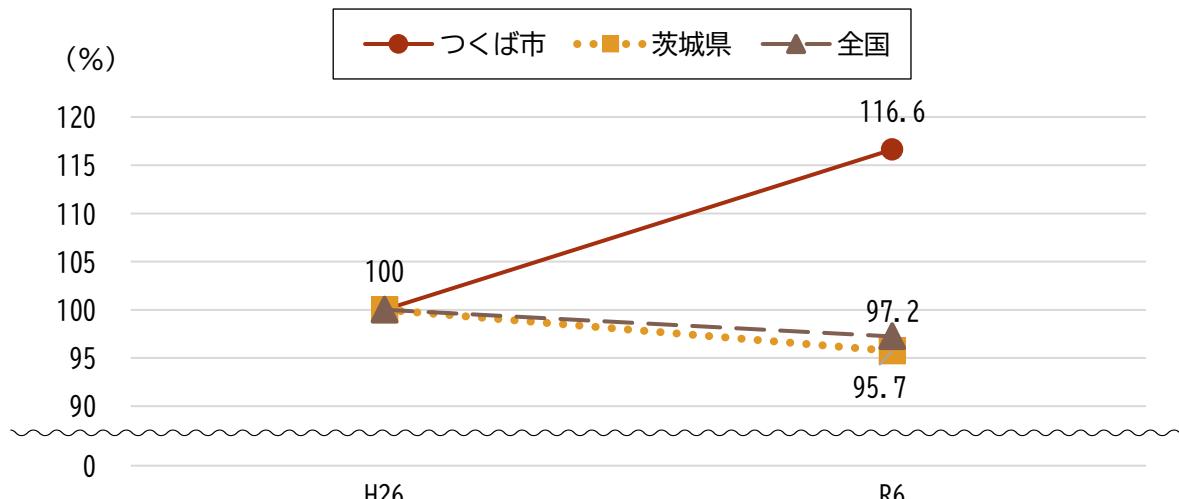
■人口動態（各年 1月 1日～12月 31日 累計）



(3) 人口推移の比較（全国・茨城県）

平成 26 年(2014 年)を 100 とした場合の令和 6 年(2024 年)の人口を茨城県や全国と比較すると、県や国がやや減少しているのに対して、本市は増加が目立っています。

■人口推移の比較（平成 26 年(2014 年)=100）各年 1 月 1 日現在

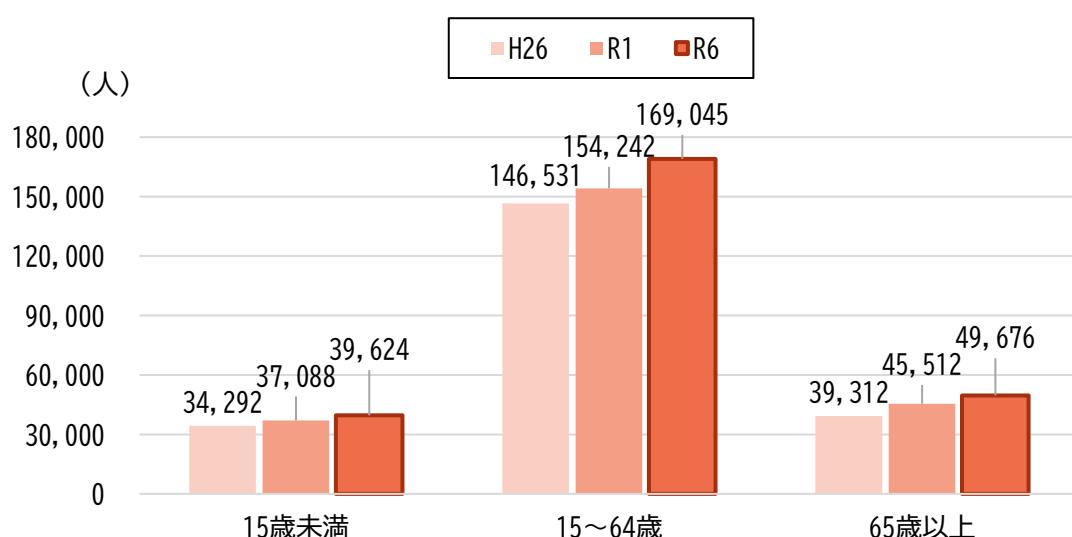


資料：住民基本台帳人口データ（平成 26 年 1 月 1 日、令和 6 年 1 月 1 日）

(4) 年齢 3 区分別人口の推移

年齢 3 区分別人口の推移をみると、本市の人口はどの区分も増加しています。

■つくば市の年齢 3 区分別人口の推移

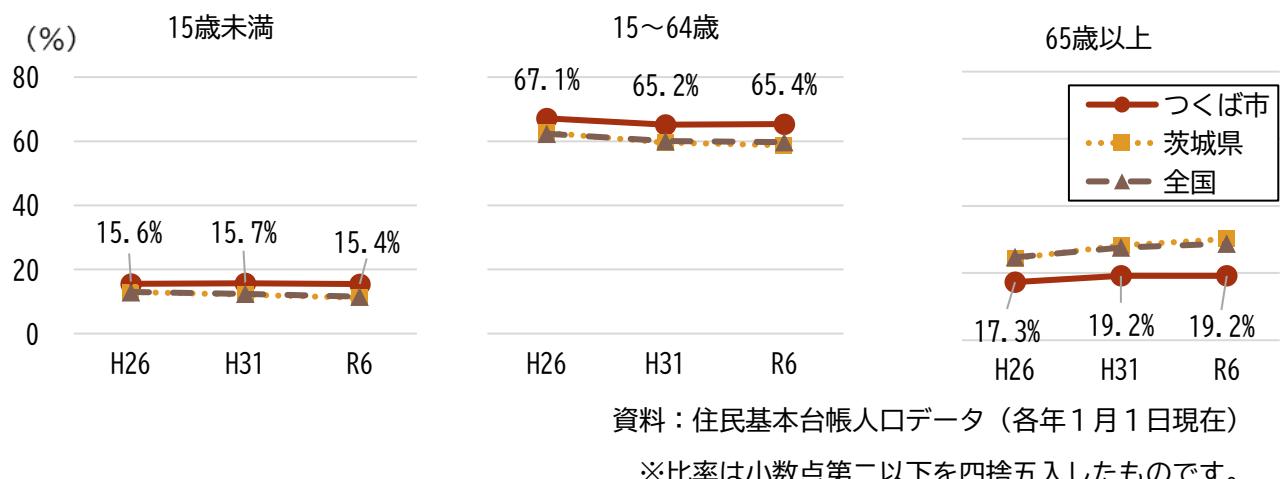


資料：行政区別年齢別人口表(つくば市) 各年 10 月 1 日現在

(5) 年齢3区分別人口比率の推移（全国・茨城県）

年齢3区分別の人口比率を全国や茨城県と比較すると、本市の15歳未満及び15～64歳は国や県よりもやや多く、65歳以上は少なくなっています。推移をみると、本市の15歳未満は横ばい、15～64歳は減少からの横ばい、65歳以上は増加からの横ばいとなっており、国や県と比べて高齢化率は低くなっています。

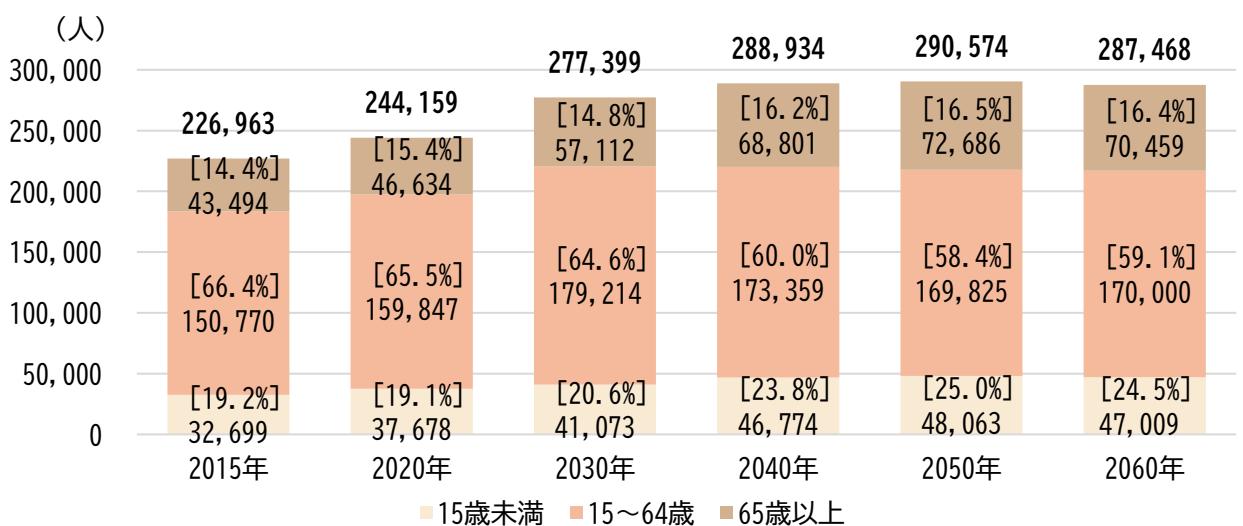
■年齢3区分別人口比率の経年比較



(6) 将来人口

「未来構想（2020年3月）」における将来推計人口によると、本市の人口は、令和30年（2048年）ごろの約29万人をピークに、その後は緩やかに減少に転じると想定されています。年齢3区分別の人口比率は、ピーク時までは65歳以上の比率が増加すると推計されています。

■将来人口の推計及び構成



資料：政策イノベーション部企画経営課

資料 1-2 つくば市の主な生涯学習関連施設の状況

(1) 地域交流センター

本市の地域住民の社会教育を担う施設として、各地区で公民館が整備され、各種講座や学級、図書貸出などが行われてきました。その後、平成 22 年(2010 年)12 月策定の「つくば市地域交流センター基本計画」により、公民館の在り方を見直し、市民にとってより利便性の高い生涯学習施設となるよう、「地域交流センター」として運営体制を変更しました。令和 7 年度(2025 年度)現在では 16 か所の地域交流センターを設置しており、市民の様々な活動のための利用がなされています。

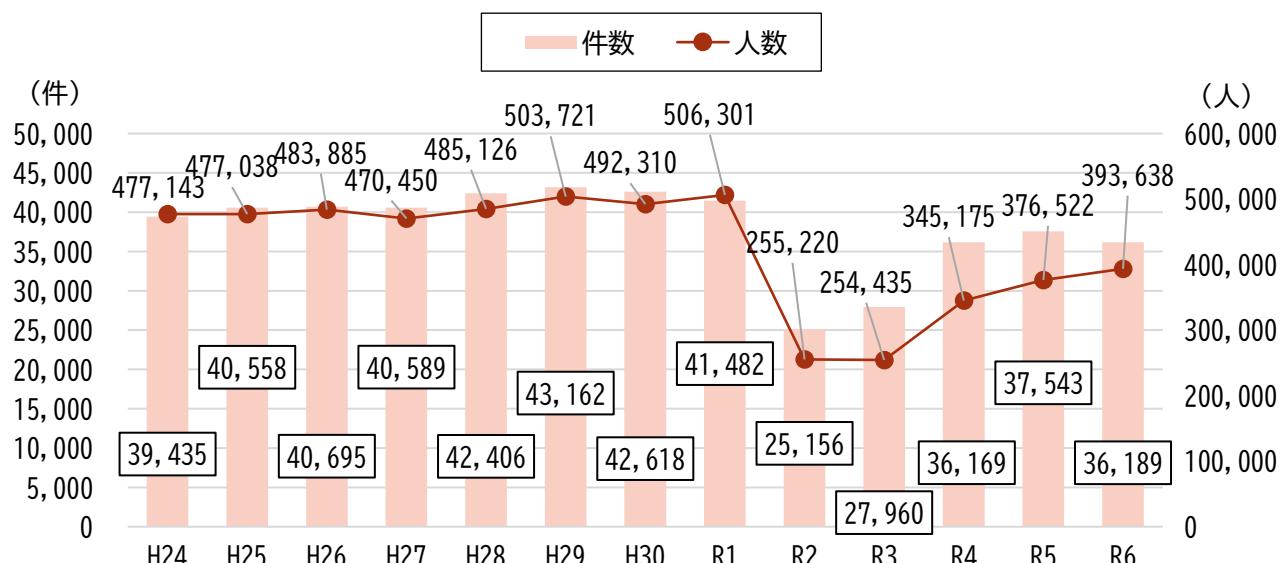
【利用状況】

利用状況をみると、概ね 4 万件(利用者は概ね 50 万人台)の利用で推移しており、新型コロナウィルス感染症の感染拡大により一時利用が減少しましたが、近年は徐々に回復傾向にあります。コロナ以前の令和元年度(2019 年度)と令和 6 年度(2024 年度)を比較すると、利用件数では約 9 割、利用人数では約 8 割まで回復しています。

各施設の利用件数の推移をみると、令和 6 年度(2024 年度)では多くの施設がコロナ以前の令和元年度(2019 年度)の 8 割以上まで回復しており、栗原交流センターではコロナ以前の利用件数を大幅に超えています。

一方、筑波交流センターでは他の施設と比べると回復率がやや低く、令和 6 年度(2024 年度)では 5 割程度に留まっています。

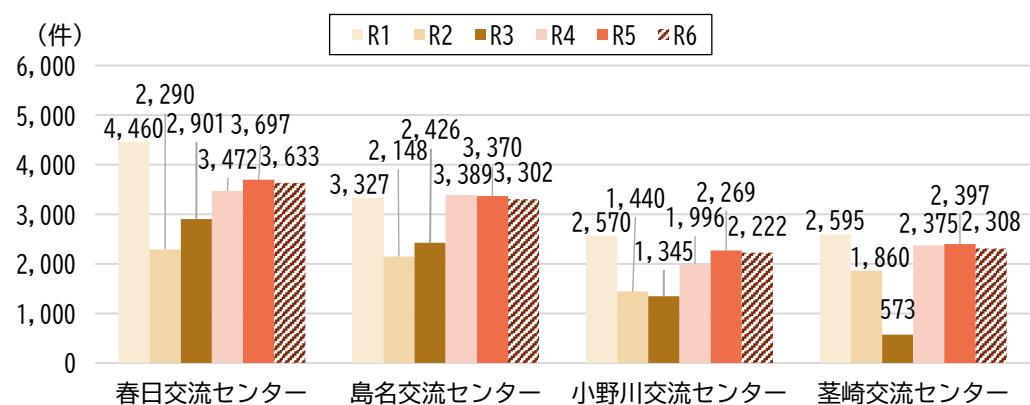
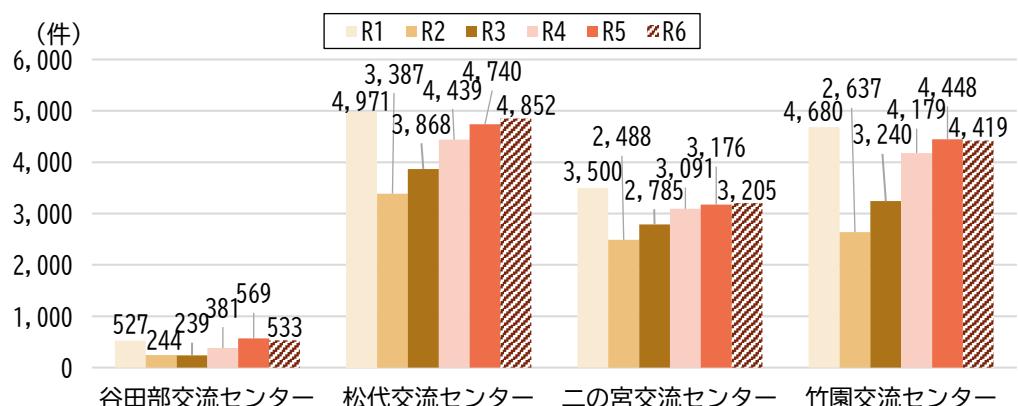
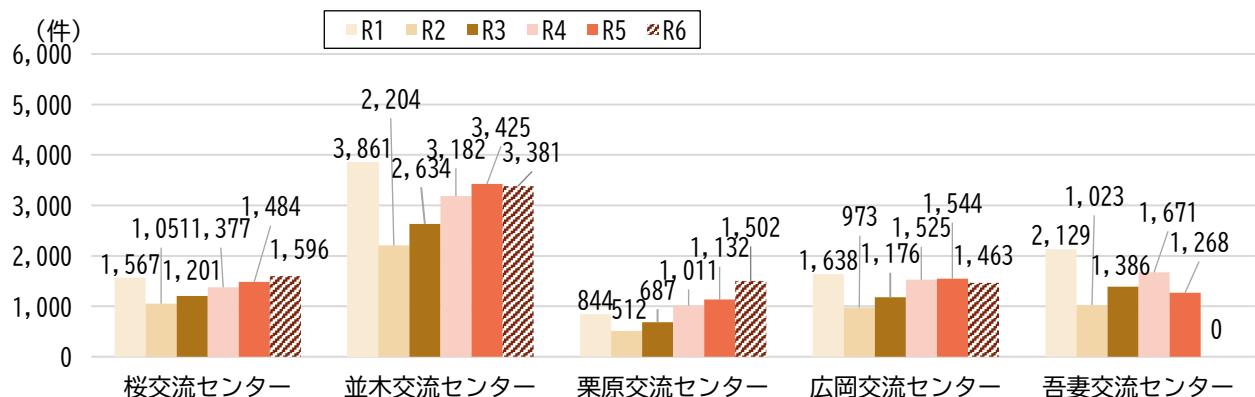
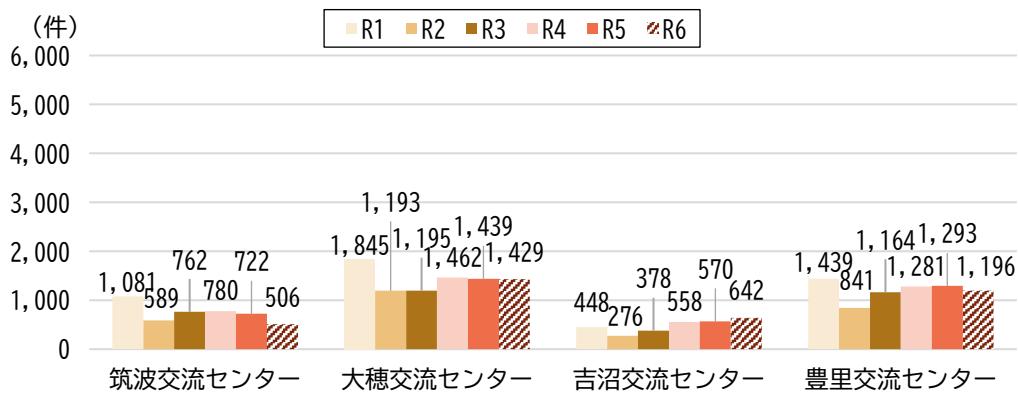
■地域交流センターの利用状況(各センターの合計)



資料:『統計つくば 2024』

※吾妻交流センターは令和 5 年(2023 年)12 月末をもって閉館のため、令和 6 年からは含まない。

■地域交流センターの利用件数の推移（施設別）



資料:『統計つくば 2024』

※吾妻交流センターは令和5年（2023年）12月末をもって閉館のため、令和6年からは含まない。

(2) ホール（ノバホール・つくばカピオ・市民ホール・アルスホール）

本市の文化芸術の振興を目的として、1,000席の大ホールを有するノバホール、アリーナ等の多目的な利用に対応したつくばカピオ、その他、市民ホールを4か所設置しています。また、中央図書館があるつくば文化会館アルス内には、100名規模のアルスホールも有しております、幅広い市民のニーズにこたえています。

【利用状況】

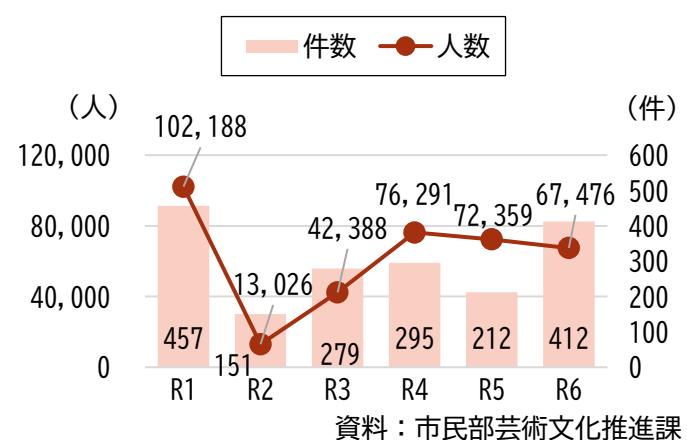
利用件数・利用人数共に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和2年度（2020年度）に利用が減少しましたが、近年は徐々に回復傾向にあります。

コロナ以前の令和元年度（2019年度）と令和6年度（2024年度）を比較すると、ノバホールについては、利用件数は約9割まで回復していますが、利用人数は令和5年度（2023年度）から再び減少し、約7割程度となっています。

つくばカピオと市民ホールでは、利用件数はコロナ以前を超えており、利用人数についても約8割以上回復しています。アルスホールでは利用件数が近年増加傾向にあります。令和6年度（2024年度）は改修工事による利用時間の制限のため大幅に減少しています。

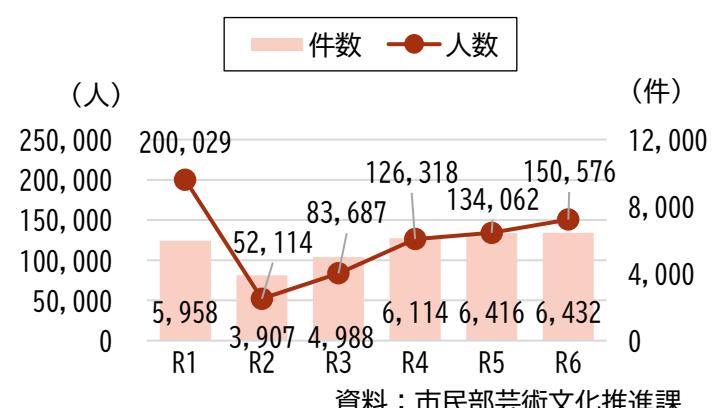
①ノバホール

国内有数の音響効果を持つ音楽ホールである大ホールと小規模な演奏会に対応した小ホールからなり、オーケストラやコンサートなどを始め、映画、演劇等の鑑賞会や市民オーケストラ、市民劇団の発表等、地域の芸術・文化活動の拠点として利用されています。



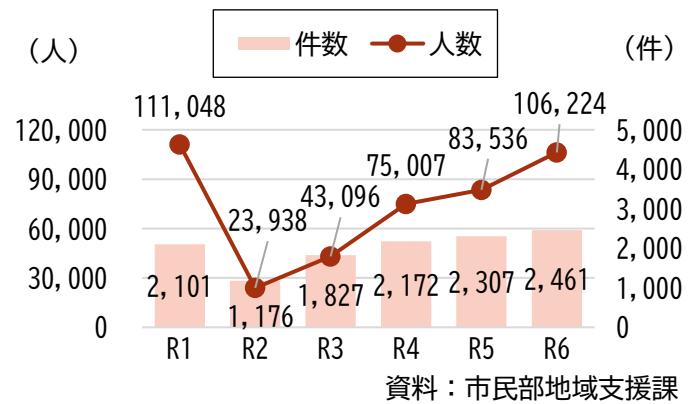
②つくばカピオ

各種室内スポーツや集会などの多目的な利用のためのアリーナ、演劇利用を主目的とした劇場、その他文化関係の諸室によって構成されており、幅広い市民のニーズに対応した施設となっています。



③市民ホール

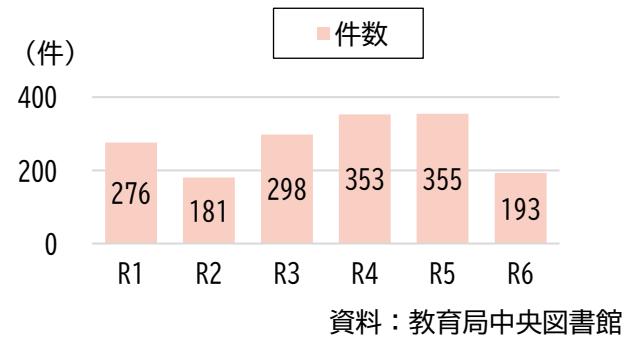
つくば市合併以前に各町村にあった県民センター内のホールを、引き続き市民の文化と教養の向上を図り、市民福祉に資するため、市民ホールとして4か所（やたべ、くきざき、とよさと、つくばね）に設けています。



資料：市民部地域支援課

④アルスホール

つくば文化会館アルス内に設置された100名収容できる多目的ホールで、音楽会や講演会といった文化芸術活動の場として利用されています。



資料：教育局中央図書館

(3) 図書館

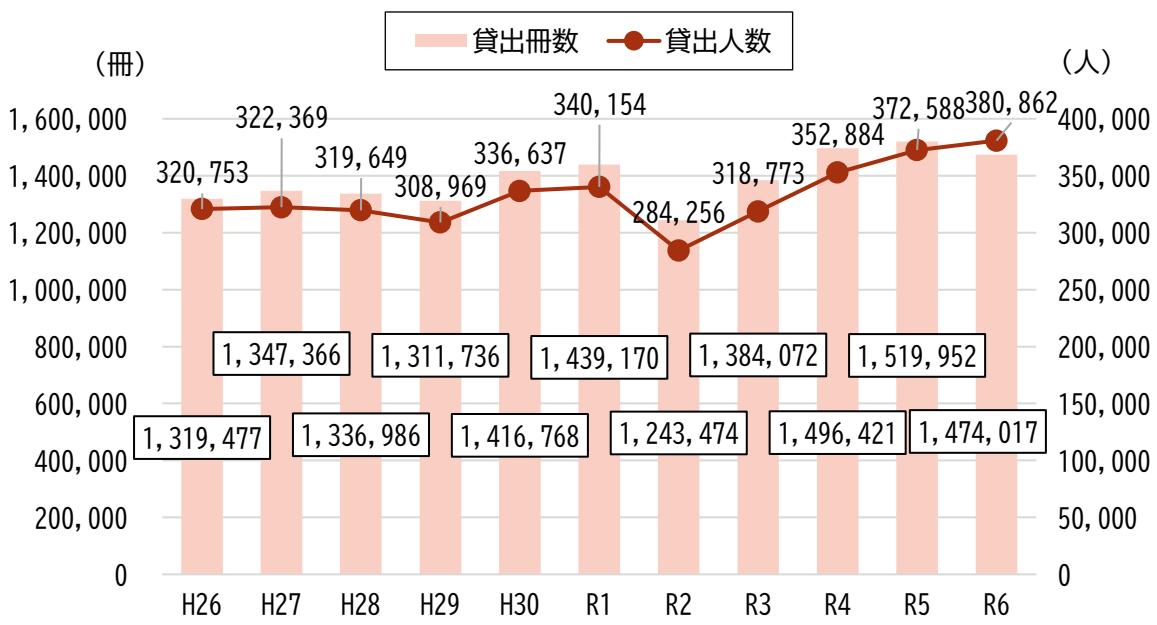
本市では、市民の生涯学習を支援するとともに、文化情報資源を受発信する「知」の拠点として、中央図書館及び4か所の地域交流センター図書室（谷田部・筑波・小野川・茎崎）に加え、土日祝のみ一般利用可能な小学校図書館（研究学園小学校、みどりの南小学校）が設けられています。また、図書の検索や予約、リクエストなどが可能なオンラインサービスも提供しており、各図書施設と連携した一体的な図書館サービスを実施しています。

さらには、いつでもどこでも読書ができる電子図書館サービスや、広い市内にあっても図書館サービスが利用できるよう、小学校や高齢者施設など市内63か所（令和7年度（2025年度）現在）のステーションを巡回する自動車図書館、送付貸出・返却サービスも実施しています。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和2年度（2020年度）に大きく減少したものの、翌年からは回復傾向にあり、貸出人数は30万人を超えるペースで推移しています。貸出冊数も同様に140万冊から150万冊程度で推移しています。平成30年度（2018年度）からの開館時間の延長もあり、令和6年度（2024年度）では貸出人数が近年最も多くなっています。

■図書館の利用状況



資料：『統計つくば2024』
※貸出冊数は交流センター図書室、自動車図書館、学校図書館、電子書籍を含む。

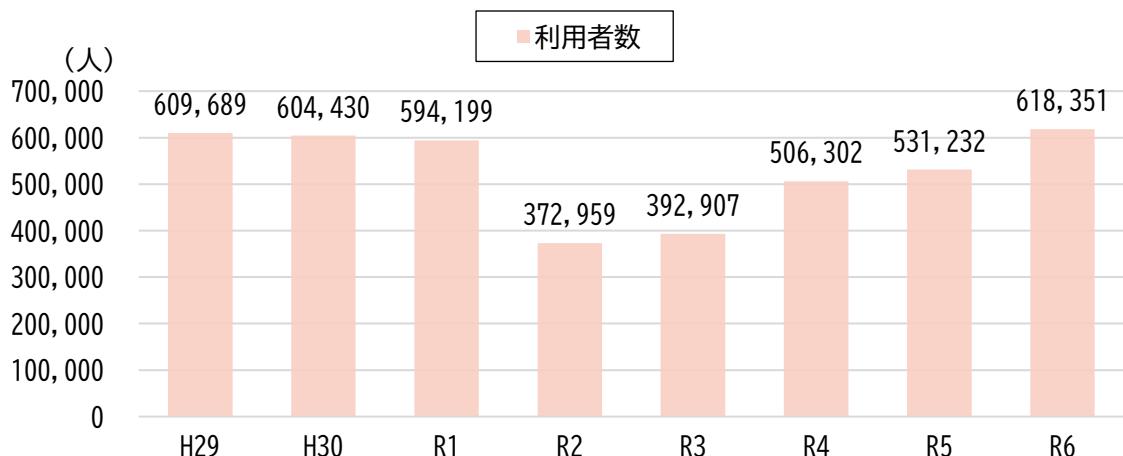
(4) スポーツ関連施設（体育館等）

市内には、多くの市民がスポーツに取り組めるよう、体育館、テニスコート、武道場、野球場やサッカーコートなど、様々なスポーツのニーズに対応した施設を有しています。また、多くのスポーツ施設は、オンラインでの利用予約が可能であり、市民の利便性を高めています。

【利用状況】

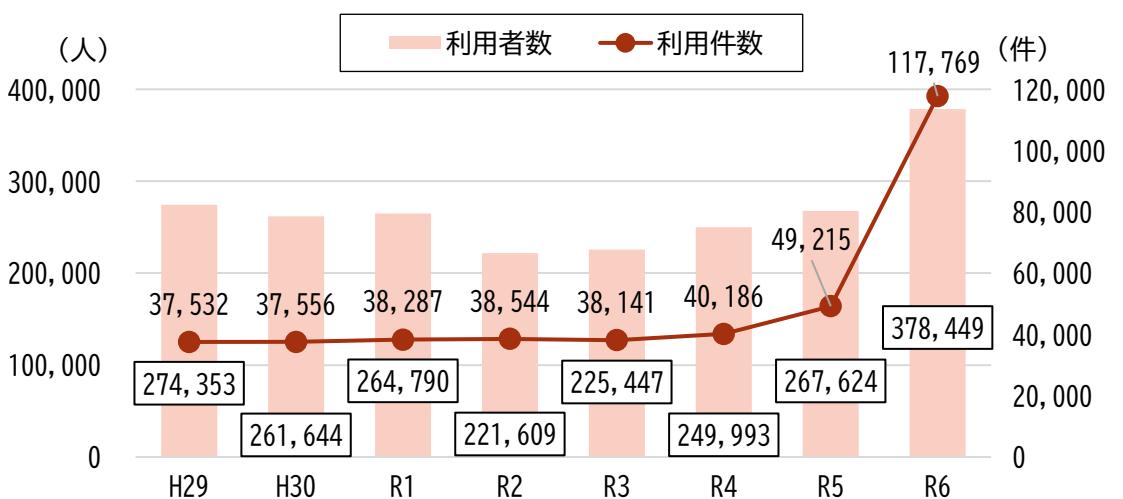
近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和2年度から3年度（2020年度から2021年度）に大きく利用が減少したものの、翌年からは回復傾向にあります。

■スポーツ施設の利用者数（スポーツ施設課管理 有料施設分）



資料：『主要施策の成果及び予算執行の実績報告書』

■スポーツ施設の利用者数（公園・施設課管理 有料施設分）



資料：『主要施策の成果及び予算執行の実績報告書』

※流星台スケートボードパークが令和5年4月新設、洞峰公園が令和6年2月に県から市に移管。

(5) 学校開放事業

「つくば市学校開放条例」に基づき、特別教室や体育館といった一部の学校施設を学校教育に支障のない範囲において開放し、市民の利用に供することにより、生涯学習及びスポーツの振興を図ることを目的として、つくば市学校開放事業を実施しています。

【特別教室の利用状況】

令和7年（2025年）3月時点で、小学校3校にある8つの特別教室を、土曜日・日曜日・祝日に貸し出しています。本事業は令和5年（2023年）10月に開始され、令和6年度（2024年度）は63回の利用がありました。

■特別教室

	特別教室
香取台小学校	家庭科室、図工室、音楽室
研究学園小学校	家庭科室、多目的室
みどりの南小学校	家庭科室、音楽室、多目的室

【学校体育施設の開放状況】

学校体育施設については、体育館、武道場、運動場を開放しています。令和7年（2025年）3月時点で、49校の体育施設で開放を行っており、多様なスポーツ・レクリエーション活動に利用されています。

■学校体育施設の開放状況（推移）

（単位：施設）

	R 3	R 4	R 5	R 6
体育館	45	45	46	49
運動場	32	32	30	29
武道場	12	12	12	13

(6) 文化財関連施設

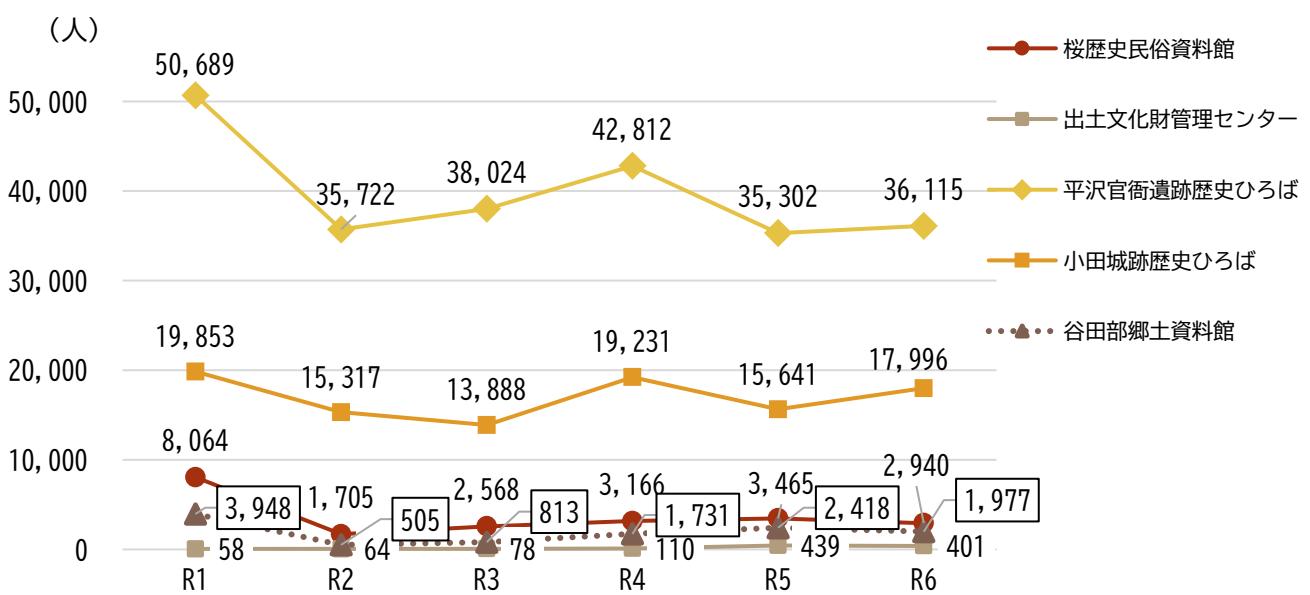
本市には古代の郡役所跡や中世の城館などの歴史的にも貴重な遺跡や、それらの遺跡から出土した土器や地域の文化財を展示する施設が市内各所にあります。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和2年度（2020年度）に大きく減少し、翌年からは増減はありますが概ね回復傾向にあります。

なお、出土文化財管理センターに関しては、令和6年度（2024年度）にはコロナ以前よりも高い利用状況となっています。

■各文化財関連施設の利用状況推移



資料:教育局中央図書館

※平沢官衙遺跡歴史ひろばは、令和5年度から令和8年度まで再整備工事を実施(一部立入禁止の箇所あり)

①桜歴史民俗資料館

桜地区内にある多数の発掘出土品、民具、古文書等を保存、展示しています。ナウマン象の化石や縄文時代の料理など、貴重で興味深い展示が多数そろっています。

②出土文化財管理センター

市内の遺跡発掘調査による出土品を保管、一部を展示しています。

③平沢官衙遺跡歴史ひろば

平沢官衙遺跡は、古代（奈良・平安時代）の常陸国筑波郡の郡役所跡と想定される遺跡で、昭和55年（1980年）に国の史跡指定を受けました。校倉、土倉、板倉の3棟を復元して古代空間を再現し、案内所を併設しています。

④小田城跡歴史ひろば

小田城跡は、鎌倉から戦国時代まで常陸国南部で最大の勢力を誇った小田氏の居城跡で、昭和10年（1935年）に国の史跡指定を受けました。堀と土塁に囲まれた本丸空間内に池等を復元しており、小田氏と小田城跡について学習できる案内所も設けています。

⑤谷田部郷土資料館

谷田部地区内の文化財を収集し、展示したもので、江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の復元品があります。

(7) その他の生涯学習関連施設

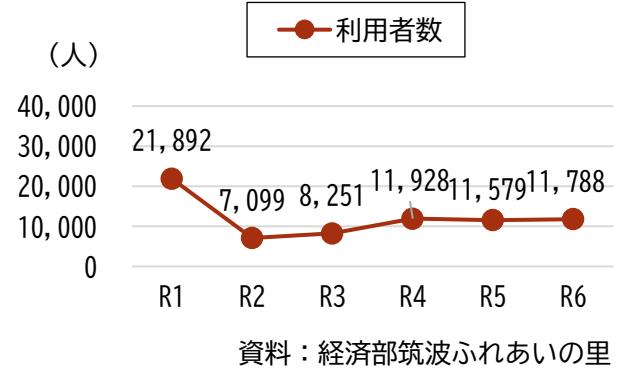
その他、本市では生涯学習に関する取組を各施設で行っています。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で利用者数や利用件数が減少していましたが、殆どの施設において令和2年度（2020年度）以降、概ね年々増加し回復傾向にあります。なお、令和6年度（2024年度）の利用者数をみると、⑧さくら民家園、⑨働く婦人の家については、コロナ以前の利用者数を上回っています。

①筑波ふれあいの里

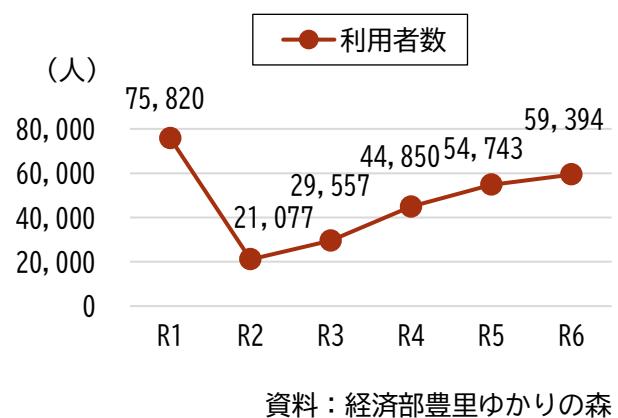
筑波山麓の豊かな自然環境の保全や活用を通じて、学童、都市生活者及び市民等に自然と農業に親しむ機会、憩いの場として設置されています。



資料：経済部筑波ふれあいの里

②豊里ゆかりの森

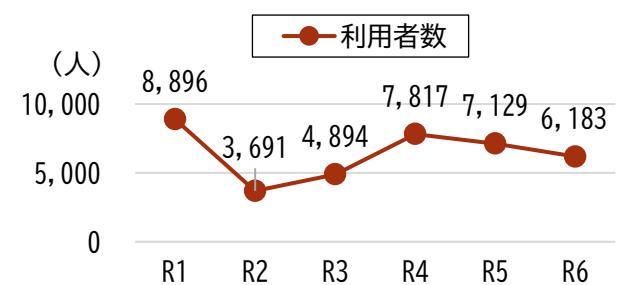
植物、昆虫、野鳥等とふれあえる豊かな自然環境のなか、体験・宿泊余暇活動の施設として、快適な環境を提供することにより、利用者のやすらぎと自然環境保護思想の普及及び向上に寄与することを目的に設置されています。



資料：経済部豊里ゆかりの森

③茎崎こもれび六斗の森

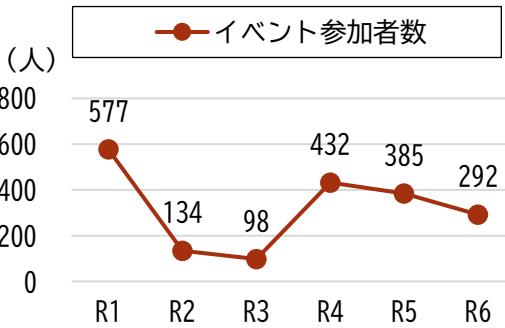
自然とのふれあい及び野外活動の場として、キャンプ場などが整備されています。



資料：経済部茎崎こもれび六斗の森

④高崎自然の森

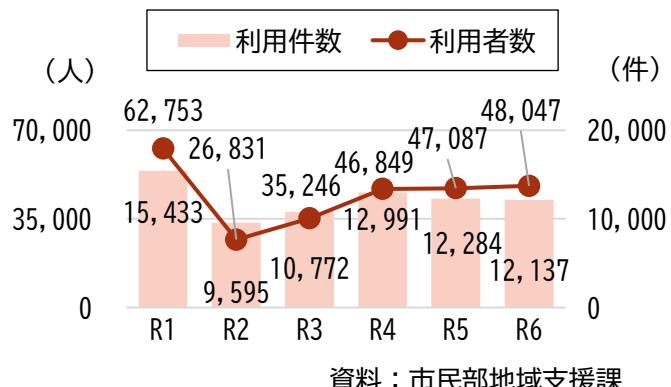
自然環境の保全と緑の育成を図り、人と自然とのふれあいの場を提供するとともに、自然環境や森林資源を活用した自然環境教育や森づくり体験、農業体験などにより、森林が持つ公益機能の理解や自然環境保全の取組について学ぶことができる施設です。



資料：経済部鳥獣対策・森林保全室

⑤ふれあいプラザ

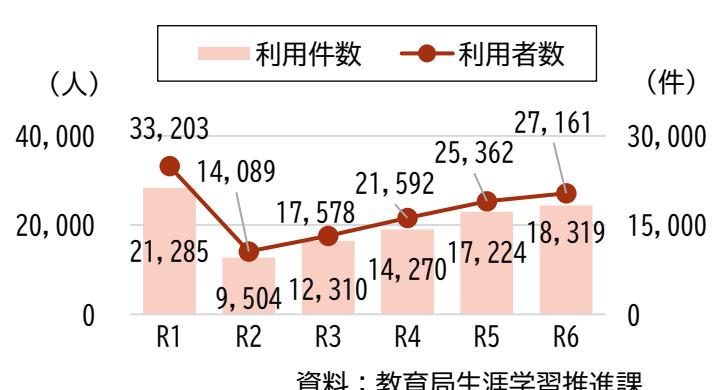
市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現に寄与するために設置されました。



資料：市民部地域支援課

⑥市民研修センター

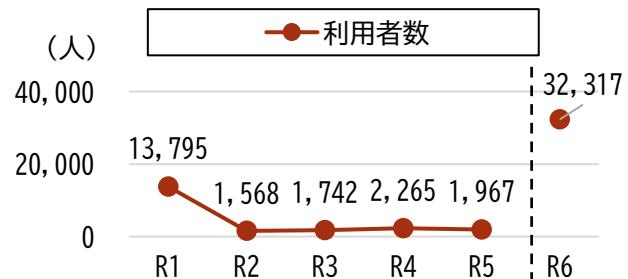
市民の生涯学習活動や企業研修の場として、幅広い利用に対応できる施設です。



資料：教育局生涯学習推進課

⑦つくば市民センター

市民活動センターと吾妻交流センターを令和6年（2024年）1月に閉館し、同年2月につくば市民センターが開館しました。市民の主体的な活動を支援するとともに、幅広い層の市民が集い交流し、地域に愛着と誇りを持って暮らせる地域社会の形成を図ることを目的とした施設です。市民活動拠点コリドイオ内に設置されています。なお、つくば市民センターの令和6年度利用者数は32,317人となっています。

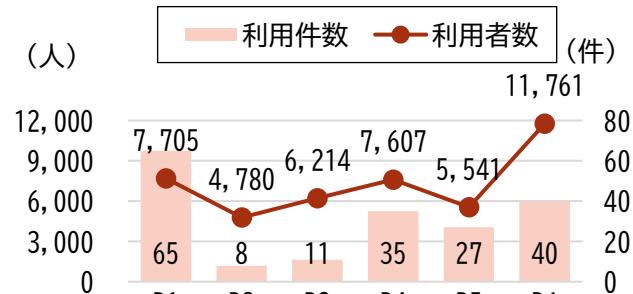


※令和5年度までは市民活動センターと吾妻交流センターの合計。令和6年度はコリドイオ内設置後の利用者数。

資料：市民部つくば市民センター

⑧さくら民家園

伝統的古民家を移築し、一般公開しており、市内の学校の授業で活用されています。



資料：教育局生涯学習推進課

⑨働く婦人の家

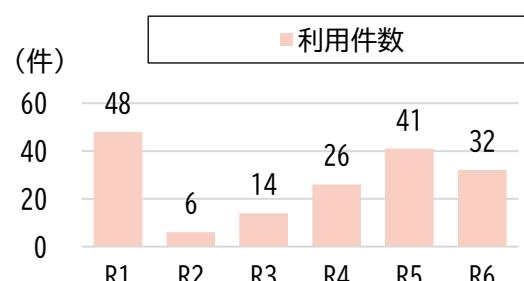
勤労者やその家庭の主婦などのほか、これから働くことを希望する女子勤労者のために相談・指導・実習などを行い、知識・教養の向上と休養及びレクリエーションの場を提供しています。前期・後期・冬期に各種講座を開設します。



資料：市民部働く婦人の家

⑩つくば市民ギャラリー

中央公園内にあるレストハウスの一角を利用したギャラリーです。美術を目的とする利用を優先いたしますが、予約に空きのある場合は、音楽会や各種ワークショップ等、その他の目的でもご利用いただけます。



資料：建設部公園・施設課

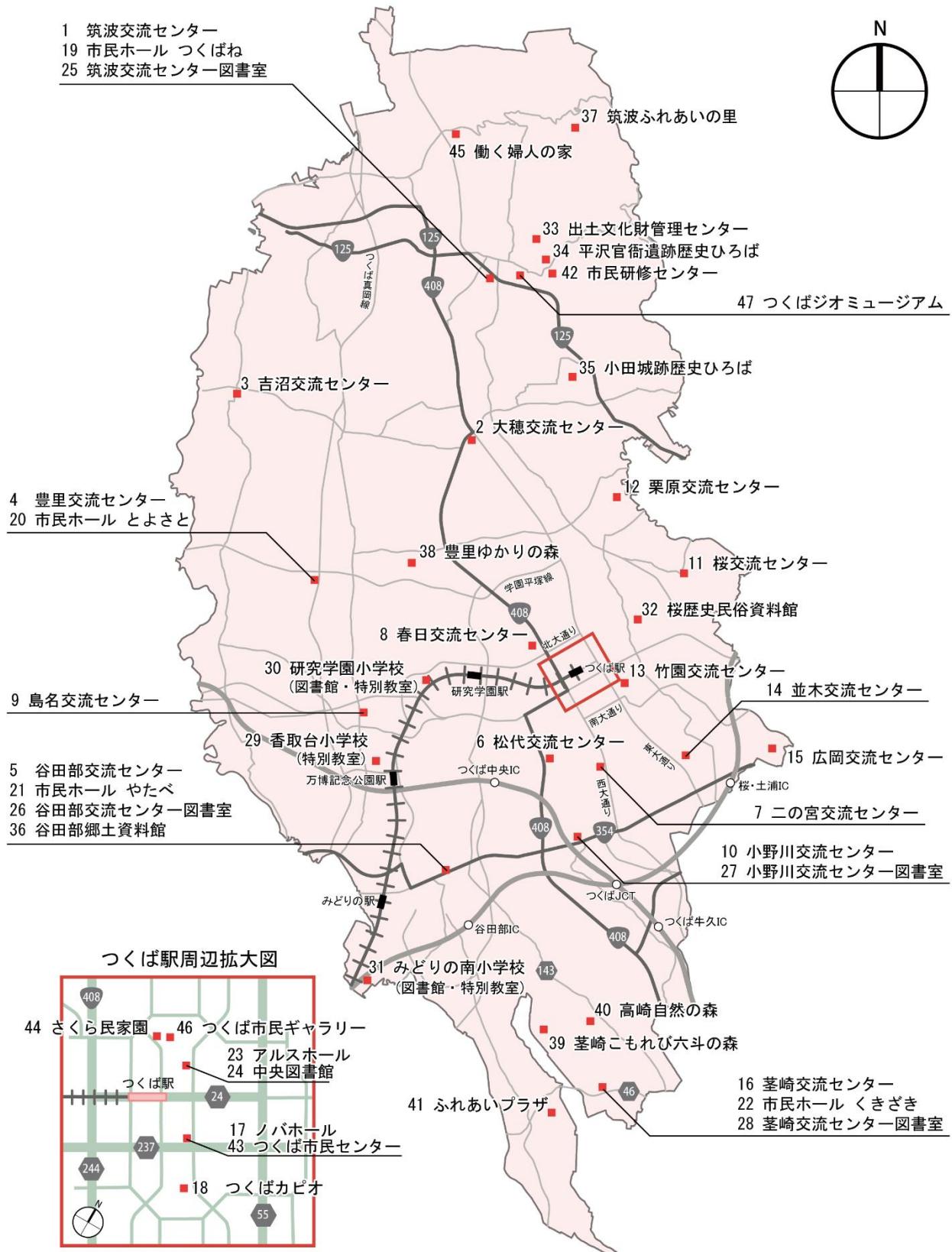
⑪つくばジオミュージアム

筑波山地域ジオパークの中核となる拠点施設として令和5年（2023年）11月に開設しました。1階展示スペースは、教育や観光振興を目的とした自然や文化を次世代に伝える体験型展示施設となっています。なお、当施設はサイクリング文化を支援する「サイクルパークつくば」との複合施設（筑波山ゲートパーク）となっています。



資料：経済部ジオパーク室

■施設位置図



■施設位置一覧

No	施設名	住所	No	施設名	住所
地域交流センター			図書館		
1	筑波交流センター	北条 5060	24	中央図書館	吾妻 2-8 つくば文化会館 アルス内
2	大穂交流センター	筑穂 1-10-4	25	筑波交流センター 図書室	北条 5060
3	吉沼交流センター	吉沼 790	26	谷田部交流センター 図書室	谷田部 4774-18
4	豊里交流センター	高野 1197-20	27	小野川交流センター 図書室	館野 477-1
5	谷田部交流センター	谷田部 4774-18	28	茎崎交流センター 図書室	小茎 318
6	松代交流センター	松代 4-16-3	29	研究学園小学校 小学校図書館	研究学園 2-26
7	二の宮交流センター	二の宮 4-6-2	30	みどりの南小学校 小学校図書館	みどりの南 106-3
8	春日交流センター	春日 2-36-1	学校開放事業（特別教室）		
9	島名交流センター	島名 784-30	31	香取台小学校	島名 1716
10	小野川交流センター	館野 477-1	29 ※	研究学園小学校	研究学園 2-26
11	桜交流センター	松塚 1036-2	30 ※	みどりの南小学校	みどりの南 106-3
12	栗原交流センター	栗原 5386-2	文化関連施設		
13	竹園交流センター	竹園 3-19-2	32	桜歴史民俗資料館	流星台 61-1
14	並木交流センター	並木 4-2-1	33	出土文化財管理センター	平沢 81
15	広岡交流センター	下広岡 410-167	34	平沢官衙遺跡歴史ひろば	平沢 353
16	茎崎交流センター	小茎 318	35	小田城跡歴史ひろば	小田 2377
ホール			36	谷田部郷土資料館	谷田部 4774-18
17	ノバホール	吾妻 1-10-1	他の生涯学習関連施設		
18	つくばカピオ	竹園 1-10-1	37	筑波ふれあいの里	臼井 2090-20
19	市民ホール つくばね	北条 5060	38	豊里ゆかりの森	遠東 676
20	市民ホール とよさと	高野 1197-20	39	茎崎こもれび六斗の森	六斗 1002
21	市民ホール やたべ	谷田部 4711	40	高崎自然の森	高崎 1078-1
22	市民ホール くきざき	小茎 318	41	ふれあいプラザ	下岩崎 2164-1
23	アルスホール	吾妻 2-8 つくば文化会 館アルス内	42	市民研修センター	北条 1477-1
			43	つくば市民センター	吾妻 1-10-1 コリドイオ内
			44	さくら民家園	吾妻 2-7-5
			45	働く婦人の家	沼田 40-2
			46	つくば市民ギャラリー	吾妻 2-7-5
			47	つくばジオミュージアム	北条 4160

※は再掲

資料 1-3 市民意向の動向

(1) アンケート

市民の生涯学習の現状、生涯学習に対する考え方や要望等を把握し、本計画の策定や施策の推進に役立てることを目的として「つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート」(市民意識アンケート)、「児童生徒WEBアンケート」(児童生徒アンケート)の2種類の調査を実施しました。

1) 調査概要

調査対象	調査方法	調査期間	回収結果
①市民 (無作為抽出した 18歳以上市民)	郵送/WEB (選択式)	令和6年(2024年) 11月8日～25日	配付：3,000票
		※12/25 戻分まで反映	回収：769票 (紙:451/web:318)
			回収率：25.6%
②児童生徒 (5年生、8年生)	WEB	令和6年(2024年) 11月22日～ 12月24日	配付：4,796票 (5年2,637/8年2,159)
			回収：3,484票 (5年:1,822/8年:1,662)
			回収率：72.6% (5年:69.1%/8年:77.0%)

2) 結果概要

①市民意識アンケート 結果概要

- この1年で生涯学習に取り組んだ方が6割、今後学びたいと思っている方は8割以上。
- 現在、忙しくて学んでいない方が多く、簡単にできる学習方法が求められている。
- 学びの情報としては「講座・イベント」、「施設」の情報が求められている。
- 学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと考えている割合は4割強にとどまっている。
- 知識を得たり、役に立つことに幸せを感じる方は8割以上が多いが、地域との関わりが広がることに幸せを感じる方については6割とやや少ない。
- 「社会力」を高めるには「交流機会」の創出が重要との意見が多い。
- 世代ごとのニーズに合った講座等を求める意見が多く、高齢世代では成果をいかす場や仕組みづくり等の環境についての意見も多い。

■この1年間の「学び」について

- この1年で何かを学んだり、技能を高めたりしたことが「ある」方が6割以上となっており、手法は「自宅での学習」が最も多くなっています。
- 学びの成果については、「自分の人生を豊かにしている」や「仕事や就職の上でいかしている」が多くなっています。
- 現在学んでいない方の理由としては、「忙しくて時間がない」が最も多くなっています。
- 忙しくて時間がない方がどうしたら学習意欲がわくかについては、「簡単にできる学習方法があつたら」が最も多く、次いで「仕事等に必要な学習内容があつたら」となっています。
- 知りたい学びの情報は「催しもの・講座情報」や「利用可能な施設内容や利用方法」が多く、情報入手の手段としては「広報つくば」が5割以上で多くなっています。

■これからの「学び」について

- 今後何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたいと「思う」方が8割以上となっています。
- 若者・大人世代は仕事等に関して、高齢世代は健康に関して学びの意欲が高くなっています。
- 学びたい方法としては、「市が行う講座や講習会」、「自宅での学習活動」が多くなっています。
- 学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと考えている割合は4割強にとどまっています。役立てたいと思わない方の理由については、「自己の楽しみや自主学習が目的だから」が最も多く（約6割）、次いで「自身の知識・技術が未熟だと思うから」（3割強）となっています。
- 役立てたい方の生かし方については、「個人の資格等を活用し、職業を通しての社会貢献」と、「ボランティア活動や地域活動等の実践や指導」が多くなっています。

■日頃の生活や、地域のことについて

- 知識を得たり技能が磨かれることへの充実感（幸せ）を感じている方や、誰かの役に立つことへの満足感（幸せ）を感じている方が8割以上となっています。一方、人や地域と関わり、関係性が広がる・深まることへの充実感（幸せ）を感じている方は6割以上となっています。
- コミュニティ・スクールの取組の認知度は「知らない」が約7割となっています。特に、若者世代で認知度が低くなっています。
- 地域学校協働活動への参加については、「活動内容によっては参加したい」が最も多く、次いで「参加したいが難しい」となっています。（参加意向を示している方は3割以上）。

■つくば市の生涯学習について

- 「社会力」の考え方の認知度は、「言葉も考え方も知っている」、「言葉のみ知っている」方が約4割となっています。特に、大人（働き）世代（の内30代）で認知度が低くなっています。
- 「社会力」を高めるアイデアとして、主に地域や多世代間の「交流機会」の創出、市民が「学ぶ機会」や「成果をいかす機会」を増やすといった意見が多くなっています。
- 本市に力をいれて欲しいと思う取組については、「子育てにいかせる学習機会づくり」と「仕事にいかせる学習機会づくり」が多くなっています。
- 自由意見について、若者・大人（働き）世代（10～50代）では、主に「講座・イベント」、「今後取り組みたいこと」についての意見が多く、特に土日開催の講座等を望む声が多くなっています。子育て世代（乳幼児～小学生までのお子さんを持つ方）では、主に「講座・イベント」、「子育て世代のサポート」についての意見が多く、共通して託児サービスや親子で参加できる

機会を望む声が多くなっています。

高齢者の世代（60～80代）では、主に「今後取り組みたいこと」、「情報発信」、「環境づくり」についての意見が多く、情報発信については、発信方法に工夫を求める意見、環境づくりとしては、つながり・高齢者を外出する機会づくりや、知識・成果をいかす場・仕組みを求める声が多くなっています。

②児童生徒アンケート 結果概要

- 現在授業以外での学びがある児童生徒は7割以上で、学習塾やスポーツ関係の習いごとが多い。
- 今後学びたいもの、地域で教わりたいものについてもスポーツ関係は人気。
- 生徒より児童の方が、つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちという意識がある。
- 児童生徒共に地域とのつながりは比較的良好であり、地域のお祭りなどへの参加が多い。

■授業以外の学び（取組）について

- 授業・部活動以外で学んでいることがある児童生徒は共に7割以上となっています。
- その内容は、児童生徒共に「学習塾」と「スポーツ系の習いごと」が多くなっています。
- これから学びたい・取り組みたい内容としては、児童生徒共に「スポーツや健康に関するこ」が最も多くなっています。次いで児童は「工作やDIYに関するこ」、生徒は「音楽や美術、書道、映画など芸術活動に関するこ」が多くなっています。
- 上記を気軽に学ぶ機会があったら「参加したい」が児童生徒共に8割以上となっています。
- 「参加したくない」理由は、児童生徒共に「興味がない・面倒くさい」が最も多く、次いで児童は「時間や余裕がない」、生徒は「学びたいことや取り組みたいことがわからない」となっています。
- つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちだと思うかについては、児童は8割以上、生徒は7割が「思う」と回答しています。

■地域のことについて

- 地域の人とよくあいさつしたり、話をしたりするかについては、児童生徒共に7割以上が「思う」と回答しています。
- 地域の行事やボランティアへの参加については、児童生徒共に「地域のお祭り」や、「地域のゴミ拾いや花植えなどの清掃・美化活動」が多くなっています。
- 地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだ経験の有無については、児童生徒共に「教わったり取り組んだことはない・わからない」が最多となっていますが、教わった内容の中では、児童は「自然や環境に関するこ」や「スポーツなどに関するこ」、生徒は「職業体験に関するこ」や「スポーツなどに関するこ」が多くなっています。
- 今後地域の人から教わってみたいことや、地域でやってみたいことについては、主に「スポーツなどに関するこ」、「伝統芸能・歴史文化に関するこ」が多く、内容としては、地域の「スポーツ大会等」へ参加したい、「地域の歴史や伝統」を知りたい児童生徒が多くなっています。

(2) 市民ワークショップ

あらゆる世代の市民から、本市の生涯学習推進に係る現状や課題、今後の方向性に向けた意向を直接的に聴取することを目的に、市民ワークショップを実施しました。本ワークショップを通して、本市の生涯学習の現状と課題を把握します。

1) 実施概要

本ワークショップでは、ウェルビーイングの実現を目指すため、全体テーマを「“学び”を通して人生を幸せに！ “学び” の成果をいかして地域を豊かに！」と設定し、各回のテーマごとに、一人ひとりの「学びへの想い」を共有し、現状や課題、理想の学びの姿、学びの成果を地域や社会の課題にいかすことなどについて意見交換を行いました。

全体テーマ：“学び”を通して人生を幸せに！ “学び” の成果をいかして地域を豊かに！

回・テーマ	日程	場所	参加者数
第1回 子ども・青少年(大学生)の学び	令和6年(2024年) 11月30日(土)	つくば市役所 203会議室	申込：25名 出席：21名
第2回 大人(子育て世代・社会人)の学び	令和6年(2024年) 12月7日(土)	コリドイオ 大会議室	申込：33名 出席：23名
第3回 高齢者(リタイア後など)の学び	令和6年(2024年) 12月21日(土)	コリドイオ 大会議室	申込：29名 出席：19名

2) 結果概要

第1回 子ども・青少年(大学生)の学び

10歳代～70歳代まで幅広い年代の市民に参加いただき、各年代や所属等の立場からみえる「子ども」の学びについて、多様な御意見をいただきました。



○主な意見○

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（講座・イベント）が豊富

【課題】人材が上手く活用されていない、機会はあるが参加が難しい（時間、アクセス、ハードル、定員）、地域とつながる機会が少ない、情報が手に入らない

⇒【解決のアイデア】ニーズに合ったプログラム、多様な情報発信（見える化）、地域の交流や
体験の機会 ※子どもという点では、学校教育との連携も重要

【学びの成果をいかすアイデア】子どもが企画・発表が行える環境づくり

【理想の姿】子どもも大人も共に学び合いながら、子どもたちが主体的に学ぶことができる姿（みんなで学ぶことが重要との意見） ★頻出キーワード【つながる、輝く、みんな、主体的】



第2回 大人（子育て世代・社会人）の学び

子育て関係者や働く世代の方に多く参加いただき、最も多くの参加人数となりました。「大人」の学びについて、活発な御意見をいただきました。

○主な意見○

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（子育て対象、オンライン）が豊富、地域に特色がある（自然、歴史文化財、科学のまち）、交流の場（地域交流センター等）がある

【課題】人材が上手く活用されていない、機会はあるが参加が難しい（時間、ハードル、子育て中）、生活の中で学びの優先度が低い、人と地域とのつながりが弱い、情報が手に入らない、地域差

⇒ **【解決のアイデア】**人材活用や育成の仕組み、オンラインの活用やニーズに合ったプログラム、地域の人やロールモデルとの交流機会の創出、身近な学びの場、情報発信の強化（見える化）

【学びの成果をいかすアイデア】人と人がつながる機会づくり（マッチングシステム、身近で学び合える場づくり、ロールモデルの活用）

【理想の姿】楽しく学び、多様な人と関わり合いつながりをつくり、成長していく（循環・広がる）

★頻出キーワード【つながる、みんな、多世代、成長、わくわく、楽しむ、幸せ、循環】

第3回 高齢者（リタイア後など）の学び

特にリタイア後の高齢世代の方に多く参加いただき、働く世代等の多世代の方と意見を交わしながら、生涯にわたり能動的に学び続ける「高齢者」の学びについて、御意見をいただきました。



○主な意見○

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（講座・イベント）が豊富、土地が広い

【課題】人材や場（地域交流センター等）が上手く活用されていない、人材についてリタイア前からセカンドライフを支援する仕組みがない、ニーズに合った講座や気軽に体験できる機会がない、高齢男性の外出問題、人とつながる機会が少ない、成果を伝える機会がない、情報が手に入らない

⇒ **【解決のアイデア】**人材活用の仕組みづくり、交流機会などのつながり・たまり場づくり（医療機関等との連携）、公共施設の役割の見直し・活用、情報の一元化

【学びの成果をいかすアイデア】スキルを発表できる機会づくり・人と人がつながる機会づくり（人材活用制度やマイスター制度、サークル活動発表会、ロールモデルの活用、地域交流センターの活用）

【理想の姿】高齢者が楽しみながら学び、生きがいややりがいを感じて、地域の中で活動する姿

★頻出キーワード【多世代、楽しむ、伝える、成長、元気・いきいき、学び合い】

全体を通して
重要な事項
(各テーマ共通)

- 多様な人材を活用するための人材育成及び仕組みづくり
- 学びを通じた交流（つながり）の機会の創出
- ニーズに沿っている・気軽に参加しやすいプログラムづくり
- 情報へのアクセスの向上と魅力ある情報の多様な発信
- 生涯学習関連施設の利便性向上と身近な場所で学べる場づくり
- 学びの成果をいかす機会と環境づくり

資料 1-4 第3次計画における取組状況

(1) 成果指標の達成状況

第3次計画では、計画全般にわたる成果指標及び目標を設定し、各種事業に取り組んできました。目標の達成状況をみると、施策の柱「(1) 多様な学びの実現」と「(2) 誰一人取り残さない生涯学習」において、実績値が目標値を上回り、達成となっています。

成果指標項目	計画時の現況 (令和元年度) (2019 年度)	目標値 (令和6 年度) (2024 年度)	実績値 (令和6 年度) (2024 年度)	※達成 状況
(1) 多様な学びの実現				
生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	78.1%	80.0%	↑ 81.9%	達成
(2) 誰一人取り残さない生涯学習				
実際に学習活動に取り組んだ人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	57.9%	60.0%	↑ 65.0%	達成
(3) 地域で学び合う生涯学習				
地域交流センターの利用者数	506,301 人	520,000 人	↓ 417,191 人	未達 (減少)
(4) 「社会力」を持った人材の育成				
自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	49.6%	60.0%	↓ 44.1%	未達 (微減)
(5) 計画全体の評価				
市の施策のうち、生涯学習に満足／どちらかといえば満足な人の割合 (R6 つくば市民意識調査)	32.8%	40.0%	↓ 31.3%	未達 (微減)

(2) 各年度評価からみる計画の取組状況

第3次計画では毎年度、①各担当課による個別事業の評価（事務事業評価）と②施策の方向性ごとの全体評価を行い、進行管理を図るとともに、その評価の妥当性を「生涯学習推進本部」及び「生涯学習審議会」において審議しています。

なお、令和4年度（2022年度）から評価方法の基準が変更となったため、主に令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）の3か年の評価から計画の取組状況を確認します。

1) 事務事業評価（各担当課評価）

令和4年度（2022年度）からは事業の実施状況と、事業の個別指標の達成状況の2つの観点から評価を行い、その評価を組み合せて事務事業評価の総合評価を行っています。

各年度における総合評価は次表の通りで、全体34事業の評価を実施しています。令和6年度（2024年度）まで、多くの事業は総合評価Aとなっており、S以上の事業も増えていることから、全庁的に生涯学習の取組を着実に実施できていることがうかがえます。

	事業数（全34事業）						
	S	A	B	C	D	E	—
令和4年度（2022年度）	7	15	10	1	1	0	0
令和5年度（2023年度）	8	15	8	2	1	0	0
令和6年度（2024年度）	8	16	6	4	0	0	0

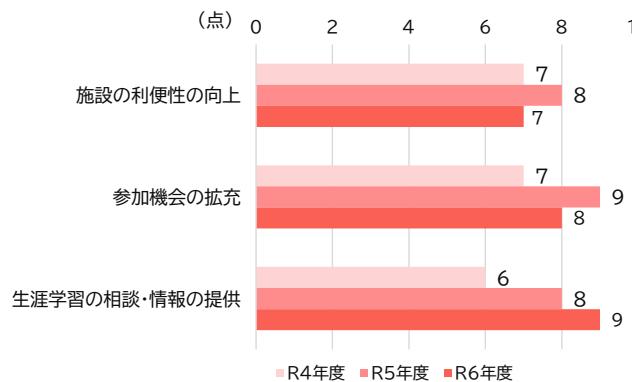
2) 全体評価（施策の方向性ごとの評価）

全体評価は事務事業の総合評価を点数化し、施策の方向性ごとに平均をとって評価を行っています。（10点満点）

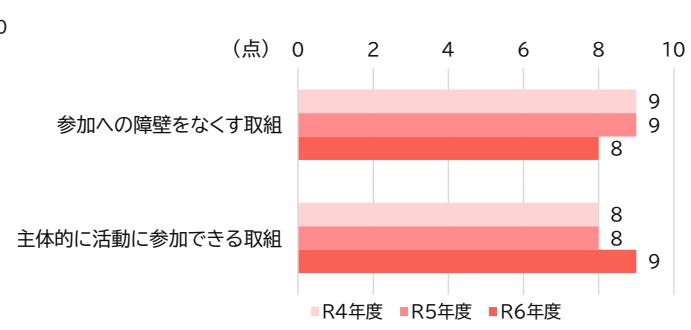
全体評価の推移をみると、概ねの施策の方向性で評価が安定しており、特に、施策の柱「（1）多様な学びの実現」の「生涯学習の相談・情報の提供」で毎年評価が向上しています。一方、「（4）「社会力」を持った人材の育成」の「実践できる人材の育成」では毎年評価が低下しているほか、令和6年度で評価が下がっている方向性もみられます。

■全体評価の推移

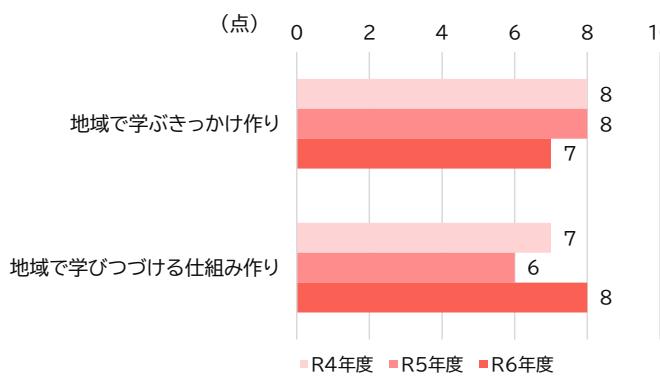
（1）多様な学びの実現



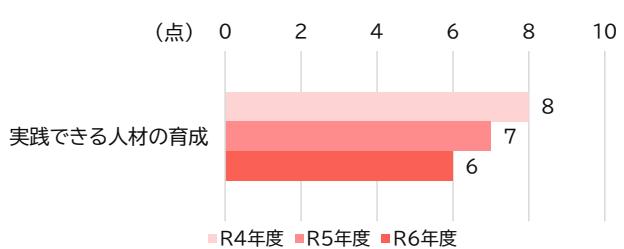
（2）誰一人取り残さない生涯学習



（3）地域で学び合う生涯学習



（4）「社会力」を持った人材の育成



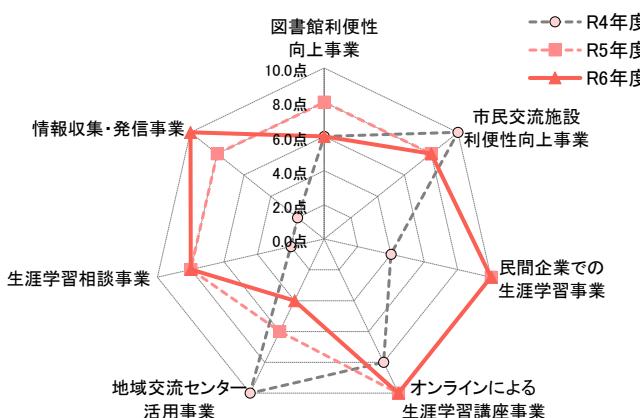
個別事業ごとの評価の推移をみると、特に「(1) 多様な学びの実現」の「民間企業での生涯学習事業」、「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と「(2) 誰一人取り残さない生涯学習」の「障害者スポーツ推進事業」、「(3) 地域で学び合う生涯学習」の「地域交流センター講座等事業」で評価が向上傾向にあります。

その一方で、特に「(1) 多様な学びの実現」の「地域交流センター活用事業」と「(3) 地域で学び合う生涯学習」の「スポーツ教室事業」、「(4) 「社会力」を持った人材の育成」の「地区リーダー勉強会事業」で評価が低下傾向にあります。

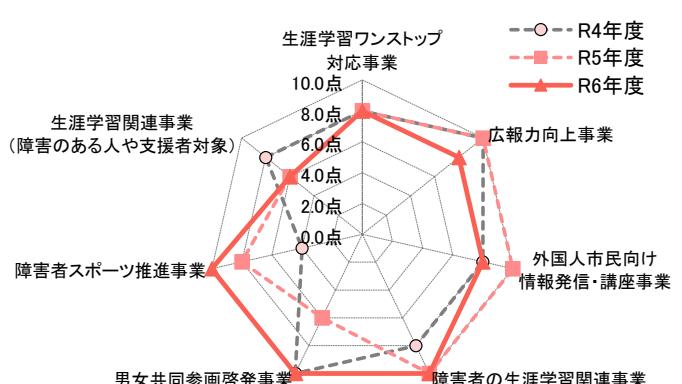
また、施策の柱ごとに位置づけられる事業数に偏りがみられます。

■個別事業ごとの評価の推移

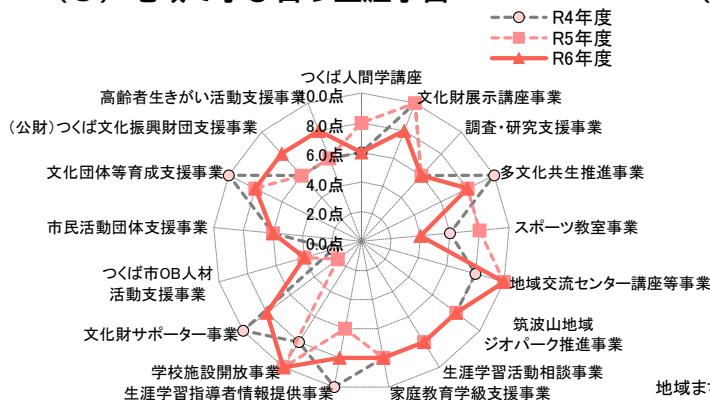
(1) 多様な学びの実現



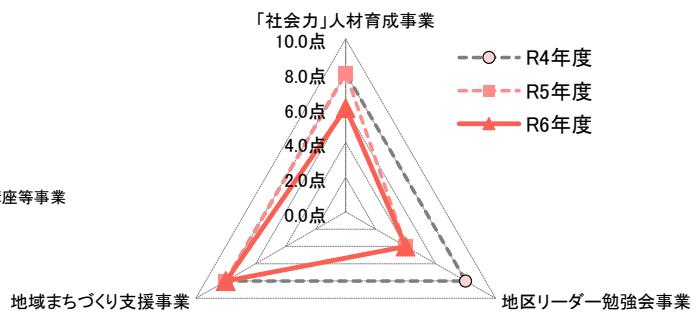
(2) 誰一人取り残さない生涯学習



(3) 地域で学び合う生涯学習



(4) 「社会力」を持った人材の育成



3) 第3次計画の取組状況のまとめ

全体評価でみると一定の成果が上げられており、特に自らの学びを推進する施策については成果が図られつつあります。一方で、「(4) 「社会力」を持った人材の育成」といった、学びの力をいかす施策について評価が低いものもあることや、「(3) 「社会力」を持った人材の育成」では個別事業ごとの評価が極端なものもみられます。

第4次つくば市生涯学習推進基本計画

編集・発行 つくば市 教育局 生涯学習推進課

〒305-8555

茨城県つくば市研究学園一丁目 1 番地 1

TEL:029-883-1111(代表)

第4次 つくば市 生涯学習推進 基本計画(案)

【概要版】

令和8年(2026年) 月

(対象期間)

令和8年度(2026年度)から

令和12年度(2030年度)まで

計画策定の趣旨

計画策定の目的

- 本市では、「つながる 広がる つくばの生涯学習」を基本理念に掲げた「第3次つくば市生涯学習推進基本計画」(以下、「第3次計画」。)を令和3年(2021年)3月に策定し、生涯学習に関する施策を推進してきました。
- この度、第3次計画が最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、市民ニーズや昨今の社会情勢の変化に対応した新たな「第4次つくば市生涯学習推進基本計画」(以下、「第4次計画」。)を策定することとしました。

計画の位置づけ

- 本市の最上位計画である「つくば市未来構想」、「戦略プラン」、教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針である「つくば市教育大綱」(以下、「教育大綱」。)に基づき、生涯学習に関する施策を総合的に推進するための基本計画です。
- 策定にあたり、国・県の生涯学習に関する計画や方針等を踏まえるとともに、本市の生涯学習に関連する各種計画等との整合を図ります。

計画期間

- 計画期間は令和8年度(2026年度)～令和12年度(2030年度)までの5年間とします。

計画の基本的な考え方

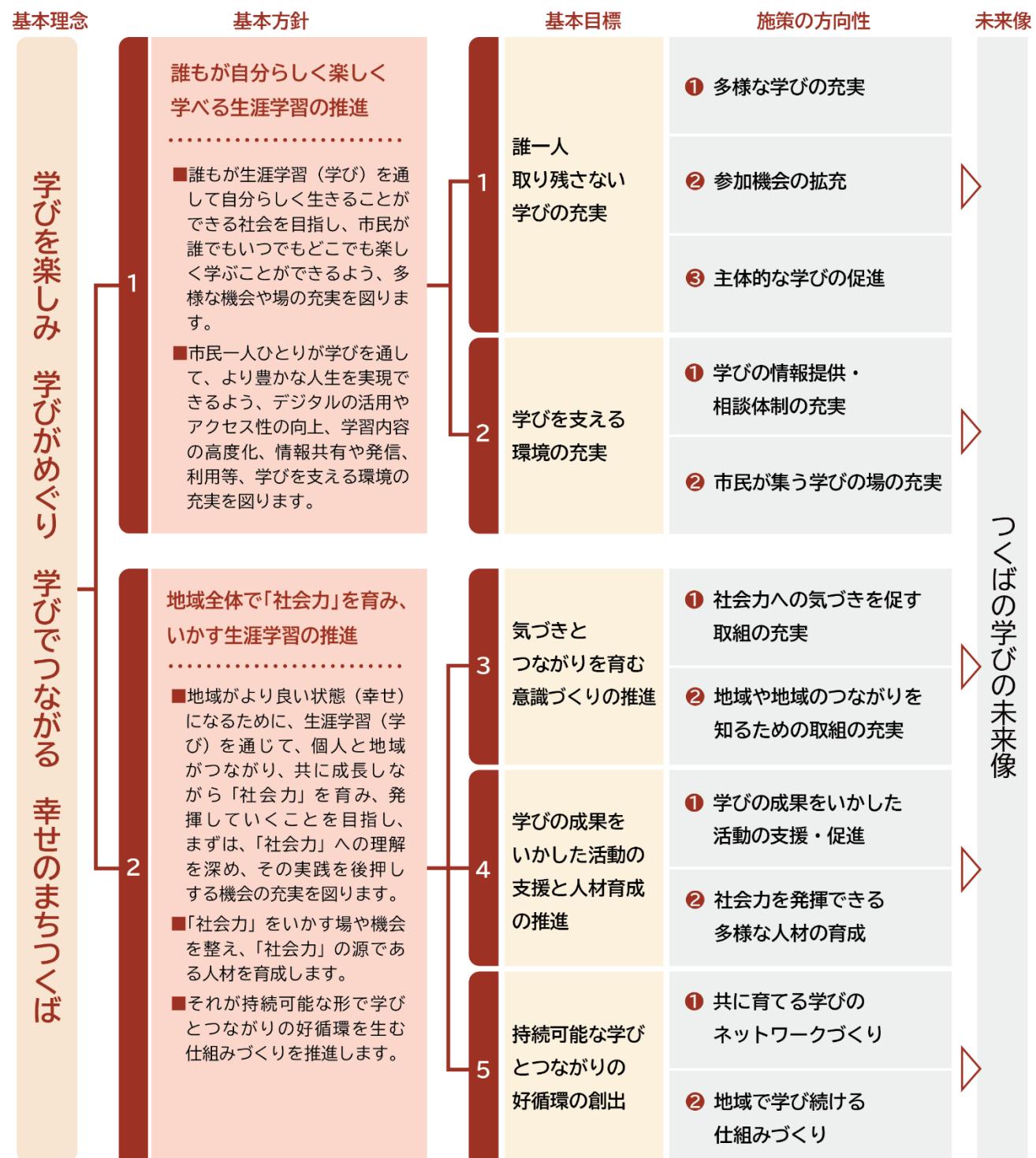
基本理念

- 第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、市民一人ひとりの幸せと地域の好循環を生み出す持続可能なまちをめざし、多様な学びの機会の充実と「社会力」の育成・活用を進めることを目的として、基本理念を次の通り設定します。

学びを楽しみ 学びがめぐり 学びでつながる
幸せのまちつくば

計画の基本的な考え方

計画の体系



施策の展開

■基本方針1と2に対応する5つの基本目標を定めます。さらに基本目標ごとに「施策の方向性」とこれに紐づく「主な取組」を位置づけています。

基本方針1

誰もが自分らしく楽しく学ぶための生涯学習の推進

基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、参加のしやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

施策の方向性	主な取組
①多様な学びの充実	障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサンフェスティバル）の開催、男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー事業、国際交流協会の支援
②参加機会の拡充	地域交流センター等の夜間・休日における学習機会の提供、乳児学級・幼児学級の開催、オンラインによる講座開催
③主体的な学びの促進	地域交流センター等での学級・講座の充実、スポーツ教室の充実、読書推進事業、つくば市域における図書館の連携、生涯学習スタートアップ事業

基本目標2 学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

施策の方向性	主な取組
①学びの情報提供・相談体制の充実	市民活動相談業務、SNSを活用した活動団体の広報、外国人向けイベント情報の発信、生涯学習指導者情報の提供、市職員向けの広報セミナーの実施
②市民が集う学びの場の充実	図書館利便性向上事業、市民交流施設利便性向上事業、学校施設開放事業、若者のための居場所の検討と創出、読書環境の充実と集いの場の創出、つくば科学フェスティバル、つくばちびっ子博士、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサンフェスティバル



基本方針2 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進

社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

施策の方向性	主な取組
①社会力への気づきを促す取組の充実	つくば人間学講座、「社会力」を持った人材の育成講座、青少年体験学習事業
②地域や地域のつながりを知るための取組の充実	多文化共生推進事業、文化財展示講座事業、筑波山地域ジオパーク体験学習・講座、自然環境教育事業、ゼロカーボン教育・啓発事業、出前講座事業、青少年体験学習事業、科学教育事業

基本目標4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

施策の方向性	主な取組
①学びの成果をいかした活動の支援・促進	高齢者生きがい活動支援事業、文化団体等育成支援事業、青少年健全育成活動の支援、つくば市民文化祭の開催、市民活動団体支援事業
②社会力を発揮できる多様な人材の育成	生涯学習指導者情報提供事業、文化財サポーターの育成、地区リーダー勉強会の開催、市民活動支援事業、青少年体験学習事業

基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環するしくみづくりを進めます。

施策の方向性	主な取組
①共に育てる学びのネットワークづくり	地域まちづくり支援事業、つくばSDGsパートナーズ事業、市民活動支援事業、コミュニティ・スクール運営の支援、地域交流センター等講座・学級の充実、大学生・地域ボランティアによる学習支援活動
②地域で学び続ける仕組みづくり	コミュニティ・スクール運営の支援、周辺市街地活性化協議会の運営支援

つくばの学びの未来像 -5人の「未来の物語」-

■本計画では「基本理念」である「学びを楽しみ 学びがめぐり 学びでつながる幸せのまちつくば」を実現するために「基本方針」、「基本目標」を定め、「基本目標」を施策に落とし込んだ「施策の方向性」を位置づけています。「施策の方向性」には「主な取組」を位置づけており、これにより市民の生涯学習活動を支援していきます。

■本市の5年後の未来、「幸せのまちつくば」に向けて、「主な取組」が市民に届き、それが市民の活動へと繋がっていく様子と、そのイメージを「5人の未来の物語」に乗せて示します。

■「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」といった、様々なライフコース、ライフステージにある5人が本市で学んでいる姿を物語として計画書に示しました。本概要版では、その物語の【導入版】を載せています。

5人の未来の物語【完全版】は計画書本編（37p-41p）へ→

QRコード

青少年



高野さん(13歳)

居住歴13年。生まれも育ちもつくば市。現在は市内の中学校に通う中学1年生。両親もつくば市生まれつくば市育ち

小学4年生の夏休み前のある日、児童クラブのスタッフのお姉さんに誘われ、自由研究のヒントを求めて参加した科学教室。
そこには、思いがけない“身近な科学者”との出会いや、地域の人と一緒に作り上げた特別な体験が待っていました。遊びと学びが交差する、私の学びの物語です。



仕事で任されたホームページ更新。そのために受講した一つの講座が、地域との新たなつながりと、思わぬ世界を広げてくれました。
講座で得た知識は、仕事だけでなく地域活動や人との出会いにもつながり、気づけば図書館や公園へ足を運ぶ週末に——。きっかけは、あの日見かけた一枚のポスターでした。

働く世代



横田さん(27歳)

居住歴3年。大学院卒業後、就職を機につくば市に。建築士として市内の企業に勤める。現在は一人暮らし

子育て世代



小林さん(46歳)

居住歴 36年。大学時代・新社会人時代は関西に居住。結婚を機に地元に。夫婦2人+子3人(幼児1、小学生2)の5人暮らし



子どもとの時間を大切にするため選んだ在宅ワーク。でも、次第に感じ始めたのは“人とのつながり”的希薄さでした。そんなある日、保育参観後に見かけた一枚の講座案内。それが、地域との関わりを深め、自分自身の新たな役割を見つけるきっかけに。家族も含めて一歩先に踏み出した、その先にあった様々な人の出会いのストーリーです。



子どもの進学を機につくば市へ転居。新しい職場での戸惑いの中、同僚の声かけで学びの扉が開きました。

精神障害を抱える中で出会った生涯学習講座。オンライン参加から始まり、少しづつ広がっていった世界——。講座=「学び」を重ねるごとに見えてきたものとは。



障害者



田中さん(52歳)

居住歴2年。市内企業勤務。夫婦2人+息子1人(高校3年生)の3人暮らし

高齢者



中村さん(70歳)

居住歴35年。転勤を期につくば市に。現役時代は研究職員として市内企業に勤務。退職後は夫婦2人+犬1匹暮らし

自身の55歳の誕生日の娘の一言と、会社の先輩が定年後にやりがいを見失っている姿を知ったことをきっかけに「セカンドライフを考える講座」を見つけました。

地域とのつながりも殆どなく、退職後的人生に不安を抱えていた私が、長年の経験を地域に生かして、自らが教える立場へ。私の人生を豊かにしてくれた多くのことは。



計画の推進

計画の進行管理と推進体制

(1) 計画の進行管理

本計画では、第4次計画の基本理念を実現するために、基本目標ごとに位置づけている「施策の方向性」を評価の中心的な単位として進行管理を進めることとします。

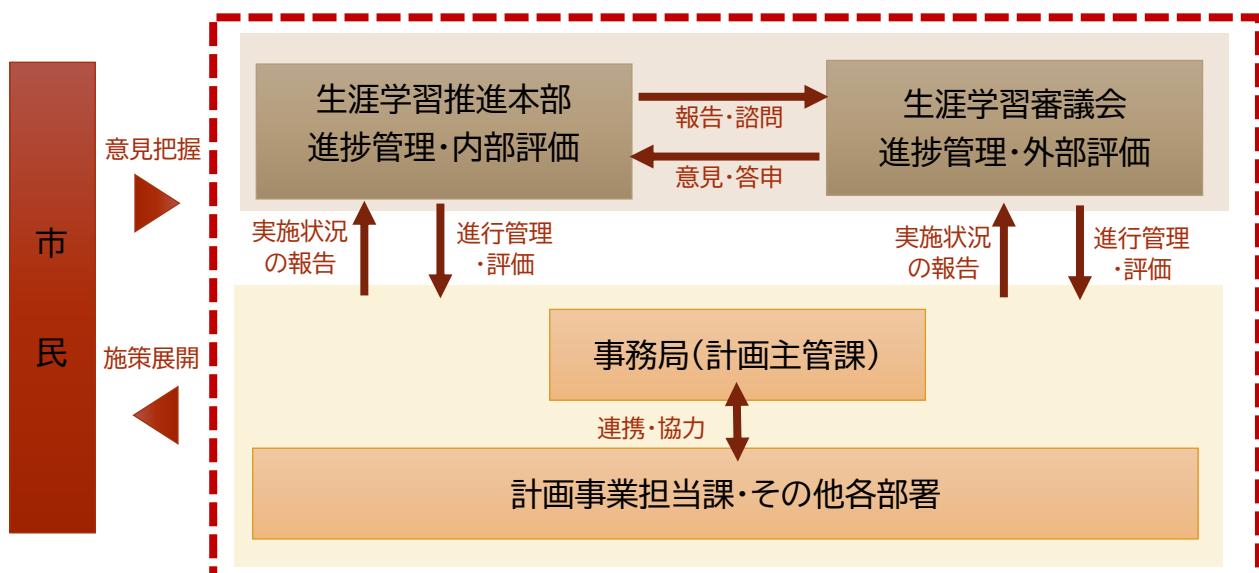
進行管理にあたっては、①成果指標の達成度、②施策の方向性の進捗評価（施策評価）、③主な取組の進捗状況を評価し（事務事業評価）、それらを総合的に踏まえて、基本目標の進捗（政策評価）を行います。評価の結果をもとに、PDCAサイクルによる進行管理を進めます。



(2) 計画の推進体制

本計画の推進体制は、各部長等で構成される「生涯学習推進本部」及び市議会議員、各種団体等の代表者、学識経験者、市民委員から構成される「生涯学習審議会」、そして両会議に実施状況の報告を行う事務局と関係各課で構成するものとします。

また、計画全般の進行管理や評価は、事務局及び関係各課からの実施状況の報告に基づき「生涯学習推進本部」において実施し、「生涯学習審議会」に報告・諮問します。「生涯学習審議会」は諮問を受けて審議を行い、今後の取組の改善にいかしていきます。



第4次つくば市生涯学習推進基本計画【概要版】

令和7年第2回審議会後修正資料への意見一覧

委員・事務局まとめ

※軽微な修正は掲載しておりません。

	第3回 審議会 資料1	該当の文章の位 置	意見・質問内容	対応
武田会 長	P53	施策の方向性1 多様な学びの充 実	<p>「そのため、民間や教育機関など多様な主 体との協働により、生涯学習活動(講座・セ ミナー・自主活動など)に係る支援を推進す るとともに、学びに触れる<u>機会の充実</u>によ り、誰もが参加しやすい学習環境の整備に 努めます。」</p> <p>1文中に「<u>により</u>」が2つ使用されてい るた め、文章を区切るなど、読みやすい文章に。</p>	<p>そのため、民間や教育機関など多様な主 体との協働により、生涯学習活動(講座・ セミナー・自主活動など)に係る支援を 推進するとともに、学びに触れる<u>機会を 充実させることで</u>、誰もが参加しやすい 学習環境の整備に努めます。</p>
黒崎委 員	P55	施策の方向性1学 びの情報提供・相 談体制の充実 4行目	<p>「市民が一元的に情報を得られる仕組みも 検討します。」</p> <p>等の「検討」という表現について、「推進」や 「目指す」といった言葉にすることで、より 前向きで強い意思が示せるかと思います。</p>	<p>市民が一元的に情報を得られる仕組み仕 組みづくりを<u>進めます</u></p>

	第3回 審議会 資料1	該当の文章の位 置	意見・質問内容	対応
溝上委 員	P55	施策の方向性2 市民が集う学び の場の充実 主な取組	「若者のための居場所の検討」 確かに「今後検討する若者の居場所」では あるが、このままでは「検討した」ことが成 果になってしまう可能性があるのではないか。 「若者のための居場所の検討と創出」に 修正できないか。	若者のための居場所の検討と創出
事務局	P66	2段目6行目	「親子で学ぶ宇宙センター(JAXA)見学ツ アー」に行ったり、	夏休みのつくばちびっ子博士で研究所や 施設を見学したり、
事務局	P66	3段目2行目	豊里地区の空き地を使った	近くの空き地を使った
事務局	P67	1段目5行目	大穂交流センター	地域交流センター

	第3回 審議会 資料1	該当の文章の位 置	意見・質問内容	対応
事務局	P69	2段目下から3行 目	市では障害の種類に沿った	障害の種類や程度に沿った
田 中 (秀)委 員			私の意見の内容は、皆様にかなり理解いた だき、修正案に十分な配慮をいただいてい ることがわかります。基本理念の文言、マルチ・ステージモデルの追加及び高齢者の ストーリーの改善 いずれも私にとって満 足できるものでありました。ありがとうございました。なお、つくば市の特徴として、 リタイア前後の学びについての検討は、今 後よろしくお願ひします。	

第4次計画 成果指標について

- ・第3次計画の成果指標を継承しつつ、第4次計画では、社会力を育み学びの成果を社会・地域にいかすことを強化したいので、社会力の推進に関する評価を追加しました。(3次から引き続き:1、2、3、7 新規:4、5、6)
- ・基本目標ごとの評価は、進捗評価を毎年実施するので、計画全体の成果指標としては、基本方針レベルの達成度評価にしたいと考え、基本方針の2つに沿った成果指標にまとめています。基本方針レベルにすることによって、生涯学習に対して市民がどのような意識を持ってほしいかという狙いが明確になります。

	成果指標	現況値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	<u>指標を用いる理由・狙い</u>
基本方針 1				
1	生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	81.9%	85%	・第3次の目標値は達成されている(78.1%→81.9%)が、引き続き生涯学習に取り組んでみたいと思う人を増やしていきたい
2	実際に取り組んだ人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	65.0%	70%	・第3次の目標値は達成されている(57.9%→65.0%)が、成果指標1の取り組んでみたいと81.9%の人が思っていても、実際に取り組んだ人は 65.0%にとどまっており、16.9%の差がある。取り組んでみたいと思っていても取り組めていない状況があるということ。実際に取り組んだ人が増加すれば、きっかけの提供や環境整備の施策に対しての効果があったという評価になる。

基本方針 2				
3	自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	44.1%	50%	・第3次策定時の現況値よりも下がってしまった(49.6%→44.1%)。社会に貢献したい人を増やしたい。
4	学びの成果をどのようにいかしいるか、いかせると思うか、の質問で「地域や社会での活動にいかしている(いかせる)」を選択した人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	13.8%	20%	・そもそも、自分の学びの成果が地域や社会での活動にいかせると思う人が少ない(R6 アンケートでは13.8%)。学びと地域や社会での活動がつながっていないのではないか。地域や社会での活動にいかそうと思う人が増加すれば、施策の効果があったと言えるのではないか。
5	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童・生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	79.5%	85%	・次世代のリーダーとなるために、子ども・青少年の時期から地域や社会に关心を持つてもらいたい。
6	地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことがある児童生徒の割合(学校の授業、課外授業での体験なども含む。塾や習い事は除く。) (生涯学習に関する児童生徒WEBアンケート)	54.5%	60%	・地域の人から何かを教わることや一緒に何かに取り組む活動が活発になっている結果となれば、第4次計画の考え方の核となる世代間の交流や地域とのつながりを生む施策の効果があったと言えるのではないか。
計画全体の評価				
7	市の政策のうち、生涯学習に満足・どちらかといえば満足な人の割合 (つくば市民意識調査)	31.3%	40%	・第3次策定時の現況値よりも下がってしまった(32.8%→31.3%)。計画全体の評価として必要な指標。

(設置)

第1条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

(1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項

(2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

(1) 市議会議員

(2) 各種団体等の代表者

(3) 学識経験者

(4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者

(平9条例43・平30条例29・一部改正)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 前条第2項第1号又は第2号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平9条例43・一部改正)

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平9条例43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。

つくば市生涯学習審議会委員

任期:令和6年8月1日～令和8年7月31日

※令和7年(2025年)6月9日現在

No.	氏名	よみ	任命区分
1	石川 由美子	いしかわ ゆみこ	市民委員
2	石塚 一夫	いしづか かずお	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長
3	石原 亜矢子	いしはら あやこ	各種団体等の代表者 つくば市学校長会(つくば市立要小学校 校長)
4	黒崎 博	くろさき ひろし	市民委員
5	後藤 真紀	ごとう まき	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 会長
6	小森谷 さやか	こもりや さやか	市議会議員
7	鈴木 朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとん 代表理事
8	武田 直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人フュージョン社会力創造パートナーズ 理事長
9	田中 秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長
10	田中 依子	たなか よりこ	市民委員
11	中嶋 修	なかじま おさむ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 副会長
12	長橋 進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 顧問
13	萩原 武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会 会長
14	福井 正人	ふくい まさと	市民委員
15	溝上 智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 国士館大学 特任教授
16	山崎 誠治	やまざき せいじ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会 推進チーム チーム長

敬称略、50音順

※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項

委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの